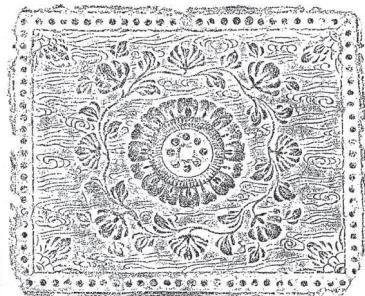


# 九 州 歷 史 資 料 館 年 報

平成 28 年度



九 州 歷 史 資 料 館



## はじめに

九州歴史資料館は、古くから中国大陸、朝鮮半島など对外交流の窓口としての役割を果たしてきた九州の歴史を明らかにすべく、大宰府及び関連遺跡の発掘調査・研究を行ってきました。また、古文書、美術工芸品や考古資料等の収集・保管及び調査を行い、併せてその成果を一般に展示、公開してまいりました。

平成23年度からは組織規則の改正に伴い、福岡県教育庁総務部文化財保護課で実施してきた埋蔵文化財の発掘調査業務を当館に移管し、発掘から報告書作成までの一連の作業を集中して行うことで、より効率的な業務の遂行を図っています。

この年報は、当館が平成28年度に実施した調査・研究活動と事業の概要を報告するものです。

発掘調査については、大宰府史跡の第9次5ヶ年計画の最終年次にあたり、政庁周辺官衙跡のうち蔵司地区についての調査を行いました。また、県営ダムの建設や工業用地造成に関わる発掘調査も行いました。

展示については、常設展示のほか特別展示「八女の名宝」及び企画展示やパネル展示、特集展示を多数開催いたしました。

普及事業については、広く一般に受講者を募った「九歴講座」・「名譽館長講座」・「九歴ゼミ」・「タベのギャラリートーク」や各講演会等の開催、その他学習支援、出前講座・イベント及びボランティアを中心とした体験活動を展開しました。これらの事業により歴史資料館としての活性化を図るとともに、文化財愛護思想の普及に努めているところです。

当館は、九州の文化財の調査・研究の拠点として活動するとともに、より一層県民に親しまれる身近な資料館づくりに邁進いたします。今後とも皆様方のご支援をお願いしますとともに、当館を御利用願いたいと考えております。

この年報が多くの方々に御活用いただければ幸いに存じます。

平成29年7月

九州歴史資料館長

杉光誠

## 目 次

1 事 業 概 要 .....	1
(1) 調 査・研 究 .....	1
(2) 展 示 .....	18
(3) 資 料 利 用 .....	29
(4) 学習支援・博学連携 .....	37
(5) ボランティア .....	43
(6) 普及・活用事業 .....	46
(7) 広 報 活 動 .....	57
(8) 実習・研修 .....	59
(9) 刊 行 物 .....	60
(10) 交 流 事 業 .....	61
(11) 協 議 会 等 .....	62
2 九 州 歷 史 資 料 館 概 要 .....	63
(1) 沿 革 .....	63
(2) 施 設 概 要 .....	64
(3) 予 算 .....	65
(4) 組 織・職 員 .....	66
(5) 関 係 法 規 .....	67
3 諸 統 計 .....	73
(1) 入 館 者 状 況 .....	73
(2) 収 藏 資 料・図 書 .....	73
4 日 誌 抄 .....	74

# 1 事 業 概 要

## (1) 調査・研究

### 【学芸調査室学芸研究班】

#### ◎美術工芸資料に関する調査研究

造形遺品を対象として調査研究を進めている。対象としているのは、仏像や仏画などのいわゆる仏教美術が主であり、時代としても古代から中世にかけてが主となっているが、その他の絵画や工芸品にまで配りをするように、そして時代としても近世以降も対象とするように心掛けている。このような調査研究を通して、九州や現在の福岡県域が、わが国の歴史の中で、また東アジアの歴史の中で、どのような特色をもち、どのような役割を果たしてきたのか、その一面を明らかにするべく努めている。

#### ○主要寺社の調査研究

造形遺品が集中する場として、寺社が挙げられる。そこで、地域の歴史において中核的な役割を果してきた寺社をとり上げ、そこに伝えられている造形遺品を中心とした文化財を悉皆的に調査して、当該寺社を総体として捉え、さらにはそれを通じて地域の特色を把握できればと考えて、主要寺社の調査を行ってきた。今後は加えて、ある特定の寺社のみならず、特定の地域の造形遺品について集中的に調査を行い、その地域の特色を浮かび上がらせる試みなども、行っていくことにしている。

28年度は、九州を代表する霊山の一つである英彦山の、国史跡指定へ向けた調査が一段落したため、その調査成果を広く共有するための特別展を開催するべく準備を進めた。なお英彦山は、平成29年2月9日に国指定史跡となっている。英彦山における文化財調査については、平成22年度から平成26年度にかけて行われたものであるが、美術工芸関係については、九州歴史資料館は24年度後半から26年度にかけて、仏像や神像等の尊像を中心に行い、27年度に若干の補足調査を行ったものである。その成果は、『英彦山総合調査報告書』(添田町・2016年)にて報告したが、報告書は一般に限られた人々の目にしか触れないものであるために、成果を目に見える形で広く共有するために特別展を開催することとしたものである。特別展については、会期を平成29年8月5日から9月24日までと定め、英彦山神宮、添田町、添田町教育委員会の共催をうけて行うこととなった。

なお、英彦山については、平安時代後期にはすでに大きな力を持っていたことが明らかでありながら、平安時代に遡る尊像が皆無であることが明らかになっている。その背景については今後の課題である。今回はゆかりの深い山の平安時代後期の尊像を展示に組み入れることで、英彦山の平安時代後期を偲ぶこととし、英彦山六峰を中心とする山々の様相の調査を進めた。また英彦山への信仰は、九州一円から山口にまで延び



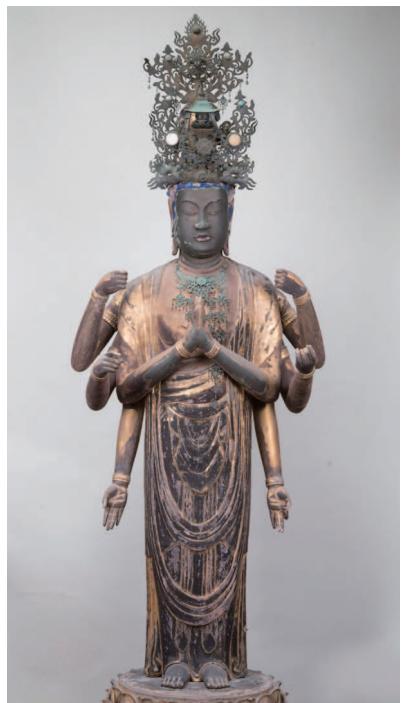
天忍穗耳命像

ており、ゆかりの文化財もその範囲に広く存在している。これらについての情報収集や一部実査も行った。

#### ○寺社及び個人所蔵作品の調査研究等

地誌をはじめとする各種史資料、各市町村の文化財担当や、研究者等から得られた情報を元にした調査も行っている。そのような調査の中から 2、3 を紹介しておく。まずは朝日寺の観音堂の、不空羈索觀音立像の調査である。朝日寺は、臨済宗妙心寺派の寺院で、山号は夜明山。筑後川中流域、その支流の広川を少し遡った、福岡県久留米市大善寺町夜明に所在している。開山は入宋僧の神子栄尊。寺が開かれたのは寛元 3 年（1245）だと伝えられている。この寺については、福岡県指定文化財である、嘉元 2 年（1304）に造像された、開山の神子栄尊像をはじめとする本堂安置の諸像については、平成 26 年度に本堂建て替えに伴い当館に一時受け入れをし、その際に既に調査を行っていた。ただこの寺には、観音堂に、2 m 半ば前後の大きな觀音立像が 3・安置されており、これらは、鎌倉時代の作例であるとして言及してきたところであった。ただ巨像ゆえに、これまで精査を行う機会はなかった。そのような中、先の熊本地震において、筑後地域でも文化財の被害はおき、朝日寺の観音堂においても、中尊の不空羈索觀音立像の台座が破損して、像が倒壊する危険が生じた。このことに関しては、当該像が久留米市指定文化財であるために、久留米市の文化財担当を要としつつ、関係者で協議を行い対策を練った。結果、不空羈索觀音立像を堂内に寝かせた上で、台座は浦仏刻所が工房に運んで応急修理をすることになった。そして事が成り、再び像を安置をするに際して、写真撮影をはじめとする調査を行ったものである。不空羈索觀音立像は、像高 219.6 cm、3 軀の觀音像の中では最も小さく、そして最も制作時期が早くて、13 世紀前半の当地周辺地域における造像であろうと推定された。神子栄尊の周辺や筑後地域の鎌倉時代を考えてゆく上で、重要な像であると考えられ、今後検討と関連調査を進めていくことにしたい。

28 年度に諫早市教育委員会の依頼のもとに調査を行った、長崎県諫早市の多良岳に構える金泉寺の、秘仏本尊である不動三尊像については、調書の作成と写真の撮影は既に行っていた所であったが、その後、長崎県指定文化財候補となり、再度長崎県より調査と所見を求められたためにこれを行い、それによりながら当該尊像は長崎県指定文化財となった。昨年度の年報にも紹介したがあらためて概要を記しておくと以下の通りである。不動三尊像のうちの不動明王立像と制多迦童子立像は、平安時代後期の作である。忿怒の相をもちながら、円満でおおらかな様子をしているのは、この時代一般の特徴だと言えるが、同時にこの 2 像は、通常の仏像とは異質な様子も見せている。彫刻は総じ



不空羈索觀音像



不空羈索觀音像

て神像を思わせる簡潔さがあり、そして両像は共に、部分的に意図的に鑿痕をのこしたいわゆる鉈彫り像の作例であって、不動明王立像などはウロのある材を用いるなど、靈木信仰や神祇信仰との関係が窺える古像である。またこれらの尊像については、九州山岳靈場遺跡研究会主催、九州歴史資料館、諫早市共催の第6回九州山岳靈場遺跡研究会においてその意義を報告している。その際、諫早市の文化財担当と、諫早市における仏教美術調査の重要性について認識を共有するに至り、まずは少しづつ確認調査を始めている。平安時代後期の複数の神将形像や、中国・明代の傅大士像など、すでにいくつかの興味深い作例の存在が確認できているところである。

### ○九州に偏在する中国系彫刻の調査研究

26年度より、九州に偏在している明時代以前の彫刻についての調査を始めている。奈良時代以降の日本の彫刻への影響を考える上で重要な存在でありながら、これまで必ずしも進んでいなかつた中国系彫刻の調査を前進させ、より具体的に九州の彫刻への大陸からの影響や、日本彫刻史における大陸からの影響を考える上での有用な基盤を形成するために、このような調査に着手したものである。調査は木彫像にとどまらず、九州西側にのみ存在する中国製石塔である薩摩塔に刻まれた5<sup>丁</sup>の尊像、また中国製石造物である宋風獅子までを対象としている。28年度については、引き続き薩摩塔とそこに刻まれた尊像を中心に調査を進め、その成果については、久山町と共同で開催した国際シンポジウム「中世の福岡平野から見る東アジア一首羅山と造形遺品を中心に一」においても発表した。また調査と検討を進めてきた山口県長門市の三隅熊野権現社の宋風獅子については、造形の分析と伝承の検討から、応永年間に中国人商人の慶載が奉納したものと結論づけた。このことについては、当館の研究論集に報告しているので参照していただきたい。

### ○文化財の保護活動

当館では、現地での保管が困難ないしは危険であり、かつ当面所在地を離れても、地域の信仰文化に深刻な影響を与えることはないと判断される、文化財としての意義をもった仏像や神像、仏画等々について受け入れを行っている。この際は、緊急避難を受け入れた上で、地元の環境を整えることに協力し、整えば極力再び地元で保管するということを、理想の形として心掛けている。また、県指定文化財を安置する堂宇や収蔵庫の建て替え等に伴う一時保管も行うことがある。そのような中で最も昨年度規模が大きかった受入れは、福岡市美術館が2016年9月1日から2019年3月まで、リニューアルに伴う工事を行うために、東光院の仏像を中心とし、近代の彫刻までを含んだ、彫刻を主とする美術工芸品の数々である。これらについては、一時的に保管をすると共に、一部にせよ折にふれ展示も行っている。その他、柳川市の依頼により、堂宇改築に伴う地福寺の阿弥陀三尊像を中心とする諸像の一時受け入れも行っている。



宋風獅子（阿形）



宋風獅子（吽形）

## ◎考古基準資料調査

### ○県内山岳靈場遺跡の調査

28年度は県内の山岳靈場遺跡のうち、25年度から継続して行ってきた背振山系の山岳靈場遺跡調査については、若干の補足調査を行い、『背振山系の山岳信仰－背振山系山岳信仰・靈場遺跡現地調査報告書一』を刊行した。また、28年度からは新規に福岡県京都郡苅田町の等覚寺関連の遺跡の調査を開始した。具体的には、内尾薬師および窟、青龍窟の現地確認及び測量調査である。29年度以降も調査を継続するため、詳細については今後報告していく予定である。

### ○福岡県中近世城館遺跡詳等細分布調査

福岡県には、中世から近世初頭、特に戦国時代には大名や在地領主によって、各地に1,000箇所を超える多くの城館が築かれた。これらの城館については各種開発事業の対象となる事例も増加しており、事業の必要性からやむを得ず記録保存の対象となったりする事例が増加している。

こうした現状に対し、県教育庁総務部文化財保護課が、文化庁の国庫補助事業において24年度より県内に所在するすべての中近世城館遺跡を対象に、総合的な緊急分布調査を約5か年かけて行うこととなった。当該事業の調査担当として、学芸研究班学芸員2名が調査にあたっている。27～28年度にかけては筑後地域を対象として、既存資料の把握・整理さらに追加調査を行い、28年度末に、筑後地域を報告対象とした『福岡県の中近世城館遺跡IV－筑後地域・総括編一』(福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査報告書4)を県教育委員会より刊行した。本事業は28年度をもって完了したため、同書には、本事業の総括、ならびに附編として、「福岡県の近世台場・遠見番所・烽火台跡」についても報告している。

また、同事業において福岡県と熊本県の県境付近の熊本県側に所在する坂本城(熊本県玉名郡和水町)についても現地調査を行ったが、遺跡自体が全て熊本県内に所在することが判明したため、上記報告書には掲載せず、28年度に刊行した『九州歴史資料館研究論集42』に「資料紹介 熊本県玉名郡和水町坂本城－熊本県北地域における畝状空堀群を有する中世城郭の事例一」として報告した。

### ○考古資料の受け入れ

個人の方から勾玉1点の寄贈の申し出があったため、3月24日に受け入れを行い、当館の考古資料となった。

また、他班職員の担当ではあるが、考古資料に関して、以下の研究についても行った。

### ○九州島における石材産地と石刃技法の成立に関する研究

本研究は、平成25年度から継続して行ってきたが、28年度は、明治大学所蔵の平沢良遺跡資料の調査を行い、研究協力者の長崎県埋蔵文化財センターの川道寛氏と共に蛍光X線装置による黒曜石原産地の分析を進めた。そして、研究協力者と共にこれまでの成果をまとめた報告書を作成した。

### ○出土陶硯の調査研究

本研究は、『大宰府政庁周辺官衙跡』の正式報告書刊行業務の一環として、資料の抽出を行っている。抽出した資料は、『大宰府政庁周辺官衙跡IX－大楠地区総括・図版編－』に掲載した。

また、企画展として、「大宰府の役人と文房具」(会期：平成28年11月23日～平成29年1月15日)を開催すると共に、企画展図録を刊行し、調査研究成果を公開した。

### ○手書き遺構実測図のCADデータ化作業と遺構分布の空間分析

本研究は、大宰府政庁跡及び周辺官衙跡の手書き遺構実測図（デジタル画像）を基に CAD データを作成し、デジタルデータ上で遺構や遺構間の計測をし、遺構分布の空間分析を行うものである。27 年度から基礎資料となる遺構平面図のデジタル画像を整理し、CAD データの蓄積に努めており、29 年度まで実施する予定である。

### ◎文書・典籍資料の調査研究

当館では、古代から近現代におよぶ各時代の古文書・典籍資料のほか、出土文字資料や写真・映像資料など、広く記録資料を対象として、福岡県域そして九州の歴史的な役割・特質を明らかにすべく、調査研究活動を行っている。

### ○出土文字資料の調査研究

出土文字資料の調査研究としては、大宰府史跡出土木簡について、将来における文化財指定に備えて、削り屑の現物と記帳ノートの照合作業や、水漬け木簡の状態確認と調書作成を行った。さらに、大野城跡太宰府口城門跡出土柱根の刻書について再検討を行い、成果を『研究論集』に報告した。

また、27 年度から、文化財調査室（28 年度から学芸調査室）保存管理班と連携しつつ、木簡による大宰府の西海道統治の実態に関する研究を進めており、大宰府に関連が深い木簡を所蔵する機関に赴いての調査を実施した。28 年度は平城宮跡出土の西海道木簡を調査している。

ほかに柳川市本町遺跡出土木簡（27 年度年報に赤外線写真掲載）をはじめとして、県内の出土文字資料について、赤外線カメラや赤外線スキャナーを用いて文字の解読を行った。

### ○福岡県史編纂史料等の調査研究

福岡県史編纂史料は、22 年度の当館の移転開館に伴い、新たに収蔵した約 15 万点の史料群である。移管後は、閲覧・レファレンスのほか、未整理史料の整理を引き続き実施し、一方で展示への活用や調査研究も積極的に行っている。28 年度は、このうち永江文書にみえる九州初の鉄道を開業させた九州鉄道（明治 20～40 年）の関連史料について調査し、『研究論集』で紹介した。このほか、筑豊工業高校資料、太田静六資料等の館蔵資料についても、引き続き調査研究・整理作業に努めている。

### ○県内所在資料の調査研究

平成 24 年度より、福岡県中近世城郭遺跡等詳細分布調査として、関係文献資料調査を実施している。これらは既刊行政史料の集成が主な作業内容になるが、県下全域における中世～近世初頭の史料を対象として、網羅的に実施するものであり、大きな意義を持つ調査である。28 年度は主として福岡県内の筑後地域（御原郡・御井郡・三潴郡・山本郡・竹野郡・生葉郡・上妻郡・下妻郡・山門郡・三池郡）を対象を行い、その成果は福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査報告書 4 『福岡県の中近世城館跡 IV－筑後地域・総括編一』に一覧として収載している。また筑前地域と豊後地域の補遺と、附として福岡県の近世台場・遠見番所・烽火台跡の一覧も集成して掲載した。総括編には、文献担当として「福岡県の中近世城館の歴史的概観」を執筆している。この報告書の刊行をもって本事業は終了となった。

この他、26 年度から古代都市大宰府の構造と機能、その時代的変遷を明らかにするため、出土文字資料をはじめとする特殊遺物の集成や近世の絵図および明治期の地籍図の調査を行い、既存の大宰府条



保存溶液に漬けて保管中の木簡

坊案との照合を進めている。その成果の一部は、第37回企画展「太宰府の役人と文房具」で紹介した。

### [学芸調査室保存管理班]

#### ○文化財の保存処置

#### ○木製遺物の保存処理

木製遺物の保存処理は、含水率の測定や樹種同定などの事前調査、トレハロース含浸による強化処置、強化処置後の余分な薬剤を除去する表面処理といった工程で行っている。28年度は、4遺跡115点の保存処理を行った。

#### ○金属製遺物の保存処理

金属製遺物の保存処理は、X線CTスキャナや蛍光X線分析装置などの事前調査、土砂や錆を除去するクリーニング、腐食促進因子を除去する脱塩処理、合成樹脂含浸による強化処置といった工程で行っている。28年度は9遺跡241点の保存処理を行った。

#### ○美術工芸・古文書・典籍・歴史資料に対する保存処理

美術工芸・古文書等の保存処置について、現状では文化財の有害生物を対象に、資料への被害状況、劣化状況等の保存状態調査を経て、資料に対して適切な処置を行っている。

今年度は、有害生物の被害がみられたとして、久留米市、太宰府市、甘木歴史資料館、求菩提資料館および当館受け入れ資料について、処置を行った。

#### ○館内の保存環境整備に関する取り組み

年間をつうじて、第一展示室、特別収蔵庫各室の温湿度測定や空調設備の制御状況の確認、特別収蔵庫周辺の有害生物監視を継続的に行つた。今後も、文化財に対する有害生物をできる限り軽減させ、適切な環境のもと、保存できるよう測定や監視等の取り組みを継続する。

#### ○各種文化財の保存対策

資料の保存環境を整備するため、22年度から関係部署と共に、温湿度等の保存環境調査を行っている。今年度、作業を行つたのは、求菩提資料館展示室、福智町教委収蔵庫等であり、それぞれ収蔵庫内外に測定地点を定めデータロガを設置、数ヶ月おきにデータ収集と定期点検を行つた。調査により、年間の温湿度挙動を把握を行い、適切な保存環境整備に向けた取り組みの計画・立案を行つてはいる。

#### ○各種文化財の科学的調査

28年度の外部機関に基づく科学的調査は以下のとおりである。

	依頼機関	調査資料	使用機器	依頼日
1	大野城市教育委員会	善一田・古野遺跡出土鉄製品	X線CTスキャナ 蛍光X線分析	H28.6.14
2	粕屋町教育委員会	阿恵遺跡出土木製品	赤外線スキャナ	7.13
3	豊前市教育委員会	中村ヒバル遺跡出土鉄・石製品	X線CTスキャナ 蛍光X線分析	7.27
4	別府大学	門田敦盛古墳出土鉄製品	X線CTスキャナ	9.8
5	春日市教育委員会	須玖岡本遺跡出土青銅製品	X線CTスキャナ	9.16
6	粕屋町教育委員会	戸原寺田遺跡出土鉄製品	X線CTスキャナ 蛍光X線分析	12.12
7	平戸市生月町博物館・島の館	木製品・金属製品	蛍光X線分析	12.21

8	菊池市教育委員会	木柑子古墳出土鉄製品	X線CTスキャナ	H29.3.6
---	----------	------------	----------	---------

上記のほか、館内資料については、隨時、科学的調査を実施している。

#### ○外部機関への協力・研修など

九州国立博物館において開催された、みんなでまもるミュージアムみんなでまもる文化財事業、福岡市元岡 G6 号墳出土庚寅銘大刀調査委員会、春日市文化財専門委員会、(一社) 文化財保存修復学会災害調査部会に委員として出席した。

また、博物館等の保存施設新築、改築に関して、八女市教育委員会、朝倉市教育委員会、大野城市教育委員会、福津市教育委員会からの相談に対応した。その他、保存処置、保存環境をはじめとする文化財保存に関する外部機関からの相談に隨時対応している。

#### ○船原古墳出土資料に関する共同研究

平成 24 年度に発見され、その後、遺物の取り上げ作業や X 線 CT 調査等の支援を行った古賀市船原古墳遺物埋納坑出土遺物について、平成 26 年度より、古賀市教育委員会と当館との間で協定を締結し、科学的調査や保存処置に関する共同研究を開始している。

今年度は、これまで撮影した CT データの解析を進め、現状における遺物の形状や数量等を抽出し、出土位置との照合を行い、全容を把握する作業を行った。また、遺物の科学的調査、馬冑、鉄釘、鉄製農工具、ガラス装飾付金銅製辻金具・雲珠のクリーニング作業を行った。



クリーニングを終えた馬冑（左）とガラス装飾付金銅製辻金具（右）

#### ○熊本地震による被災文化財救援への協力

28 年 4 月に発生した熊本地震では、熊本城をはじめ多くの文化財が被災した。これらのレスキュー活動を、熊本県、独立行政法人国立文化財機構、筑波大学の要請により、学芸研究班、文化財調査班および当班職員、延べ 21 名を派遣し、支援を行った。具体的な支援内容は以下のとおりである。

##### （1）熊本県内市町村指定文化財の被害状況調査への協力

市町村では文化財専門職員が配置されていても、避難所対応等の業務により、文化財の被災対応業務に支障が生じる。そこで、市町村の指定文化財がどのような被害を受けたのか、主に宇城市、益城町にて彫刻の状況調査に協力した。調査によりレスキューや修復の計画立案につながった。

##### （2）被災した文化財のレスキュー活動への協力

倒壊、損壊した寺社や商家等から被災文化財の救出、一時保管施設への避難および整理、劣化、損傷

等の応急処置といった活動である。対象文化財は瓦礫に埋もれ、かつ風雨を受け、汚損、損傷しており、対応は急務である。支援した活動は、熊本市内の商家等でレスキューした民具や絵画、工芸作品の資料台帳作成、湿気を帯びた作品の風乾や、劣化因子として最も危惧されるカビの応急的除去、不活性化処置を行った。



カビの不活性化処置作業風景

### 【文化財調査室文化財調査班】

文化財調査班の主たる業務は国の機関及び県事業に関わる発掘調査および報告書作成等である。

28年度の発掘調査は、祓川総合開発事業(伊良原ダム建設)2件、街路事業1件の事業に対応したほか、福岡県企業局の主体事業である久留米・うきは工業用地造成事業にかかる試掘調査の一部を久留米市への支援として行った。このうち伊良原ダムは29年度に竣工が予定されており、18年度より実施してきた発掘調査が28年度をもって完了した。また、久留米・うきは工業用地造成事業については、広大な面積の造成が30年度上半期に予定されており、うち埋蔵文化財が存在する5haについて28年度後半から発掘調査に着手している。

報告書は、伊良原ダム建設関係3冊、五ヶ山ダム建設関係1冊、県道関係1冊の計5冊を刊行した。このうち五ヶ山ダム建設関係については28年度の報告書刊行をもって埋蔵文化財関連事業を完了した。

以下、28年度に実施した発掘調査の概要を掲載するが、数値などは概数であるため詳細は本報告書に拠られたい。

#### ◎伊良原ダム建設関係の発掘調査

##### ○下伊良原宮久保遺跡（京都郡みやこ町）

下伊良原高木神社の北、国道496号線荒戸橋の西側に迫り出した丘陵上に位置する。27年度の調査は、江戸期から戦後頃まで信仰の対象となった立石及びこれに伴う基壇状の平坦面、石階段の発掘調査を行った。28年度は当該箇所の精査及び空中写真・測量図による記録作成、そして、立石の南側斜面部において確認された炭窯の調査を実施した。

炭窯は谷に面した斜面部（標高200.5～204.5m）



下伊良原宮久保遺跡全景（北東から）

において1基検出した。窯内部の堆積土の上層から鉄片が出土したが、存続時期を具体的に示す遺物は出土していない。しかしながら形状からみて、炭窯は昭和期の所産と見られる。

炭窯は旧地形を切土・盛土し築かれている。窯本体の平面形は約文字形で全長 5.8 m、最大幅 3.6 m を測る。焼成部は斜面を二段に掘り込んで形成され、南側に設えられた燃焼部は平面形状が逆台形状で最大幅 75 cm、奥行 60 cm、高さ 80 cm を測る。床面には天井を構成した焼けた粘土塊が落ち込んでいる状況であった。煙出しが奥壁中央に掘り込まれ、径は約 20 cm を測る。本体の右側壁の焚口寄り（南東部）には幅 80 cm、長さ 120 cm の素材・炭の搬出入用の通路が設けられる。窯の周囲には下端幅 20 cm ほどの排水溝が伴う。

下伊良原宮久保遺跡は露出する自然石を祀った祭祀遺跡であるが、祭祀に伴う遺物は江戸時代の伊万里焼片・土師器皿 1 点のみで、祭祀がどこまで遡るかについては詳らかではない。なお、立石前面の尾根線上で若干の縄文土器も出土している。

#### ○下伊良原竹の内遺跡（京都郡みやこ町）

下伊良原竹の内遺跡Ⅲ区は、祓川の右岸丘陵上に立地し、旧伊良原小学校の校舎部分にあたる。本来は東側から西側に向かってなだらかに傾斜する地形であったものが、小学校建設の際の造成によって東側の過半部が削平され、校舎の基礎やゴミ穴等の攪乱が一面に残っているのみで、遺構は川寄りの西側に遺存する。

調査の結果検出した主な遺構は、中世の土壙墓 1 基、土坑 40 基以上、多数のピットである。下層にて縄文時代の遺物包含層を確認したため、中世の遺構面の調査が終了した後に 18箇所のグリッドを設定し縄文時代包含層の掘削作業を行った。その結果、各層から縄文土器破片、石器が出土している。中世の遺構面から縄文時代前期の土器が出土していることに対して、包含層中の土器はいずれも無文のため判然としないものの、早期に遡るものも含んでいる可能性がある。

#### ◎都市計画道乙金現人橋線建設関係

##### ○宮ノ前遺跡（筑紫郡那珂川町）

宮ノ前遺跡 4・5 区は那珂川右岸に位置し、沖積平野の自然堤防上に立地する。28 年度は前年度に続き、4 区と 5 区を調査対象とした。

4 区では主に江戸時代以降の土坑や溝を多数確認した。中央で検出した南北方向に延びる溝は長さ 12 m、幅 1.1 m、深さ 0.4 m を測り、埋土から江戸時代の陶器・磁器類が出土した。このほか素掘りの井戸様の土



下伊良原宮久保遺跡 炭窯（北から）



下伊良原竹の内遺跡全景（西から）



宮ノ前遺跡 4 区全景（下が北）

坑2基を検出した。東端の長方形状の遺構は3区から繋がる溝の一部の可能性が高い。埋土から12～13世紀頃の瓦器碗片などが出土した。

5区では近世以降の遺構はなく、中世(13～16世紀)の土坑・溝のほかピットを多数検出した。5区東側ではL字形の溝1・4を検出した。溝1・4は一連の遺構で、幅1.5～3.5m、深さ0.5mを測り、埋土中の土師器皿や土師質鉢片などの出土遺物から15～16世紀頃のものと考えられる。溝9も同時期のものである。溝7はやや西よりの南北方向に延びる幅3m、深さ0.1mを測る断面V字状の溝で、13～14世紀頃の瓦器碗片・土師器皿片が出土した。この溝は3・4区の東端の溝307に繋がる区画溝である可能性がある。4・5区では、中世以外にも縄文時代～近代までの土器・石器・櫛などの木製品・鉄器などが出土した。



宮ノ前に遺跡5区東半部（上が北）

### ◎久留米・うきは工業用地造成事業関係

#### ○鷹取ヒゲジロ遺跡（久留米市）

鷹取ヒゲジロ遺跡は、周知の包蔵地である竹重遺跡の西側に位置する。28年度は29年度上半期に着工する南北水路部分を調査対象とした。

調査区の中央部を東西方向に走る水路を挟んだ南側調査区では、土坑3基、溝1条、大溝の一部、ピットを検出した。これらの遺構からの出土遺物は多くないため時期は詳らかではないが、大溝の一部からは江戸時代頃の陶器片などが出土した。埋土からみても江戸時代以降の可能性がある。

北側調査区では、表土剥ぎと一部掘削作業をし、土坑数基、溝数条、幅5mの大溝、ピットを検出している。

28年度は東西水路を挟んで北側調査区の一部を終了したが、その他の箇所については29年度も調査を継続する予定である。



鷹取ヒゲジロ遺跡作業状況

### 平成28年度文化財調査班実施の発掘調査および作成報告書一覧

#### 発掘調査

遺跡名	所在地	調査面積(m <sup>2</sup> )	調査期間	調査内容	調査原因
下伊良原宮久保遺跡	京都郡みやこ町犀川下伊良原	850	160425-160617	祭祀	ダム
下伊良原竹の内遺跡	京都郡みやこ町犀川下伊良原	2,500	160512-170317	集落	ダム
宮ノ前に遺跡	筑紫郡那珂川町仲	1,200	160510-170203	集落	県道
鷹取ヒゲジロ遺跡	久留米市田主丸町鷹取ヒゲジロ	1,000	170201-170314	集落	工業用地造成

## 作成報告書

タイトル	シリーズ	調査原因
伊良原Ⅳ	福岡県文化財調査報告書第 255 集	ダム
伊良原Ⅴ	福岡県文化財調査報告書第 256 集	ダム
伊良原Ⅵ	福岡県文化財調査報告書第 257 集	ダム
五ヶ山Ⅲ	福岡県文化財調査報告書第 258 集	ダム
知恩寺跡	福岡県文化財調査報告書第 259 集	県道

## 【文化財調査室調査研究班】

調査研究班では、大宰府史跡と関連遺跡の調査研究を主な業務として取り組んでいる。28年度は、大宰府史跡の調査として発掘調査8件を行い、正式報告書2冊を刊行した。

### ◎大宰府史跡の発掘調査・報告書作成

28年度は、大宰府史跡発掘調査第9次5ヶ年計画の5年次にあたり、蔵司地区官衙跡の重点発掘調査を2箇所で実施した。このうち228次調査は昨年度からの継続調査であり、表中の調査期間・面積は合計で示している。また、大野城跡・大宰府学校院跡においてそれぞれ1箇所で、観世音寺境内及び子院跡附老司窯跡において2箇所で、大宰府政庁前面官衙跡において2箇所で、確認調査を実施した。

### 平成28年度大宰府史跡調査一覧

調査次数	調査地区略称	面積 (m <sup>2</sup> )	調査期間	調査地区
大宰府史跡第228次調査	6AYT-A-J	414.0	20151009～20170317	蔵司地区官衙跡
大宰府史跡第230次調査	6AYT-A-J	545.0	20161108～20170321	蔵司地区官衙跡
大宰府史跡第231次調査	6AYM-C-Y	4.0	20160419	大楠地区官衙跡
大宰府史跡第232次調査		5.3	20160721	東觀世地区
大野城跡第55次調査	6AON	67.8	20160920～20160921	原地区
大宰府史跡第233次調査		8.4	20161128～20161129	東觀世地区
大宰府史跡第234次調査	6AYI-C-V-Y	24.8	20161220～20161221	前面広場地区
大宰府史跡第235次調査	6ZGK-E	4.0	20170307・20170314	大宰府学校院跡

報告書は、26年度より開始した大宰府政庁周辺官衙跡のうち大楠地区的調査成果報告の3冊目として『大宰府政庁周辺官衙跡IX一大楠地区総括・図版編一』を刊行した。また、同じく広丸地区的調査成果報告を今年度より2ヵ年計画で刊行することとし、1冊目として『大宰府政庁周辺官衙跡X—広丸地区遺構編一』を刊行した。

### ○大宰府史跡第228次調査（蔵司地区官衙跡）

調査地は、大宰府政庁跡の西側にのびる蔵司丘陵の南西部平坦地に位置する。蔵司地区は、調査対象面積が3万m<sup>2</sup>に及ぶため、平成21～25年に全域を対象として確認調査を行い、その成果をもとに25年度に「大宰府政庁周辺官衙跡・蔵司地区の重点調査の方針」を策定した。これにもとづき、26年度より5ヶ年計画で重点調査を開始している。平成26～27年度には、大型礎石建物SB5000の構造解明にかかる調査を実施しており、これに引き続いて今年度はSB5000の南側に広がる平坦面を対象として

調査を実施した。

28年度までの調査の結果、南面するSB5000大型礎石建物に先行して、3棟の掘立柱建物群がこの地区に存在していたことが分かっていた。このうち、平坦面の中心に存在するSB5010については、その位置や柱穴の大きさ、柱間などから、掘立柱建物群の中でも中心的な存在である可能性が高いと目されていた。しかし、この建物は前年度までの調査区の南端部に位置していてさらに南に広がっており、その全体像が不明だったことから、今年度の調査においてはこの建物の構造の把握を第1の目的と設定した。

調査の結果、SB5010掘立柱建物は南北4間×東西3間の側柱建物で、桁行12.0m、梁行8.1mの規模を持つことが判明した。柱掘方はほぼ正方形を呈し、その規模は建物4隅が一辺1.2mとやや大きく遺存深さも25cmとやや深いのに対し、他は一辺0.8～1mほどで遺存深さも極めて浅い。建物の方位は前年度に平坦地の北で検出した2棟並ぶ東西棟SB5020・5030と一致し、このうちSB5000西側柱列が本建物の西側柱列と筋を通す配置となっていることから、これらの3棟が同時並存していた可能性が極めて高い。ただし、3棟の建物群の柱穴検出レベルがそれほど違わないにもかかわらず、柱穴の遺存深さは本建物がSB5020・5030よりも1m以上浅いことから、本建物の掘り込み面の高さはSB5020・5030よりも1m程度高かったと考えられ、基壇等の存在した可能性も考慮すべきだろう。このほか、本建物が平坦面の中央に位置すること、本建物の柱間距離が同時並存する2棟の掘立柱建物のそれよりも大きいことなどを考え合わせれば、本建物が掘立柱建物群の中で中心建物として建てられたものとみてよからう。なお、これら3棟の掘立柱建物群の時期は、出土遺物や切り合い関係などから7世紀末～8世紀初頭前後に比定しておきたい。

次に、SB5000と同時に機能した可能性の高い礎石建物群の有無を探ることを第2の目的とした。これは、藏司地区の礎石を描いた江戸時代の絵図である『文政三庚辰年三月觀世音寺村之内旧跡礎現改之図』(1820年)に、SB5000と目される東西建物のほかに、その南西に南北に伸びる礎石建物が書き込まれていたことを受けて設定したものである。調査の結果、当該地付近に礎石建物の痕跡を発見することはできなかった。付近は当時の地表面よりも数10cm削平されており、絵図に記録された建物は現在その痕跡をまったく残していない。

最後に、平坦面を囲繞する区画施設の検出を第3の目的とした。これは、平成23年度に藏司地区の重点調査計画立案を目的として行った確認調査の一環で付近を調査した(第212次調査)際に、平坦面の南西隅部で2条の溝とその間の築地塀の可能性のある積土を検出していたものである。調査の結果、第212次調査で検出した2条の溝はいずれも近代以降の所産であり古代の区画施設ではないこと、その間の積土は古代の整地層の可能性が高いことが判明した。付近は大きく削平されており、区画施設の有無については判断できないと結論付けた。



大宰府史跡第228次調査 出土掘立柱建物



大宰府史跡第228次調査 出土掘立柱建物柱穴

以上のように、第 228 次調査では SB5000 大型礎石建物が作られる以前に掘立柱建物 3 棟からなる官衙が機能していたことを明らかにできた。また、中心建物の存在・その構造等から、本地区の機能が、中心建物の向きを東面から南面に変えつつ継承された可能性が指摘される。これらは、大宰府の成立とその展開を解明する上で貴重な成果であり、今後も引き続き蔵司地区の全容解明に向けた調査を行っていく必要がある。

なお、調査成果を受けて平成 28 年 10 月 1 日（日）に一般県民等を対象として現地説明会を開催し、約 200 名の参加があった。またあわせて平成 28 年 12 月 16 日（金）に地元市民向けの現地説明会を開催し、約 40 名の参加があった。

### ○大宰府史跡第 230 次調査（蔵司地区官衙跡）

調査地は、蔵司地区官衙跡の中央南側に位置する。蔵司地区の中核建物と見られる SB5000 大型礎石建物がある平坦面の東側に位置し、これより一段低い平坦面の西半部にあたる。この平坦面は蔵司地区でも最も広い面積を持つことから、東半部とあわせて、蔵司地区官衙跡の性格を判断する上で重要な調査成果が得られることが期待された。ただし、面積が広いため調査地点を絞り込むために事前にレーダー探査を行い地下遺構の有無や位置、深さなどを検討することとした。

調査対象地は、以前に駐車場として使用されており、地表面に厚さ 20 cm ほどのバラス敷きが施されていた。このため、まず重機を用いてこれを除去したのち、レーダー探査を行った結果、調査区の北東・南東の 2 箇所で遺構と見られる反応が確認された。これを踏まえて発掘調査を行った結果、2 棟の礎石建物を検出できた。礎石建物はいずれも調査区外との境界部にあるため規模や構造は確定できていないが、ともに総柱で、南北 5 間以上、東西 3 間以上の規模を持つ。

さらに調査を進めたところ、この礎石建物の遺構面を形成する整地層も確認された。整地層中の遺物や礎石据付穴・抜取穴から出土した遺物から、礎石建物群の下限は 10 世紀代と見られる。築造時期は明らかではないが現段階では 8 世紀代に上る可能性が考えられる。今後、礎石建物群の配置や所属時期の更なる絞り込みのほか、整地層下層の遺構の有無などを追及するため、東に隣接する平坦面を含めて、平成 29 年度まで調査を継続する予定である。



大宰府史跡第 230 次調査 レーダー探査



大宰府史跡第 230 次調査区 全景



大宰府史跡第 230 次調査出土 磚石建物

### ○大宰府史跡第 231 次調査（大楠地区官衙跡）

大宰府政庁の前面には、政庁に付隨する官衙群が広がっており、それらの官衙域はいくつかの地区に区画されてそれに性格の異なる官衙群が展開していたと想定されている。大楠地区は、建物群が多く展開すること、生産関連遺物がほかの地区に比べ少ないことなどから、事務を主体とする官衙が広がっていたと想定されている。しかし、これまで調査された範囲は全体の一部にとどまっているまだ解明されていない疑問点も多い。今回の調査は、倉庫建設に先立って行ったものである。調査地は、大楠地区官衙跡の北西隅に位置するが、隣接地ではこれまで発掘調査が行われておらず、遺構面の深さや地下遺構の有無などを確認するために人力でトレンチを掘り下げるとした。

調査の結果、地表下 30cm ほどで遺物包含層を検出し、その下面において 2 基の円形の掘り込みを確認した。出土遺物には古代に属すると見られる瓦や土器片などがあり、当該地において古代の遺構が良好に残存していることを確認することができた。

なお、調査後は速やかに埋め戻し、旧状に復した。



大宰府史跡第 231 次調査 トレンチ

### ○大宰府史跡第 232 次調査（東觀世地区）

觀世音寺子院跡に含まれる東觀世地区は、史跡指定以前に宅地化が進んでいたため、遺跡の実態については不明なところが多く、機会があるごとに確認調査を実施して情報の収集を続けている地域である。

今回は、個人住宅建設の申請が提出されたことをうけて、地下遺構の有無及び遺構面までの深度などを確認するため、太宰府市教育委員会職員の立会のもと、調査を実施した。

調査にあたっては 2 本のトレンチを設定し、現地表下約 3m 付近まで重機で掘り下げを行った。しかし、団地造成時の盛土（真砂土）がさらに深くまで続いているため、遺構面または地山面にまで到達することができなかった。旧地形図と照合すると、調査地付近は山麓部にあたり南に向かって下る斜面地であり、平坦面造成時に南側ほど厚く盛土を行ったとみられる。トレンチは住宅区画の南寄りに設定しており、地山は現地表面よりかなり深い部分に残されている可能性が高いと判断される。

なお、調査後は速やかに埋め戻し、旧状に復した。



大宰府史跡第 232 次調査 トレンチ

### ○大野城跡第 55 次調査（原地区）

大野城跡の所在する四王寺山の南東麓には、古代～中世の寺院跡として知られる原山無量寺（原八坊）跡が史跡地内から史跡地外にかけて広がる。しかし、付近の遺構等の遺存状況についてはほとんど調査がされていないため情報が蓄積されていない。近年、宅地開発等が指定地近隣まで及ぶようになってお

り、付近の遺構等の遺存状況について早期に把握する必要が生じてきている。こうした状況の中で、比較的確認調査にかかる条件が良好であった対象地区について、確認調査を実施したものである。調査に際しては、やや広い谷地形の中に形成された段状の水田跡地を対象としてトレンチを設定し、重機により表土を掘り下げたのち、人力にて作業を行い、遺構の有無を確認した。

調査の結果、3か所のトレンチにおいて遺構・遺物を確認した。主な遺構はピットであり、整地層を伴う可能性がある。出土した遺物は土師器・須恵器・輸入陶磁器などで、いずれも中世に属する。中世の原山無量寺に関連する遺構・遺物である可能性が高く、貴重な知見を得ることができた。

なお、調査後は速やかに埋め戻し、旧状に復した。



大野城跡第55次調査トレンチ

#### ○大宰府史跡第233次調査（東観世地区）

東観世地区における調査の経緯については前述のとおりである。今回は、地権者の同意が得られたことを受けて、確認調査を実施したものである。

調査地は、第232次調査地と道路を挟んで南に隣接する場所にあたり、旧地形図との照合では山麓部から緩斜面に移行する境界付近にあたる。既存住宅の横に確認トレンチを設定し、人力で掘り下げを行った。

調査の結果、現地表面より1.3m程度掘り下げたが、宅地造成時の盛土（真砂土）が続いている。ピンポールを用いての探査によれば、さらに1m以上は盛土が続く可能性が高い。したがって、付近では宅地造成時にかなり厚く盛土が施されており、旧地表面あるいは地山がその下層に良好に残されている可能性が高いものと考えられる。

なお、調査後は速やかに埋め戻し、旧状に復した。



大宰府史跡第233次調査 トレンチ

#### ○大宰府史跡第234次調査（前面広場地区）

前面広場地区は、前述の大宰府政庁前面官衙域の中央部にあたる。大宰府政庁南門の南側にあたり、推定朱雀大路の左右それぞれに幅80mほどの空閑地が広がっていたと推測されており、これを前面広場地区と呼称している。今回は、駐車場の整備及び便益施設の設置に先立って確認調査を行ったものである。



大宰府史跡第234次調査 トレンチ

調査地は、政庁南門から県道太宰府筑紫野線をはさんですぐ南側にあたる。付近は平坦地が広がっていて南側に向かいやや下る。過去の調査で、北西側が最も地形が高くなっていることが判明しており、対象地の北西部にトレンチを設定して遺構面までの深さを確認した。

調査の結果、地表下 50 ~ 60 cm で地山を確認した。範囲内で明瞭な遺構は確認できず、本地点付近が「広場」として利用されていたことを支持する結果となった。

なお、調査後は速やかに埋め戻し、旧状に復した。

### ○大宰府史跡第 235 次調査（大宰府学校院跡）

大宰府学校院跡内では、これまでにも中核域を対象として計画調査を行ってきたが、いまだ調査した範囲は限られ、その全容を知るには至っていない。そこで九州歴史資料館では、史跡の構造解明、また史跡地の将来的な利・活用を視野に入れて、機会があるごとに確認調査を継続的に行ってきました。今回は、住宅建替えを機に、太宰府市教育委員会職員の立会のもと、地下遺構の広がりや遺構面までの深さなどを把握することを目的として、確認調査を行った。



大宰府史跡第 235 次調査 トレンチ

調査地は、史跡大宰府学校院跡中央北側に位置する。方 1 町と推定される学校院跡の範囲よりやや北側にはみ出た部分にあたり、現況は宅地であるが背後には丘陵が迫っている。調査では 2 箇所にトレンチを設定し、人力による掘り下げを行った。

調査の結果、中世期の遺構面を 2 面確認することができた。近隣の調査成果との照合より、その下層にさらに古代にさかのぼる遺構面が広がる可能性が高いと考えられる。造成土や各整地層中から、古代～中世の須恵器・土師器・瓦・輸入陶磁器などが出土しており、上記の推測を裏付けている。ただし調査区が狭小であり、また下層遺構面までの掘り下げを行っていないため遺跡の具体的な姿については不明な点も多く、今後の調査に期待したい。

なお、調査後は埋め戻し、旧状に復した。

### ○大宰府史跡調査研究指導委員会

大宰府史跡の調査研究にあたっては、遺跡の性格上あらゆる分野から総合的に取り組む必要があるため、考古学・歴史学・建築史学・造園学・都市工学・土木工学などの専門家で構成する「大宰府史跡調査研究指導委員会」を設置して、同委員会の指導のもとに 5 ヶ年計画を策定し、その計画に従い調査を進めている。

28 年度の指導委員会は、9 月 27 日（火）・28 日（水）の両日に開催した。28 年度は第 9 次 5 ヶ年計画の 5 年次にあたることから、27 年度の実績報告、28 年度事業の中間報告、29 年度より開始予定の第 10 次 5 ヶ年計画についての協議を行い概ね了承を得た。また、福岡県教育委員会が行なっている特別史跡大野城跡増長天地区の再整備計画案、太宰府市・大野城市教育委員会が行なっている特別史跡水城跡の西・東門周辺地区の整備計画などについて報告した。

なお、委員名簿は以下のとおりである。

大宰府史跡調査研究指導委員会委員名簿

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

	氏 名	所 属	専 門
委 員 長	小田富士雄	福岡大学名誉教授	考古学
副委員長	佐藤 信	東京大学大学院教授	歴史学
	八木 充	山口大学名誉教授	歴史学
	狩野 久	元岡山大学教授	歴史学
	坂上康俊	九州大学大学院教授	歴史学
	森 公章	東洋大学文学部教授	歴史学
	松村恵司	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所長	考古学
	山中 章	三重大学名誉教授	考古学
委 員	高橋 章	求菩提資料館長	考古学
	鈴木嘉吉	元奈良国立文化財研究所長	建築史学
	箱崎和久	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	建築史学
	杉本正美	九州芸術工科大学名誉教授	造園学
	尼崎博正	京都造形芸術大学教授	造園学
	渡辺定夫	東京大学名誉教授	都市工学
	林 重徳	佐賀大学名誉教授	土木工学

## (2) 展示

### ◎常設展示

第1展示室では、「歴史(とき)の宝石箱」をテーマに、旧石器時代から近現代にいたる福岡県の歴史を、遺跡の出土品のほか、仏像・古文書・古地図などの実物資料の展示により、通史的に紹介している。福岡県さらには九州という広い視野から地域の歴史を学ぶことができる。文書や絵画資料については、資料の保全とリピーターの獲得を意図して約2ヶ月ごとに展示替えを行っており、その都度、足を運んでもらえれば新しい資料との出会いがあるようしている。

第2展示室では、大宰府政庁中門の10分の1復元模型を展示するほか、九州の地形や四国・本州との位置関係がわかるように中央の床面に九州の衛星写真を設置している。

第3展示室では、福岡県内出土の弥生土器や須恵器・古瓦などを時期別に並べ、形や文様・調整技術の移り変わりがわかる展示を行っている。引き出し式のケースには、貿易陶磁などの破片資料を資料群として展示しており、資料本来の多彩な色や文様、胎土等の様子を観察することができる。

第4展示室では、旧石器時代・縄文時代の炉跡や弥生時代の甕棺墓など、現地で保存することができない遺構を切り取って保存処理を施し、地中の遺跡を覗き込むような形で床下に展示している。

第1展示室では、調査研究および展示の活性化とリピーターの獲得を目指して、常設展示のテーマをより深化もしくは特化した内容の特集展示を24年度から開催している。28年度は特集展示「新収蔵品展示 絵葉書にみる福岡の風景」(7月12日～9月11日)や重要文化財の栗田遺跡祭祀遺構出土土器の修理完成を記念した特集展示「赤い土器－弥生時代の甕棺墓祭祀と丹塗磨研土器－」(11月23日～1月15日)、特集展示「新春酉歳企画『鳥』」(1月5日～2月19日)の3回の開催となった。

常設展示の内容をより深く理解して頂くための「九州歴史資料館展示解説シート」については、特集展示および企画展の開催にあわせて新規に制作し、充実を図っている。さらに展示内容や歴史的な背景をより深く理解してもらうためにギャラリートークを開催するほか、『教育福岡』の連載記事やケーブルテレビなどを通じて展示の紹介を行っている。また、移転開館以来、来館者からの希望が多かった常設展示図録については、日本生命財団の助成をうけて、その役割を担う『交流のかなめ ふくおか九州歴史資料館展示案内』を発刊した。第一部では「大宰府」をテーマに古代の役所や史跡としての大宰府を紹介し、第二部では「福岡県の歴史と文化」として常設展示の内容に沿って展示品を解説している。

〈常設展示「歴史の宝石箱」展示構成〉

- 第1章 旧石器・縄文時代 狩猟と採集
- 第2章 弥生時代 稲作とクニ
- 第3章 古墳時代 北部九州の古墳文化
- 第4章 古代I 大宰府史跡
- 古代II 西海道大宰府



	古代Ⅲ	仏教美術
第5章	中世Ⅰ	その後の大宰府
	中世Ⅱ	武士と戦乱の世
第6章	近世	「太平の世」の福岡
第7章	近代Ⅰ	「福岡県」の誕生とあゆみ
	近代Ⅱ	絵図の世界

## ◎特別展示

### ○「八女の名宝」

会期：平成 28 年 9 月 22 日（木・祝）～ 11 月 13 日（日）

会場：第 1 ・ 2 ・ 4 展示室

主催：九州歴史資料館

共催：八女市

後援：八女市教育委員会・谷川寺・五條家宝物顕彰会

協力：浦仏刻所

内容：本展は「歴史と自然おりなす郷」といえる八女地域の歴史と文化を紹介する展覧会である。福岡県の南部に位置し大分県と熊本県に接する八女地域には八女古墳群をはじめとして豊富な歴史文化遺産が守り伝えられている。本展では、そのなかでも九州の古代豪族を代表する筑紫君磐井の墓とされる岩戸山古墳出土の石人・石馬、真言宗の古刹牛頭山谷川寺の個性豊かな古仏群、南北朝時代の九州を知る上で欠くことができない五條家文書、八女の風土のなかで育まれてきた多彩な伝統工芸品など、まさに「八女の名宝」の名にふさわしい文化財の数々が一堂に会した。

展示構成は、「いにしえの八女へ」「八女古墳群」「谷川寺の仏像」「五條家文書」（以上、第 1 展示室）「八女の伝統工芸」（第 2 展示室）の 5 つの章からなり、八女地域を代表する文化財の数々を通して、八女の歴史と文化を知ることができる展示とした。あわせて第 4 展示室では、27 年 11 月にオープンした八女市岩戸山歴史文化交流館をはじめ、八女市内の文化財関連施設や観光 P R のポスターなどを掲示した。具体的に「いにしえの八女へ」では、『筑後將士軍談』『山土産』などの地誌・紀行文を通じて先人の八女に対する歴史観を振り返った。「八女古墳群」では、岩戸山古墳出土の石人・石馬や立山山古墳出土の埴輪・金製垂飾付耳飾をはじめ八女古墳群の出土品や装飾古墳の写真パネルを通して筑後地域の古墳文化を俯瞰した。「谷川寺の仏像」では、本尊である 9 世紀作の薬師如来立像、その



特別展「八女の名宝」ポスター

脇侍の日光・月光菩薩立像、13世紀作の個性ゆたかな仁王像、江戸時代作の洗練と落ち着きを持った十二天立像など、八女市立花町に所在する谷川寺の古仏が一堂に会した。「五條家文書」では、同市黒木町の五條家に伝来し、これまで門外不出とされてきた後醍醐天皇綸旨・懐良親王令旨などをはじめ南北朝から江戸時代までの五條家文書全17巻を展示した。「八女の伝統工芸」では、釀形焼・星野焼や八女提灯・石燈籠・和ごま・竹細工・手すき和紙など、八女の豊かな自然と伝統の技により育まれた伝統工芸品が集合した。

本展の図録は、今回、佐賀大学教授の重藤輝行氏に「筑紫君磐井の乱と八女古墳文化」、福岡大学教授の森茂暁氏に「『五條家文書』にみる九州の南北朝」の論稿をそれぞれ書き下ろしていただいたことにより、学術的にも充実した内容となった。

なお、本展は、福岡県の文化財保護行政の拠点的施設に位置付けられている当館が、県内の歴史文化遺産を地域ごとに紹介する特別展の第1弾を飾るものである。今後も地域と連携・協力しながら、県内各地域の文化財の調査・研究に努め、このような展覧会を開催していきたいと考えている。そのことにより、県内外を問わずひとりでも多くの方が対象となる現地へ足を運び、ゆたかな歴史文化遺産にふれていただくなきかけとなればと念じている。また、対象地域の人びとにとっては、自分たちが暮らす地域の魅力を再発見し、次世代へ伝えることの大切さを再認識するよき機会になることを願っている。

また、会期中には関連イベントとして、8月6日（土）に関連講座（九歴講座）「筑紫君磐井の乱と岩戸山古墳」（講師：当館学芸員 酒井芳司、参加者数：189名）、9月22日（木・祝）に文化財めぐり「岩戸山古墳と五條家をたずねる」（講師：八女市岩戸山歴史文化交流館長 川述昭人氏、五條家第25代当主 五條元滋氏、参加者数：48名）、10月5日（水）・19日（水）に夕べのギャラリートーク（講師：当館学芸員 酒井芳司・井形進、参加者数：49名）、10月8日（土）に関連講座（九歴講座）「牛頭山谷川寺の仏像－薬師如来立像と仁王像を中心－」（講師：当館学芸員 井形進、参加者数：149名）、10月15日（土）にアクロスマジックコンサート（共催：アクロス福岡、奏者：九州管楽合奏団、参加者数 210名）、10月16日（日）に記念茶会－博物館でお点前を－（共催：小郡市文化協会、参加者：450名）、10月23日（日）に開催記念講演会「対外関係からみた磐井の乱」



特別展「八女の名宝」展示風景

(講師: 東北学院大学教授 熊谷公男氏、当館学芸員 岡寺良、参加者数: 200名) を実施した。会期中の入館者数は、5,643名である。

主な展示資料: 筑紫磐井氏寿蔵の事かき(九州国立博物館)、筑後將士軍談(久留米市立中央図書館)、重要文化財 石人・石馬 岩戸山古墳出土(八女市)、福岡県指定 武装石人頭部 伝岩戸山古墳出土(正福寺)、盾持武人埴輪 鶴見山古墳出土(福岡県立八女高等学校)、巫女形埴輪 立山山13号墳出土(八女市)、鉄製短甲 真淨寺2号墳出土(当館)、金製垂飾付耳飾 立山山8号墳出土(八女市)、円頭柄頭付大刀 鬼塚2号墳出土(広川町教育委員会)、石人山古墳装飾付家形石棺・弘化谷古墳装飾壁画(写真パネル、当館)、福岡県指定 薬師如来立像・八女市指定 仁王像・菩薩形立像・大日如来坐像・不動明王坐像・十二天立像(谷川寺)、重要文化財 金鳥の御旗・後醍醐天皇綸旨・後村上天皇書状・懐良親王令旨・良成親王令旨・大友義鑑・宗麟・義統書状・羽柴秀吉朱印状・立花宗茂書状・筑紫広門起請文(五條家)、八女市指定 星野焼素焼灯籠(室山熊野神社)、釧形焼黒釉四耳壺(八女市)、八女福島の燈籠人形(八女福島の燈籠人形保存会)、八女和ごま・八女石燈籠・八女提灯・(個人)など。

総点数: 113点(重要文化財2件60点、県指定文化財2件4点、市指定文化財2件2点を含む)

図録: A4版、134頁、印刷部数2,000部(販売部数1,000部)、価格800円

## ◎企画展示

28年度は、第1展示室の一部および第2・4展示室を会場として、4回の企画展を実施した。企画展は、学校教育支援を目的としたもの、文化財調査室が行う発掘速報展、館蔵品を紹介するコレクション展、第1展示室の約3分の1を使って行う大型の企画展というラインナップで定着しつつある。

春には小学6年生の歴史学習を支援する第35回企画展「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくり」を開催し、小都市や朝倉市の小学校など9校を受け入れた。夏恒例の展覧会となる第36回企画展「発掘速報展 2016~東九州自動車道関係埋蔵文化財発掘調査の成果~」では、東九州自動車道の建設にともなう発掘調査の成果を総括する内容の展示となった。整理作業の過程で新たに見いだされ、これまでの速報展で紹介されていない資料も登場した。なお、東九州自動車建設関係の発掘調査が終了したことから、発掘速報展として開催するのは今年が最後であり、29年度からは発掘成果展として開催する予定である。

27年度から3か年にわたり、30年度の大宰府史跡発掘50周年に向け気運を盛り上げる意図から大型の企画展「大宰府史跡みどころ展」を行っている。28年度は、27年度に開催した第30回企画展「大宰府史跡みどころ展 Part.1 貝原益軒ー大宰府研究の先駆たちー」に引き続き、Part.2として第37回企画展「大宰府の役人と文房具」を行い、大宰府史跡出土の硯をはじめとした文房具や木簡・墨書き器などの出土文字資料、金属製品や漆工品にかかる生産関連遺物を一堂に展示了。

28年度に特徴的な企画展としては、大分自動車道の開通30周年を記念して開催された第38回企画展「筑後川北岸の古代遺跡」が挙げられる。佐賀県鳥栖市から大分県大分市まで東西に結ぶ高速道路の建設にともない行われた発掘調査によって出土した遺物の数々を紹介した。

## ○第35回企画展「きゅうおにとタイムとラベルー大昔のくらしと国づくり」

会期: 平成28年3月1日(火)~平成28年6月18日(月・祝)

会場：第2・4展示室

内容：福岡の大昔の人たちは、どのような服を着たり、食べ物を食べたりしてくらしていたのか。また、日本の国はどのように形作られてきたのか。そのような大昔の歴史の疑問を、九州歴史資料館のイメージキャラクター・きゅうおにが、縄文時代・弥生時代・奈良時代をタイムトラベルをしながら探る展覧会である。

教育普及の観点を重視し、小学校高学年の歴史学習がより楽しく、わかりやすくなる展示とし、実物資料のほか、レプリカやイラストパネルを多用した結果、第1展示室では実践しづらかったため、子どもたちにもわかりやすい展示を実践した例となった。

会期中には、小郡市内の小学校6年生の社会科見学の一環として、当館の利用が多数見られた。

また、年度後半の平成29年3月22日（火）から、当企画展とほぼ同じ内容にて第39回企画展「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくりー」を開催している（詳細は29年度年報に掲載予定）。

### ○第36回企画展「発掘速報展 2016」

会期：平成28年7月20日（水）～9月19日（月）

会場：第2・4展示室

内容：当館では県内各地に所在する遺跡の発掘調査を継続的に実施しており、郷土の歴史を知る上で数々の重要な成果を挙げている。23年度から毎年、前年度に行った発掘調査の成果を公開する企画展示「発掘速報展」を開催しているが、28年度は東九州自動車道の開通を記念し、13年度から携わってきた東九州自動車道建設に関わる発掘調査や整理作業で得られた成果の展示を行った。

第2展示室では雨窪遺跡・馬場仁王免遺跡（苅田町）、延永ヤヨミ園遺跡・流末溝田遺跡・矢留堂ノ前遺跡・宝山小出遺跡・宝山桑ノ木遺跡・福原長者原遺跡（行橋市）、京ヶ辻遺跡・皆見大塚古墳（みやこ町）、西の原遺跡・大西遺跡・塔田琵琶田遺跡（豊前市）、ハカノ本遺跡・緒方古墳群（上毛町）の計15遺跡からの出土品とともに、各発掘担当者が作成した解説と写真パネルのほか成果の概要をまとめた映像展示も行った。



第35回企画展  
「きゅうおにとタイムトラベル」



第36回企画展「発掘速報展 2016」



第36回企画展関連「発掘報告会 2016」

また第4展示室では、発掘当時に当館内で掲示していた過去の発掘新聞を一堂に再掲示し、来館者に発掘当時の雰囲気を感じてもらう展示を行った。

期間中には関連事業として、8月27日（土）に「発掘速報展2016」調査報告会を開催した。展示した遺跡のうち注目される遺跡等について、調査担当者がその成果を分かりやすく紹介する講座を実施したものである。内容は「京築地域の歴史」（当館副館長：飛野博文）で、参加者は55名である。

なお、今回の発掘速報展は京築地域で行われた発掘調査でもあったことから、みやこ町歴史民俗博物館と求菩提資料館の2館で里帰り展として、以下の期間において展示を行った。

・みやこ町歴史民俗博物館

平成28年9月27日（火）～10月10日（火）

・求菩提資料館

平成28年10月18日（火）～11月13日（日）

### ○第37回企画展「大宰府の役人と文房具」

会期：平成28年11月23日（水・祝）～平成29年1月15日（日）

会場：第1・2展示室

内容：平成30年は、福岡県教育委員会が大宰府史跡の発掘調査を開始して50年を迎えることから、大宰府史跡の調査研究成果を公開する企画展の第2弾として、大宰府の役人とその役人が使用した文房具や文字資料に焦点を当てた展示とした。今回の展示では、大宰府出土の古代の木簡が一堂に会し、文字資料・陶硯に特化したものとなった。一方、大宰府機構を支えたのは文官・武官だけではなく、瓦・金属・漆製品等の生産に従事した工人の比重も大きく、これに関する資料は第2展示室で展示を行った。

12月23日には、「古代の役人と文字」と題して宮崎産業経営大学柴田博子教授を招いて記念講演会を開催し、127名の聴講者があった。また、12月7日（水）・1月11日（水）には、展示担当学芸員が展示品を解説するタベのギャラリートークを開催し、好評を博した。

主な展示資料：大宰府史跡出土木簡、墨書・刻書土器等の文字関連資料

大宰府史跡出土陶硯類、平城宮出土羊形硯・宝珠形硯（奈良文化財研究所所蔵）

筑後国府跡出土陶硯（久留米市教育委員会所蔵）

御二田遺跡出土陶硯（みやま市教育委員会所蔵）

大宰府史跡出土生産関連資料



第37回企画展「大宰府の役人と文房具」

### ○第38回企画展「筑後川北岸の古代遺跡」

会期：平成29年1月17日（火）～3月20日（月・祝）

会場：第1・2・4展示室

内容：大分自動車道は、佐賀県鳥栖市から福岡県を東西に横断して大分県大分市に至る総延長130kmあ

まりにも及ぶ高速道路で、平成 29 年 2 月 5 日には、開通 30 周年を迎える。道路建設に先立って、福岡県部分については、福岡県教育委員会により建設予定地等に所在する遺跡の発掘調査が行われ、筑後川北岸地域の遺跡が数多く明らかとなった。

本展覧会では、大分自動車道開通 30 周年を記念し、大分自動車道に関わる発掘調査によって明らかとなった筑後川北岸の古代遺跡を発掘資料と共に紹介する内容とした。

なお、会期中の 3 月 18 日（土）には企画展開催記念シンポジウム「古墳時代の対外交流と筑紫一渡来人と馬・須恵器」を開催し、190 名の参加者を数えた。シンポジウムのプログラムは以下のとおりである。

講演「渡来人と筑紫」田中史生氏（関東学院大学教授）

「考古学からみた筑紫の渡来人」

亀田修一氏（岡山理科大学教授）

事例報告 筑前町教育委員会・小郡市教育委員会・九州歴史資料館の各職員

シンポジウム 司会：小田和利（当館学芸調査室長） パネラー：講師全員



第 38 回企画展「筑後川北岸の古代遺跡」

## ◎特集展示

### ○「新収蔵品展示 絵葉書にみる福岡の風景」

会期：平成 28 年 7 月 12 日（火）～9 月 11 日（日）

会場：第 1 展示室近代コーナー

内容：当館では昨年度、個人の方から合計 102 点に及ぶ絵葉書の寄贈を受けた。大部分が戦前のもので、寺社や公園など、主に県内各地の観光地を撮影していたものである。

本展では、新収蔵品の紹介として、この絵葉書の大半を一挙に紹介した。展示では、絵葉書に写されていた場所を、太宰府及びその周辺、県都福岡市、それ以外の各地の 3 つに分け、それぞれ史跡の地、寺院から近代公園までが揃う都市、県内各地の多様な名所という観点で紹介した。主な題材となった場所については、現代に撮影した写真もパネルで展示し、絵葉書が撮影された時代から大きく変化した景観と、現在まで変わらぬ景観の両方を見出す展示とした。また絵葉書の題材には史跡と寺社をはじめ、近代公園や町の風景、さらに港湾施設なども含まれており、これらも紹介することで、当時どのような場所が観光地として意識されていたかという点にも、迫っていく展示とした。



特集展示「絵葉書にみる福岡の風景」

### ○「赤い土器—弥生時代の甕棺墓祭祀と丹塗磨研土器—」

会期：平成 28 年 11 月 23 日（水・祝）～平成 29 年 1 月 15 日（日）

会場：第1展示室・弥生時代コーナー

内容：丹塗磨研土器は約2,000年前の弥生時代中期、筑前西部から肥前東部の地域において極度に発展したもので、ベンガラなどの赤色顔料によって赤く塗られ、ヘラ状の工具で丁寧に表面を磨かれた祭祀用の土器である。筑前町栗田遺跡では、甕棺墓での儀式に丹塗磨研土器が用いられたことが発掘調査でわかつており、出土した土器については、器種の多様性や残存状況の良さなどから、甕棺と共に「栗田遺跡祭祀遺構出土土器」として一括して国の重要文化財に指定されている。

文化庁では、「栗田遺跡祭祀遺構出土土器」のうち、これまで展示公開が困難であった大型甕棺の修復を23年度より行い、27年度に完了した。その修理が完成したことを記念し、本展では修復された甕棺の他、同遺跡出土の丹塗磨研土器群、さらには栗田遺跡周辺の同時代の遺跡（東小田七板遺跡・小郡遺跡）から出土した祭祀土器などを展示公開し、筑後平野北側の甕棺墓祭祀に関連した資料を紹介する展示とした。

#### ○特集展示「新春酉年企画 鳥」

会期：平成29年1月5日（木）～2月19日（日）

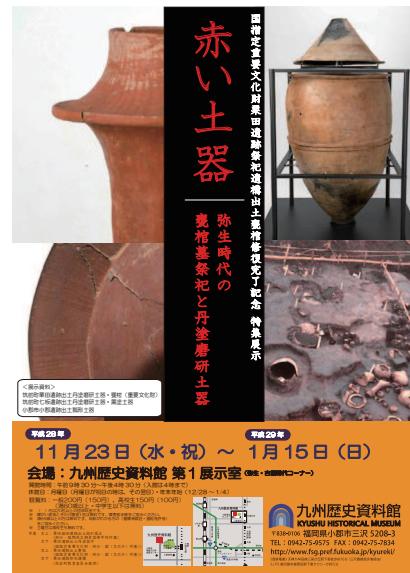
内容：平成29年（2017）の干支は酉である。この特集展示では、新春の酉年の到来を祝い、考古資料から彫刻まで、鳥に関連する資料を展示し、人と鳥の古来からのつながりを紹介した。

内容：翼をもち、大空を飛ぶことができる鳥は、人類にとってのあこがれの動物であった。また、天と地を行き交う生き物であることから、神の使い、あるいは、死者の靈魂をのせて天に帰つて行くものとして、国や地域を越えて認識されて来た。

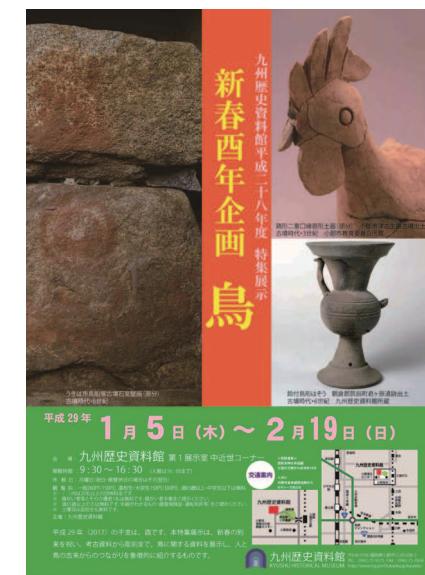
さらに、鶏のように、夜明けを告げる聖鳥とされるいっぽう、家畜として飼われ、卵や肉が食用となるなど、人類に身近な鳥も存在する。海外では、紀元前からインドやエジプトで鳥の骨や鶏を表現した遺物の出土があり、日本でも縄文時代から貝塚などで鳥の骨が出土する。弥生時代以降は、骨や鳥を表現した考古資料・絵画・彫刻作品などが数多く遺り、鳥と人間の関係には長い歴史があることがわかる。

装飾古墳の石室の壁画には、船の上に乗った鳥が描かれているものがあり、神話にみえる天鳥船を思わせる。鳥は神の使いや、靈魂を乗せて行く存在と考えられていたのだろう。また鳥をかたどった土器や鳥の形の飾りがついた土器もあり、古墳の祭祀と鳥との深いつながりを想像させる。

干支は中国古代の殷代から日にちを表すものとして使われ、年月や方角、時刻を示すようにもなった。十二支が十二獸と結び付いたのは漢代（1世紀頃）である。本展では福岡の東光院に伝來した、薬師如



特集展示「赤い土器」



特集展示「新春酉年企画 鳥」

来の眷属として十二方位を守る十二神将（平安時代・江戸時代）の中から、申・酉・戌の三神も紹介した。

### ◎パネル展示

パネル展は、県内各地に残る多様な文化財を紹介し、またこれまで福岡県が行ってきた調査研究の成果を公開することを目的に、当館2階文化情報広場等において実施している。

28年度は、例年行っている福岡県内の鉄道遺産、保存科学機器による最新成果を紹介するパネル展のほか、西谷名誉館長撮影によるシルクロード沿線地域の文化遺産の写真展や、甘木歴史資料館と連携した朝倉市内の石造物に関するパネルなど、多種多様なテーマで実施した。なお、以下に取り上げるパネル展を実施していない時期には、開館時より継続的に実施しているパネル展「福岡県の世界遺産登録推進活動—宗像・沖ノ島と関連遺産群」を実施し、また正面玄関右側の回廊では、三沢遺跡を紹介するパネル展も行った。

#### ○保存科学成果展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2016-2017」

会期：平成29年3月22日（火）～6月19日（日）

会場：文化情報広場

内容：船原古墳は、福岡県古賀市に位置する古墳時代の前方後円墳である。24年度の発掘調査により、その傍らから大量の遺物を埋納した土坑が未盗掘のまま発見された。当館では、発掘調査の段階から、遺物の保存処置や科学的調査について支援に入っている。本展では、国内3例目、九州初出土となる馬冑、国内初出土となるガラス装飾付辻金具の調査成果を中心に紹介した。



パネル展「保存科学成果展」

#### ○「シルクロードの文化遺産（1）—オアシスの道—」

会期：平成28年6月21日（火）～9月4日（日）

会場：九州歴史資料館2階 文化情報広場

内容：シルクロードはかつて、ユーラシア大陸の間で人・物・文化の交流を担った交通路である。この沿線地域には、数多くの遺跡や遺物など、歴史的に重要な文化遺産がある。シルクロードを通った文物の中には、九州を経て日本へと伝わったものもあり、これらの文化遺産は、九州や日本の歴史・文化にも関連のあるものといえる。そしてこのシルクロードの文化遺産については、当館の西谷正名誉館長が長年研究を行い、数多くの写真も撮影してきた。



パネル展「シルクロードの文化遺産（1）」

本展では、この西谷名誉館長の研究成果公開の一環として、シルクロードのコースの一つ、オアシスの道に関する文化遺産をテーマとし、特に中華人民共和国新疆ウイグル自治区のトルファン付近の文化遺産を主として取り上げた。具体的には、かつての城跡や壁画を有する石窟群、古墳群の姿などの写

真を展示し、加えて現代にこの地域に生きる人々の姿も紹介した。

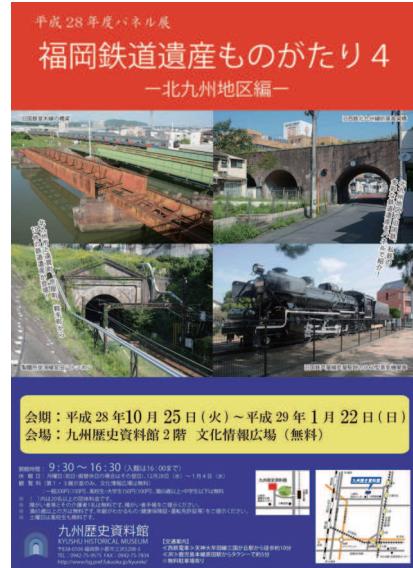
### ○「福岡鉄道遺産ものがたり4～北九州地区編～」

会期：平成28年10月25日（火）～平成29年1月22日（日）

会場：九州歴史資料館2階 文化情報広場

内容：近代の福岡県では、濃密な鉄道網が形成され、橋梁やトンネルなどの鉄道施設も戦前から数多く建設されてきた。これらの鉄道施設の中には、今なお「鉄道遺産」として現存しているものもある。これらは鉄道輸送の姿を通して、福岡県が日本の近代化に貢献していたことを示すものであり、当館ではこれまで「福岡鉄道遺産ものがたり」シリーズとして、県内各地の鉄道遺産を紹介してきた。

シリーズ4回目の本展では、北九州地区編と題して、北九州市および遠賀町、芦屋町、鞍手町から19件の鉄道遺産を取り上げた。北九州市内に現存する旧西鉄北九州線の鉄道遺産を中心に、八幡製鉄所の専用線や鹿児島本線遠賀川駅から分岐していた旧国鉄室木線・芦屋線の鉄道遺産、さらに蒸気機関車などの保存車両も紹介し、路面電車から石炭輸送鉄道に至るまで、北九州地区の多様な鉄道遺産に迫っていく展示とした。



パネル展「福岡鉄道遺産ものがたり4」

### ○「石に込められた願い - 朝倉（旧甘木市内）の石造文化財調査より - 」

会期：平成29年1月24日（火）～3月5日（日）

主催：甘木歴史資料館 共催：九州歴史資料館

会場：九州歴史資料館2階 文化情報広場

内容：27年から28年にかけて、甘木歴史資料館の学習講座「ひみこ」の受講生により、旧甘木市内の石造文化財について、悉皆的な所在調査が行われた。調査が行われたのは、庚申、猿田彦、道祖神などと明記された石塔で、市民にも身近な文化財で、また信仰の対象でもあったものである。今回の調査では、昭和40年代に行われていた調査を元に、石塔について法量の計測や銘文の読解、写真撮影などを行い、その件数は200件近くに及んだ。

本展は、この調査成果の公開として実施されたもので、「ひみこ」の受講生が班ごとに分かれて調査したものの中からピックアップし、それぞれの石塔の情報を1枚のパネルにまとめ、それを24枚展示した。これに加えて、石塔の拓本や、庚申講の行事に関するパネル、庚申信仰のキーワードを紹



パネル展「石に込められた願い」

介するパネルなども展示し、文化財としての石塔とこれに関する信仰について、多様な視点から紹介する展示となった。

### ○ 28年度パネル展 平成28年度筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見～うつりゆく風景～」

会期：平成29年3月7日（火）～3月20日（月）

主催：筑紫地区社会教育振興協議会 文化財部会

共催：九州歴史資料館・九州国立博物館

会場：九州歴史資料館2階 文化情報広場

内容：筑紫地区文化財写真展は、筑紫地区（大野城市・春日市・太宰府市・筑紫野市・那珂川町）の文化財を紹介すべく、毎年実施される巡回パネル展である。今回のパネル展では、「うつりゆく風景」をテーマとし、過去から現在へとうつりかわる風景や文化財について、大きく姿を変えたものと、変わらず残されているものの双方を、自治体ごとに紹介した。



パネル展「ちくし再発見～うつりゆく風景～」

### ○パネル展示「薩摩塔と尊像たち」

会期：平成28年10月15日（火）～平成29年3月20日（月・祝）

会場：第4展示室

内容：薩摩塔は、昭和33年（1958）に薩摩で初めて存在が確認され、九州西側でのみ40基程度が知られている石塔である。確認以来半世紀の間、制作地も制作時期も明らかにならなかった薩摩塔であるが、平成20年（2008）に福岡県糟屋郡久山町の首羅山遺跡の作例が、13世紀の中国、南宋時代の制作であることが押さえられて以来、日中交流史を考える上で、東アジアの歴史を考える上で、大きな意義をもった文化財として、注目を集めようになっている。本パネル展示は、そのような中にあって未だ充分な検討がなされていなかつた、塔に刻まれている5躯の尊像に光を当て、代表的な作例について、それが刻まれた塔ともども新たに紹介するこ



パネル展「薩摩塔と尊像たち」

とで、薩摩塔への認識が深化するように、また薩摩塔研究の深化に資するように意図して開催したものである。なお本パネル展示は、久山町と共同で開催した国際シンポジウム「中世の福岡平野から見る東アジア一首羅山と造形遺品を中心とした」の関連事業であったため、レスポアール久山と九州歴史資料館で巡回開催した。

### (3) 資料利用

本館では、他機関の展示のため所蔵資料の貸出を行っている。考古資料のほか、文書資料、写真資料も貸出しており、平成28年度においては以下のとおり利用があった。また、他機関や学生による資料調査などの一時利用を受け入れており、平成25年度から、土日の閲覧希望にも、基本的に対応するようになった。平成28年度の実績は考古資料貸出57件、同一次利用71件（延べ82日間）、写真資料貸出・掲載許可124件、文書・典籍資料貸出7件、同一次利用48件である。

考古資料の貸出一覧（短期）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	荒神谷博物館	21	曲り田遺跡出土品、三雲南小路遺跡出土品	「伊都国」～大鏡と女王のクニ～」の展示のため	28.7.1～9.8
2	九州国立博物館	4	西新町遺跡出土品	「海の道、アジアの路」の展示のため	28.5.1～29.4.30
3	海の道むなかた館	6	伝白山神社経塚出土品	「鈴の文化史」の展示のため	28.9.20～11.8
4	中津市教育委員会	2	山崎遺跡出土土偶、石町遺跡出土土偶	「大勢遺跡展」（仮）の展示のため	28.10.11～12.5
5	太宰府市文化ふれあい館	8	水城跡等出土品等	「まるごと太宰府歴史展2016」の展示のため	28.7.26～11.16
6	九州国立博物館	2	延永ヤヨミ園遺跡出土墨書き土器、木樋	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」の展示のため	28.11.17～29.3.10
7	太宰府市日本遺産活性化協議会	一式	太宰府政庁模型図等図面	太宰府政庁跡の復元CG・VR制作のため	28.7.26～29.3.31
8	豊前市埋蔵文化財センター	3	荒堀雨久保遺跡出土品	「豊の道～人・物・文化の行き交うところ」	28.8.31～11.18
9	伊都国歴史博物館	42	三雲遺跡等出土品	「王の鏡～平原王墓とその時代～」の展示のため	28.10.3～12.2
10	九州桃山茶陶研究会	5	内ヶ磯窯跡出土品	『福岡藩「内ヶ磯窯」の謎に迫る「桃山茶陶」と「織部高取」展』の展示のため	28.10.12～11.18
11	沖縄県立博物館	17	宗原遺跡・門田遺跡出土品、西北九州産黒曜石原石	「港川人とその後」の展示のため	28.10.20～29.1.30
12	九州国立博物館	3	太宰府史跡出土木簡	「海の道、アジアの路」の展示のため	28.11.9～29.1.25
13	直方市中央公民館郷土資料室	2	汐井掛遺跡出土品	「直方と遠賀川流域の古墳時代展」の展示のため	28.11.14～29.1.10
14	リーパスプラザこが歴史資料展示室	11	勝浦井ノ浦古墳等出土品	「船原古墳展」の展示のため	28.10.25～12.13
15	小郡市埋蔵文化財センター	16	太宰府政庁周辺官衙跡等出土品等	「上岩田遺跡とその時代展～評から郡へ～」の展示のため	28.12.9～29.3.17
16	高志の国文学館	18	太宰府政庁跡等出土品等	「官人 大伴家持－困難な時代を生きた良心－」の展示のため	29.2.14～6.20
17	太宰府市教育委員会	1点	水城銘墨書き土器	複製制作のため	29.1.25～3.31
18	太宰府市教育委員会	一式	水城跡第24次調査実測図	水城跡の発掘調査における遺構の詳細確認および写し作成のため	29.1.6～1.31
19	福智町図書館・歴史資料館	24	内ヶ磯窯跡出土品	「ふくちのち」開館記念特別展の展示のため	29.3.13～5.18
20	国史跡船迫窯跡公園体験学習館	6	太宰府政庁跡出土鶴尾	「鶴尾と百済の瓦」の展示のため	29.3.14～(5.25)
21	甘木歴史資料館	98	原の東遺跡等出土品	「朝倉の遺跡ロードー筑後川北岸の古代遺跡ー」の展示のため	29.3.21～(7.上旬)
22	太宰府市文化ふれあい館	8	太宰府史跡出土木簡等	「古代太宰府と管内諸国展」の展示のため	29.3.22～(7.下旬)
23	甘木歴史資料館	94	クリナラ遺跡等出土品等	「朝倉の遺跡ロードー筑後川北岸の古代遺跡ー」の展示のため	29.4.11～(7.上旬)
24	九州国立博物館	一括	太宰府政庁跡出土小札	「海の道、アジアの路」の展示のため	29.4.7～(9.30)
25	大韓民国福泉博物館	6	門田遺跡等出土品	「釜山市～福岡市文化財交流20周年記念国際交流展「日本古代文化への招待」」の展示のため	28.9.1～12.15

考古資料の貸出一覧（長期）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	京都国立博物館	4点	甕棺	展示等利活用のため	28.7.1～31.6.30
2	京都国立博物館	1点	筑後石人山石棺石膏製模型	展示等利活用のため	29.1.1～32.12.31
3	国立羅州文化財研究所	1点	道場山遺跡甕棺	常設展示のため	29.2.3～32.1.31
4	九州国立博物館	255点	門田遺跡出土細石刃ほか	文化交流展示室展示等のため	28.4.1～29.3.31
5	国立歴史民俗博物館	7点	横隈山遺跡出土炭化米、広田遺跡出土浅鉢・深鉢	総合展示のため	28.4.1～29.3.31
6	岩手県立博物館	4点	永岡遺跡・牟田々遺跡出土土器、永岡遺跡甕棺	展示及び調査研究のため	28.4.1～29.3.31
7	福岡県立筑豊高等学校	250点	旧福岡県立筑豊工業高等学校所蔵関係資料ほか	資料室展示のため	28.4.1～29.3.31
8	柏屋総合庁舎	20点	箱崎遺跡出土品	展示ケース展示のため	28.4.1～29.3.31

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
9	甘木資料館	27 件	高原遺跡・立野遺跡・天園遺跡・治部ノ上遺跡・楠田遺跡・上の原遺跡・才田遺跡・菩提寺古墳群・仙道古墳・真奈板遺跡・觀音塚古墳・湯の隈古墳出土品	常設展示のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
10	求菩提資料館	10 点	銅製經筒・草花双鳥鏡・蓬萊鏡	常設展示のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
11	福岡市博物館	2 点	西新町遺跡出土土器	常設展示のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
12	老司公民館	6 点	大宰府史跡出土瓦	展示ケース展示のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
13	古都大宰府保存協会	29 点	大宰府史跡出土資料	大宰府展示館常設展示のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
14	大野城市牛頸ダム記念館	104 点 8 点	牛頸須恵器窯跡出土資料 牛頸須恵器窯跡写真パネル	牛頸ダム記念館における展示のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
15	筑紫野市歴史博物館	108 点	劍塚遺跡・劍塚 3 号墳・道場山遺跡・萩原遺跡・八隈遺跡・峠山遺跡出土品	常設展示のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
16	直方市教育委員会	72 点	内ヶ磯窯跡出土陶器	直方市美術館別館展示のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
17	古賀市教育委員会	19 点	水上遺跡・太田町遺跡・川原庵山 8 号墳・久保長崎遺跡出土資料	古賀市歴史資料館展示のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
18	春日市教育委員会	6 点	伯玄社遺跡・柏田遺跡・御供田遺跡出土品・伝昇町出土鏡片	常設展示のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
19	伊都国歴史博物館	173 点	三雲南小路遺跡出土資料他	展示等利活用のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
20	八女市教育委員会	1 点	真淨寺古墳出土短甲 2 号	岩戸山歴史資料館常設展示のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
21	みやま市教育委員会	31 点	上枇杷遺跡・権現塚南遺跡・江北遺跡・三船山遺跡・金栗遺跡出土資料	みやま市歴史資料館展示のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
22	みやま市教育委員会	17 点	清水山遺跡群礫石器・坂田中園遺跡 繩文土器・権現塚遺跡群弥生土器・九折大塚古墳出土埴輪	みやま市歴史資料館展示のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
23	小都市埋蔵文化財センター	262 箱 一式	津古内畠遺跡第 3, 4, 5 次調査出土資料 津古内畠遺跡第 3, 4, 5 次調査図面及び写真	報告書作成のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
24	筑前町教育委員会	174 箱	依井遺跡・堂の浦遺跡・君ヶ原遺跡・大刀洗病院遺跡・高上遺跡・仙道古墳群・仙道古墳出土資料	筑前町歴史民俗資料館等で利活用のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
25	柏屋町歴史資料館	76 箱	鶴与丁池遺跡・辻畠遺跡・西尾山古墳群・脇田山古墳・戸原堀ノ内遺跡・井山古墳群出土資料	展示等利活用のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
26	香春町教育委員会	84 点	陣山屋敷遺跡・湯無田遺跡・古坊遺跡出土遺物	町民センター歴史資料室展示のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
27	みやこ町教育委員会	23 点	徳永川ノ上遺跡・鋤先遺跡・居屋敷遺跡出土品	みやこ町歴史民俗博物館常設展示のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
28	鞍手町教育委員会	10 件	銀冠塚古墳・神崎遺跡・古門窯跡・新北向山遺跡・新北高木遺跡・音丸城跡・段ノ上遺跡・中屋敷遺跡・八尋旭古墳・新延貝塚出土資料	鞍手町歴史民俗資料館等で利活用のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
29	篠栗町教育委員会	117 点	高田遺跡・トヲノ尾遺跡・塚元遺跡出土遺物	篠栗町歴史民俗資料室展示のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
30	須恵町教育委員会	419 点	乙植木古墳群出土資料	須恵町歴史民俗資料館展示のため	28. 4. 1 ~ 29. 3. 31
31	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2 点	永岡遺跡出土甕棺上下甕	常設展示のため	28. 9. 1 ~ 29. 8. 31
32	栃木県立博物館	2 点	門田遺跡・甕棺上下甕	常設展示のため	28. 10. 1 ~ 29. 9. 30

#### 考古資料の一時利用（資料見学）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	個人	一式	大宰府史跡出土貿易陶磁器	調査研究のため	28. 4. 6
2	九州前方後円墳研究会	一式	古式土師器	九州前方後円墳研究会の勉強会	28. 4. 10
3	個人	一式	大宰府史跡出土貿易陶磁器	調査研究のため	28. 4. 13
4	個人	6	栗田遺跡出土土器、鬼の枕古墳出土埴輪	九州国立博物館展示図録掲載	28. 4. 14
5	個人	一式	大宰府史跡出土貿易陶磁器	調査研究のため	28. 4. 20
6	個人	11	日吉官衙地区出土古瓦	調査研究のため	28. 5. 17
7	NSST	9	貝元遺跡出土鉄器樹脂埋め込み試料	調査研究のため	28. 5. 9 ~ 20
8	個人	一式	大宰府史跡出土貿易陶磁器	調査研究のため	28. 4. 27
9	個人	一式	大宰府史跡出土貿易陶磁器	調査研究のため	28. 5. 11
10	個人	一式	大宰府史跡出土貿易陶磁器	調査研究のため	28. 5. 13
11	個人	一式	大宰府史跡出土貿易陶磁器	調査研究のため	28. 5. 25
12	アジア文化交流センター	一式	奴山正園古墳出土品	特別展の広報・図録・パネル等の利用	28. 7. 1
13	個人	一式	大宰府史跡出土貿易陶磁器	調査研究のため	28. 6. 1
14	個人	一式	大宰府史跡出土貿易陶磁器	調査研究のため	28. 6. 9
15	個人	一式	大宰府史跡出土貿易陶磁器	調査研究のため	28. 6. 15
16	九州国立博物館	一式	延永ヤヨミ園遺跡出土木樋、番塚古墳出土鐵鍤	展示のための資料調査	28. 6. 16
17	個人	23	門田 2 号墳出土埴輪	九州歴史資料館論集での再報告のため	28. 6. 17
18	九州前方後円墳研究会	一式	矢留堂ノ前遺跡等出土土器	九州前方後円墳研究会の勉強会	28. 6. 18
19	個人	一式	大宰府史跡出土貿易陶磁器	調査研究のため	28. 6. 22
20	個人	一式	大宰府史跡出土貿易陶磁器	調査研究のため	28. 6. 29
21	個人	1	須玖岡本遺跡出土鉄劍	論文作成のため	28. 6. 30

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
22	個人	2	門田 2 号墳出土埴輪	九州歴史資料館論集での再報告のため	28.7.1
23	個人	一式	山崎遺跡出土石器類	論文作成のため	28.7.6
24	個人	127	観世音寺跡出土砥石	調査研究のため	28.7.12
25	個人	1	岬山遺跡出土斜縁鏡	調査研究のため	28.7.12
26	個人	一式	大宰府史跡出土貿易陶磁器	調査研究のため	28.7.28
27	個人	一式	門田 2 号墳・諸田仮塚 1 号墳出土埴輪	論文作成のため	28.8.3
28	個人	一式	大宰府史跡出土貿易陶磁器	調査研究のため	28.8.3
29	個人	一式	内ヶ磯窯跡出土陶器	調査研究のため	28.8.10
30	個人	一式	内ヶ磯窯跡出土陶器	調査研究のため	28.8.17
31	福岡県文化財保護課	一式	徳永川ノ上遺跡等出土玉類	古代歴史文化協議会調査研究事業「古墳時代の玉類」のための調査研究・講演会報告・印刷物に使用するため	28.8.20
32	個人	一式	龍毛遺跡等出土火打石	調査研究のため	28.8.22
33	福津市教育委員会	一式	津屋崎古墳群等福津市内遺跡出土品		28.8.24
34	個人	一式	内ヶ磯窯跡出土陶器		28.8.24
35	個人	30	大宰府政庁跡等出土瓦		28.8.25
36	奈良文化財研究所	2	大宰府政庁跡出土飾板		28.8.26
37	個人	25	大宰府政庁跡出土円面硯等	論文作成のため	28.8.31
38	個人	一式	内ヶ磯窯跡出土陶器	調査研究のため	28.8.31
39	伊都国歴史博物館	25	半円方形帶獸帶鏡等	秋季特別展図録作成のため	28.9.8
40	糸島高校	1	飯盛山出土瓦経	博物館ガイドブック作成のため	28.9.13
41	個人	一式	久良々遺跡出土土器	調査研究のため	28.9.17
42	九州国立博物館	一式	新原・奴山古墳群出土品	特別展の広報・印刷物に利用	28.9.20
43	個人	一式	鷹取五反田遺跡等出土投弾形土製品	論文作成のため	28.9.28
44	福津市教育委員会	一式	津丸五郎丸遺跡等出土品	展示のための資料調査	28.9.30
45	古賀市教育委員会	一式	勝浦井ノ浦古墳出土金銅製杏葉	展示のための資料調査	28.9.30
46	大韓民国羅州博物館	一式	西新町遺跡出土土器	調査研究のため	28.10.5
47	小郡市埋蔵文化財調査センター	7	井上薬師堂遺跡等出土木簡、複製瓦	展示のための資料調査	28.10.17
48	個人	4	大野城跡等出土軒瓦	調査研究のため	28.10.18
49	大韓民国扶余文化財研究所	一式	大野城跡等出土百濟系軒丸瓦	調査研究のため	28.10.27
50	奈良文化財研究所	一式	内ヶ磯窯跡出土品	調査研究のため	28.10.28
51	高志の国文学館	一式	大宰府史跡出土品等	展示のための資料調査	28.11.11
52	愛媛大学	一式	曲り田遺跡出土土器	調査研究のため	28.11.22
53	個人	5	徳永神手遺跡等出土鉄器	論文作成のため	28.11.5
54	個人	9	大宰府政庁跡出土鴻臚館式古瓦	調査研究のため	28.12.9
55	個人	109	大野城跡百間石垣等出土土器	研究発表のため	28.12.11
56	個人	2	宮司井出ノ上古墳出土三角板革綴短甲等	調査研究のため	29.1.20
57	個人	一式	居屋敷遺跡出土鉄製品	調査研究のため	29.2.3
58	個人	3	石町遺跡出土繩文土器	論文作成のため	29.2.12
59	個人	61	曲り田遺跡等出土石斧	論文作成のため	29.2.16
60	個人	104	矢留堂ノ前遺跡出土弥生土器	調査研究のため	29.2.19
61	荒神谷博物館	一式	須玖岡本遺跡等出土ガラス玉	展示のための資料調査	29.2.21
62	福岡市博物館	一式	大宰府政庁跡等出土鬼瓦等	展示のための資料調査	29.3.1
63	鳥取県埋蔵文化財センター	1	津留遺跡出土方格規矩鏡	鳥取市秋里遺跡出土方格規矩鏡片との比較検討	29.3.1
64	個人	2	田中幸夫寄贈品方格規矩文鏡	論文作成のため	29.3.2
65	個人	一式	大宰府史跡出土軒瓦	調査研究のため	29.3.6
66	福岡県文化財保護課	一式	小倉谷横穴墓群出土玉類	古代歴史文化協議会調査研究事業「古墳時代の玉類」のための調査研究	29.3.7
67	国立歴史民俗博物館	14	大宰府政庁周辺官衙跡不丁地区出土漆付着遺物	展示のための資料調査	29.3.15
68	樺原考古学研究所	一式	西蒲池池淵遺跡出土ト骨	調査研究（科研）のため	29.3.16
69	大韓民国羅州文化財研究所	一式	番塚古墳出土馬具等	調査研究のため	29.3.16
70	個人	9	塔ノ原廃寺出土瓦	調査研究のため	29.3.26
71	個人	一式	浦ノ田遺跡等出土土器	報告書作成のため	29.3.28

#### 文書・典籍資料の貸出一覧（短期）

番号	貸出先（機関）	点数	利用資料名	利用目的	利用期間
1	甘木歴史資料館	7 点	地図・絵図史料・絵葉書史料	企画展「川と人とのものがたり～女男石護岸施設と治水と利水の歴史～」に展示	28.7.12～28.9.16
2	福岡県立美術館・九州大学総合研究博物館	17 点	絵葉書史料	企画展「九大百年 美術をめぐる物語」に展示	28.9.20～28.11.4
3	衆議院憲政記念館	5 点	永江文書・野田大塊文書	特別展「普通選挙を目指してー犬養毅・尾崎行雄ー」に展示	28.10.24～28.12.9

番号	貸出先（機関）	点数	利用資料名	利用目的	利用期間
4	芦屋歴史の里	111点	安高文書	企画展「お手柄！団兵衛さん～ある農民の記録より～」に展示	29.2.2～29.6.8

文書・典籍資料の貸出一覧（長期）

番号	貸出先（機関）	点数	利用資料名	利用目的	利用期間
1	筑豊高等学校	223点	筑豊工業高校資料	資料室における展示	28.4.1～29.3.31
2	福岡県青少年科学館	90点	筑豊工業高校資料	常設展示	28.4.1～29.3.31
3	九州国立博物館	1点	筑豊工業高校資料	常設展示	28.9.2～29.3.31

文書・典籍資料等の一時利用（資料見学等）

番号	所属	点数	利用資料名	利用目的	利用期間
1	大野城市教育委員会	111点	福岡日日新聞（紙焼）	調査研究	28.4.3～29.3.31
2	個人	1点	永江文書	調査研究	28.4.5
3	柳川市史編さん係（柳川古文書館内）	85点	永江文書・野田大塊文書	市史編纂	28.4.8～29.3.24
4	福岡市博物館市史編さん室	1	中尾文書	調査研究	28.4.12
5	個人	1点	福岡藩関係史料	調査研究	28.4.14
6	個人	21点	藤井文書・林（美）文書・「糟屋郡史」編纂資料	調査研究	28.4.22～28.6.15
7	田川市石炭・歴史博物館	1	筑豊工業高校資料	調査研究	28.5.10
8	個人	3	松屋文書	調査研究	28.5.21
9	福岡市総合図書館文学・文書課古文書係	14	中尾文書（紙焼）	調査研究	28.5.25
10	個人	2	福岡藩関係史料・福岡県史編纂資料（紙焼）	調査研究	28.6.4
11	福岡県立美術館	23	絵葉書史料	展示事前調査	28.6.10
12	古賀市教委・古賀市立歴史資料館	14	藤井（甚）文書・「糟屋郡史」編纂資料・中尾文書	調査研究	28.6.12
13	個人	3点	園田文書	調査研究	28.6.22
14	大野城市教育委員会	3点	福岡県統計書（紙焼）・福岡日日新聞（紙焼）	調査研究	28.6.26
15	衆議院憲政記念館	6	永江文書・野田大塊文書	展示事前調査	28.6.29
16	福岡市文化財保護課	220点	中尾文書・松村（△）文書・福岡日日新聞（紙焼）	調査研究	28.7.20～29.3.22
17	九州大学医学歴史館	6	宮川文書	展示事前調査	28.8.6
18	甘木歴史資料館	1	林（美）文書	調査研究	28.8.10
19	個人	10	福岡藩関係史料・藤井（甚）文書	調査研究	28.8.10
20	個人	13点	福岡日日新聞（紙焼）	調査研究	28.8.23～28.9.14
21	個人	7点	山北庄村屋文書	調査研究	28.8.25～28.9.7
22	個人	6	大浦家資料・石野文書・中尾文書	調査研究	28.9.8
23	個人	2点	福岡藩関係史料（紙焼）	調査研究	28.9.10
24	筑前町史編纂委員会	10点	金子家文書	町史編纂	28.9.27～28.10.18
25	福岡市総合図書館文学・文書課古文書係	28	松村（△）文書・林（美）文書	調査研究	28.10.13
26	個人	1	永江文書	調査研究	28.11.11
27	宮内庁書陵部編修課	3	福岡藩関係史料	調査研究	28.11.18
28	新修宗像市史編集委員会	29点	福岡日日新聞（紙焼）・西日本新聞（紙焼）	市史編纂	29.2.18～29.3.26
29	個人	5	松村（△）文書・福岡日日新聞（紙焼）	調査研究	28.11.24
30	個人	8点	佐々木（清）文書（紙焼）・絵葉書史料	調査研究	28.11.26
31	早稲田大阪学園・学園創立60周年事業準備室	3点	福岡日日新聞（紙焼）	学園史編纂	28.11.30
32	個人	3	鎌田（恒）文書	調査研究	28.12.7
33	個人	11	「糟屋郡史」編纂資料・本田（誠）文書・西川文書・福岡藩関係史料・山北庄村屋文書	調査研究	28.12.11
34	個人	1点	福岡県史編纂資料（紙焼）	調査研究	28.12.23
35	甘木歴史資料館	64点	足立文書・石橋文書・松村（△）文書・熊谷文書・中尾文書・秋吉文書・戦時婦人生活資料	調査研究	29.1.6～29.2.16
36	個人	35点	足立文書・永江文書・野田大塊文書・地図・絵図史料	調査研究	29.1.12
37	芦屋町教育委員会	90	安高文書	展示事前調査	29.1.18
38	個人	25	渡辺（半）文書	調査研究	29.1.20
39	個人	14	林（美）文書・石野文書・足立文書・中尾文書	調査研究	29.1.25
40	個人	3	地図・絵図史料	調査研究	29.2.21
41	個人	9	足立文書・石橋文書・大浦家資料・鎌田（恒）文書・庄崎文書・戸川（博）文書・福岡県酒造組合資料・松村（△）文書・水城文書	調査研究	29.3.8

番号	所属	点数	利用資料名	利用目的	利用期間
42	個人	90	伊東尾四郎文書・地域史収集資料・野田大塊文書・永江文書・安高文書・福岡県統計書（紙焼）・福岡日日新聞（紙焼）	調査研究	29.3.14
43	個人	52点	山北庄村屋文書・西川家文書・公文録（紙焼）・鎌水文書・石野文書・石野家文書	調査研究	29.3.16～29.3.29
44	個人	46点	松村（ム）文書	調査研究	29.3.17～29.3.18
45	個人	4	矢野文書・中尾文書・秋月諸家文書・大浦家資料	調査研究	29.3.20
46	個人	8	地図・絵図史料	調査研究	29.3.22
47	舞鶴古文書会	5	福岡藩関係史料	調査研究	29.3.26
48	個人	8	地図・絵図史料	調査研究	29.3.30

#### 写真資料等の貸出・掲載許可一覧

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的	仕様
1	はる制作室	1点	徳永川ノ上遺跡出土鉄劍	『平成版 おとなの歴史 謎多き古代史をめぐる』掲載	許可のみ
2	デアゴスティーニ・ジャパン	5点	大宰府政庁復元模型等、金銅十一面觀音懸仏、男女神坐像、三雲南小路遺跡、三雲南小路遺跡出土銅鏡	週刊『日本の神社』掲載	許可のみ
3	個人	4点	西新町遺跡出土土器（集合）、大野城と水城全景、大宰府政庁跡、貞淨寺2号墳短甲	『東北アジア装飾古墳の研究』掲載	デジタルデータ
4	同成社	2点	三雲遺跡出土甕棺、同刻書拡大	『倭人伝のクニグニ（仮）』掲載	デジタルデータ
5	ユニフォトプレスインター ナショナル	1点	大宰府政庁復元模型	『中学受験新演習社会小5下実力アップ問題集』掲載	デジタルデータ
6	三猿社	1点	三雲加賀石支石墓出土柳葉形磨製石鏡	『古代史再検証 卑弥呼と魏志倭人伝』（仮題）	許可のみ
7	個人	1点	塙田遺跡出土琴柱形石製品	『大谷力造氏卒寿・武部吉宏氏喜寿・小賀直樹氏喜寿・中村貞史氏古希・富加美泰彦氏還暦記念献呈論集一と歌山県考古学論集1-』掲載	許可のみ
8	個人	1点	西隈古墳横穴式石室と横口式家型石棺	『東北アジアの装飾古墳の研究』掲載	許可のみ
9	グレイル	1点	大宰府政庁復元模型	別冊宝島『万葉集とは何か』（仮称）	デジタルデータ
10	個人	1点	大宰府政庁復元模型	『人麻呂のこころと時代を詠む』掲載	デジタルデータ
11	荒神谷博物館	7点	曲り田遺跡関係、三雲遺跡関係	特別展「伊都国一大鏡と女王のクニー」の展示図録、チラシ、看板に掲載	デジタルデータ
12	NSST	1点	貝元遺跡出土鋳造鉄斧	アジア鋳造技術史学会誌『FUSUS』9号掲載	許可のみ
13	エスオーダブリュ	1点	觀世音寺絵図	Jテレ「発見！筑紫の歴史 時空の旅人」#63「戒壇院」放映	デジタルデータ
14	海鳥社	1点	水城西門全景	『太宰府紀行』掲載	デジタルデータ
15	雄山閣	5点	太宰府口城門跡、クロガネ岩城門跡、百間石垣、主城原礎石群の掘立柱建物跡、増長天礎石群	『季刊考古学』第135号掲載	デジタルデータ
16	荒神谷博物館	2点	三雲南小路遺跡出土金銅四葉座飾金具	特別展「伊都国一大鏡と女王のクニー」の展示図録、チラシ、看板に掲載	デジタルデータ
17	新泉社	1点	門田遺跡出土爪形文土器	勅使河原彰著『繩文時代史』掲載	デジタルデータ
18	近つ飛鳥博物館	3点	王塚古墳、日ノ岡古墳、珍敷塚古墳	夏季企画展「古代人がみた色と光－色彩と輝きの考古学－」の展示パネル・小冊子・ポスター・チラシ・ホームページ等掲載	許可のみ
19	角川振興財団	3点	三雲遺跡出土連弧文青白鏡、ガラス壁、金銅四葉座飾金具	『発見・検証 日本の古代』第1巻掲載	許可のみ
20	西日本メディアラボ	6点	水城跡第5次調査木樁、水城跡第8次調査木樁取水部、觀世音寺伽藍絵図、大野城と水城、大野城跡（四王寺山）と大宰府政庁跡、大野城土壘線	J:COM番組「今から来るけん 福岡県」放映	デジタルデータ
21	オフィス・イディオム	1点	大宰府政庁復元模型	学研プラス『ヒストリカ』掲載	デジタルデータ
22	雄山閣	7点	水城と大野城、水城切通し部調査地遠景、水城切通し部土壘断面、土壘前面部の状況、敷粗朶出土状況、大野城跡出土軸摺金具、大野城跡北石垣城内での金具出土状況	『季刊考古学』第135号掲載	許可のみ
23	日田市立博物館	1点	春日市辻田遺跡出土筆	常設展示室パネル掲載	許可のみ
24	碧水社	1点	太宰府口城門跡	ユーキャン刊『城大全』掲載	許可のみ
25	海鳥社	2点	大宰府政庁跡と大野城跡、求菩提山普賢窟発見の銅板法華經銅筈	『豊前英彦山 その歴史と信仰』	デジタルデータ
26	西日本新聞	1点	市ノ上遺跡発掘の模様	西日本新聞朝刊連載中記事掲載	デジタルデータ
27	第一法規	8点	特別史跡水城跡の土壘断面、水城跡JR切通部調査遠景、水城跡土壘断面調査状況、水城跡土壘積土状況、土壘前面端部の積土状況、敷粗朶出土状況、水城跡土壘断面公開風景、土壘断面解説風景	『月刊文化財』4月号掲載	デジタルデータ
28	太宰府市文化ふれあい館	1点	筑前国分寺跡塔跡発掘調査写真	平成28年度「まるごと太宰府歴史展2016」の展示および印刷物掲載	デジタルデータ
29	大和書房	3点	《九州の寺社シリーズ12》『対馬 樅根 法清寺観音堂』所収写真	『仏像風土記』掲載	デジタルデータ

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的	仕様
30	九州国立博物館	2点	延永ヤヨミ園遺跡出土墨書き土器、木樋	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」の展示図録・広報関係・事業用報告書等掲載	デジタルデータ
31	メック	1点	大宰府展示館展示資料（円面鏡、筆、木簡等）	ケービレッジ「福岡歴史ロマン」放映	許可のみ
32	メック	21点	大宰府政府・水城の発掘調査、保存整備等に関する画像・イラスト	ケービレッジ「福岡歴史ロマン」放映	許可のみ
33	コーベットフォトエージェンシー	1点	三雲サキゾノ地区1号住居跡出土庄内式甕	東京法令出版刊『日本史のライブラリー』掲載	デジタルデータ
34	豊前市教育委員会	2点	荒堀雨久保遺跡B地区全景、同出土須恵器木葉文甕木葉文拡大写真	豊前市埋蔵文化財センター企画展「豊の道～人・物・文化の行き交うところ～」の展示関係掲載	デジタルデータ
35	吉川弘文館	1点	水城と大野城	齋藤慎一・向井一雄『日本城郭史』（仮題）	許可のみ
36	伊都国歴史博物館	6点	「竟」刻書土器等（申請者撮影）	秋季特別展「平原王墓とその時代（仮題）」	デジタルデータ
37	大韓民国福泉博物館	8点	門田遺跡出土鉄剣・鉄戈、汐井掛遺跡出土素環頭刀子、仙道古墳出土桶持埴輪	福泉博物館開館20周年及び釜山市～福岡市文化交流20周年記念国際交流展『日本古代文化への招待』の展示・展示図録掲載	デジタルデータ
38	那珂川町教育委員会	28点	安徳王塚古墳	文化財保存活用に資する広報活動における掲載	デジタルデータ
39	四王寺県民の森	1点	大野城跡の航空写真	四王寺県民の森協議会主催の森林浴と史跡探訪を目的とするウォーキングのチラシ掲載	デジタルデータ
40	NSST	2点	貝元遺跡出土鋳造鉄斧	世界考古学会議の展示パネル掲載	デジタルデータ
41	西日本文化協会	1点	妙心寺梵鐘銘文	『西日本文化』秋季号掲載	許可のみ
42	九州桃山茶陶研究会	5点	内ヶ磯窯跡出土陶器	福岡藩「内ヶ磯窯」の謎に迫る「桃山茶陶と織部高取」展の図録・展示物・記録用DVD掲載	デジタルデータ
43	かみゆ	1点	大野城と水城の空撮写真	学研『よくわかる 日本の城（仮）』掲載	デジタルデータ
44	角川振興財団	1点	小郡市花聴2号墳の板状鉄斧	『発見・検証 日本の古代』第2巻掲載	デジタルデータ
45	久山町	1点	伝白山神社経塚出土品	『（仮）8,500人のまちづくり』掲載	デジタルデータ
46	雄山閣	3点	西新町遺跡VII区古墳時代遺構全景、西新町遺跡II22号住居跡、西新町遺跡IX朝鮮半島系土器	『季刊考古学』第137号掲載	デジタルデータ
47	平凡社	2点	外ノ限遺跡V区2号住居跡	別冊太陽『古墳時代の歴史と美』掲載	デジタルデータ
48	筑前町教育委員会	2点	大野城跡百間石垣、大宰府跡不丁地区出土「夜須郡苦木簡」	仮称『筑前町の歴史』（『筑前町史ダイジェスト版』）	許可のみ
49	筑紫野市歴史博物館	2点	袖須原の木造聖観音坐像、同後背銘文	企画展「ちくしの博覧会～指定文化財からたどる筑紫野市の歴史と文化～」の図録掲載	許可のみ
50	直方市教育委員会	43点	内ヶ磯窯跡出土陶器	パー・チャル博物館内高取焼紹介ページ掲載	デジタルデータ
51	環境デザイン機構	1点	大野城全景	『西日本文化』秋季号掲載	許可のみ
52	沖縄県立博物館・美術館	17点	宗原遺跡出土品、門田遺跡出土爪形土器、西北九州産黒曜石原石	特別展「港川人とその後」の来場者の個人利用目的での撮影、広報目的の映像・写真撮影	許可のみ
53	第一学習社	1点	大宰府政府復元模型	高等学校日本史副教材『最新日本史図表』掲載	許可のみ
54	奈良文化財研究所	1点	大宰府復元俯瞰イラスト	『An Illustrated Companion to Japanese Archaeology』掲載	許可のみ
55	青谷上寺地遺跡展示館	1点	三雲南小路遺跡出土ガラス壁	ロビー展「ガラスの玉ー小さな世界」のパネル展示掲載	デジタルデータ
56	九州国立博物館を愛する会	1点	古代の文房具	セミナーチラシ掲載	許可のみ
57	個人	2点	伝岩戸山古墳出土武装石人頭部（正福寺所蔵）、岩戸山古墳全景写真	篠川賢・大川原竜一・鈴木正信編『国造制・部民制の研究』掲載	許可のみ
58	伊都国歴史博物館	5点	徳永川ノ上遺跡C地区遠景、徳永川ノ上遺跡E地区遠景、徳永川ノ上遺跡E地区4号墳丘墓、汐井掛遺跡、祇園山古墳遠景	秋季特別展「平原王墓とその時代（仮題）」の展示・展示図録・広報用刊行物掲載	許可のみ
59	吉川弘文館	2点	水城と大野城、大宰府政府復元模型	向井一雄『古代山城を探る』（仮題）掲載	許可のみ
60	JTB コミュニケーションズ九州	1点	九州歴史資料館外観	フリーペーパー「cocomi」掲載	デジタルデータ
61	尼崎市教育委員会	7点	三雲南小路遺跡1号甕棺墓出土ガラス壁、西新町遺跡出土ガラス玉・小玉鋳型、ヒルハタ遺跡銅鏡鋳型	尼崎市立田能資料館特別展「弥生のガラスー二千年前の装飾品ー」の展示パネル・パンフレット等掲載	デジタルデータ
62	古賀市教育委員会	1点	奴山34号墳出土銅鈴	国史跡指定記念企画展「船原古墳展」の図録掲載	デジタルデータ
63	小郡市教育委員会	5点	大宰府政府跡、井上薬師堂遺跡、干潟遺跡	特別展『上岩田遺跡とその時代展～評から郡へ～』の展示パネル・パンフレット・史跡ガイドブック掲載	デジタルデータ
64	飯塚市歴史資料館	1点	目尾炭坑 明治34年頃	新市合併10周年・飯塚市歴史資料館開設35周年記念講演会で使用	デジタルデータ
65	産経新聞九州総局	1点	觀世音寺藏青磁三足壺	高倉洋彰氏寄稿「歴史のささやき」掲載	デジタルデータ
66	「博多町家」ふるさと館	10点	太田清六資料、福岡県史編纂史料	企画展『博多駅の変遷展（仮称）』	デジタルデータ
67	考古学研究会	7点	水城跡空中写真、水城跡第58次調査写真、『水城跡』下巻 Fig. 208、Pl. 7(2)	『考古学研究』251号掲載	デジタルデータ
68	海鳥社	8点	浮嶽神社の木造仏坐像・地蔵菩薩立像・如来立像、旧若杉觀音堂木造千手觀音立像、飯盛神社宋風獅子・瓦経・『筑前国続風土記附録』「荒平古城・東油山」の図、伝白山神社経塚出土品	江上智惠著『福岡歴史の山歩き』掲載	許可のみ

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的	仕様
69	平凡社	1点	天園 2 号墳出土縦走ガラス玉	別冊太陽『古墳時代の歴史と美』掲載	許可のみ
70	悠工房	1点	水城全景写真	(株)創育発行『歴史基本用語集』掲載	デジタルデータ
71	西日本文化協会	1点	絵葉書「萃香園の冬景色」	『西日本文化』新年号掲載	許可のみ
72	奈良県	1点	大宰府政庁復元模型	刊行物「古代を創った人びと 聖武天皇と光明皇后」の冊子・ホームページ・広報に掲載	デジタルデータ
73	かみゆ	1点	水城跡全景空撮	学研『パノラマ鳥瞰図(仮)』掲載	許可のみ
74	高志の国文学館	1点	大宰府学校院出土文様埴(長方形)	大伴家持生誕 1300 年記念企画展「官人 大伴家持－困難な時代を生きた良心－」のチラシ・ウェブサイト・新聞広告・プレスリリース等に掲載	デジタルデータ
75	アジア文化交流センター	1点	大野城跡航空写真	九州国立博物館「大宰府研究」事業・熊本県「古代山城に関する研究会」事業合同シンポジウム『徹底追及! 大宰府と古代山城の誕生』のポスター・チラシ・HP 等の広報、シンポジウム配布資料掲載	デジタルデータ
76	西田川高等学校	1点	『発掘新聞』平成 27 年度第 1 号	西田川高校 HP 掲載	デジタルデータ
77	西日本文化協会	2点	觀世音寺の礎體	『西日本文化』新年号掲載	デジタルデータ
78	講談社	2点	西新町遺跡出土朝鮮半島系土器、石錐	高田貴大著『海の向こうから見た倭国』掲載	許可のみ
79	悠工房	1点	大宰府政庁復元模型	東京書籍刊『平成 29 年度標準学力検査 +1 学期版 (小学校社会科)』掲載	デジタルデータ
80	雄山閣	1点	石崎曲り田遺跡出土繩文晚期土器	『季刊考古学』第 138 号掲載	デジタルデータ
81	奈良文化財研究所	5点	曲り田遺跡出土土器・石器・土製品、門田遺跡出土鉄戈、以来只遺跡出土金属製品、日永遺跡出土青銅器	『An Illustrated Companion to Japanese Archaeology』掲載	許可のみ
82	個人	1点	伝白山神社経塚出土品	『中古中国の視覚文化』掲載	許可のみ
83	テレビ朝日映像	1点	大宰府政庁復元模型	BS 朝日の番組『新・百寺巡礼(仮)』	許可のみ
84	はる制作室	2点	徳永川ノ上遺跡出土鉄劍、門田遺跡出土鉄戈	宝島社刊『知つて得する知恵袋 BOOKS シリーズ『最新学説で読み解く 日本の古代史』掲載	許可のみ
85	九州文化協会	1点	大宰府史跡出土文様埴拓影	『平成 28 年度九州芸術祭文学賞作品集 47 号』掲載	許可のみ
86	久留米市古森野校区まちづくり振興会	1点	『田中幸夫寄贈品目録』掲載 060 - 2 弐生式壺形土器	『古森野校区郷土誌』(仮称)掲載	デジタルデータ
87	山口県立美術館	1点	北九州市大興善寺所蔵釈迦如来立像(福岡県指定文化財)	「創建 1250 年記念 奈良 西大寺展 - 教尊と一門の名宝 -」の展覧会図録・広報用印刷物・インターネット媒体等掲載	デジタルデータ
88	高志の国文学館	19点	大宰府全景(空撮)、水城と大野城、大宰府政庁跡(空撮)、大宰府跡出土鬼面文鬼瓦、大宰府学校院跡出土文様埴(三角形・長方形)、大宰府跡出土政庁 II 期軒瓦、觀世音寺出土白玉製腰帶具(鈍尾)、腰帶(復元)、御笠团印(複製)、遠賀团印(複製)、水城銘墨書き土器、大城銘墨書き土器、太宰府口城門跡出土鬼面文鬼瓦、藏司地区出土唐三彩陶枕、唐三彩陶枕(復元)、御笠团銘木簡、兵士合五十九人銘木簡、三団兵士銘木簡	大伴家持生誕 1300 年記念企画展「官人 大伴家持－困難な時代を生きた良心－」の展示パネル・図録掲載	デジタルデータ
89	大韓民国百濟世界遺産センター	3点	西新町遺跡 12 次 22 号建物跡出土遺物、水城城壁切開後写真、大野城跡全体配置図・建物跡平面図	日本の中の百濟関連遺産アーカイブ構築および研究報告書掲載	許可のみ
90	行橋市教育委員会	5点	福原長者原遺跡の遺構及び遺物	福原長者原遺跡の国指定史跡にかかる意見具申書掲載	許可のみ
91	ハウフルス	1点	博多太宰府図屏風	テレビ東京(九州放送)の番組『出没! アド街ック天国』放送	許可のみ
92	グレイル	1点	大宰府政庁復元模型	辰巳出版『地形と海路から解き明かす! あなたの知らない古代史』	許可のみ
93	太宰府市	1点	博多太宰府図屏風右隻	太宰府観光総合パンフレット掲載	デジタルデータ
94	個人	10点	最新式門司商工地図、最新式小倉商工地図、最新式若松商工地図、八幡新市街図、最新式八幡商工地図、製鉄所事業一覧製鐵所及び付近図、八幡市一覧図、八幡市、八幡製鐵所及付近図、最新式戸畠商工地図	日本学術振興会二国間交流事業(共同研究)「インドと日本における都市成長の比較史鉄鋼都市を事例にして」の研究に利用	デジタルデータ
95	水巻町教育委員会	1点	香月村壽命唐戸通舟景 遠賀郡香月村香月 明治 30 年代初頭頃	「堀川文化財総合調査」掲載	デジタルデータ
96	糸島市教育委員会	5点	三雲南小路 1 号甕棺・2 号甕棺出土状況、2 号甕棺、三雲加賀石文石墓上石・下部構造、三雲遺跡仲田地区前期甕棺出土状況	三雲・井原遺跡の国指定史跡にかかる意見具申書掲載	許可のみ
97	直方市教育委員会	7点	旧福岡県立筑豊工業高校所蔵写真	旧筑豊石炭鉱業組合直方会議所及び救護練習模擬坑道保存対策調査報告書掲載	デジタルデータ
98	福岡市博物館	1点	福岡勧業雑誌	『新修 福岡市史特別編活字メディアの時代』掲載	デジタルデータ
100	小郡市教育委員会	1点	大宰府史跡全景	小郡市埋蔵文化財調査センター HP 掲載	許可のみ
101	行橋市教育委員会	5点	福原長者原遺跡写真	シンボジウム「豊前国府誕生 - 福原長者原遺跡とその時代 -」の配布資料掲載	許可のみ
102	八女市	1点	真淨寺古墳(本 6 号墳)出土短甲(2 号)	岩戸山歴史文化交流館配布小学生用冊子掲載	許可のみ
103	直方市教育委員会	72点	内ヶ磯窓跡出土陶器	パンフレット等掲載	許可のみ

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的	仕様
104	ユニット	1点	王塚古墳石室	BS ジャパン「空から日本を見てみよう+」放映	デジタルデータ
105	朝倉市教育委員会	1点	朝倉郡図	朝倉市秋月博物館ガイドブック『ASAKURA』、常設展示展示パネル掲載	許可のみ
106	文楽堂	3点	鷹取五反田遺跡出土摘録・鉋、三雲遺跡寺口地区出土鋤先	株式会社富士珈機コンセプトブック掲載	許可のみ
107	太宰府市文化ふれあい館	4点	太宰府史跡出土紫草関係木簡	「古代太宰府と管内諸国展」の展示	デジタルデータ
108	久留米市	4点	塚崎東畑遺跡掲載写真	「発見！弥生の装飾 in 高三瀬遺跡」のパネル掲載	許可のみ
109	文芸社	1点	太宰府政府復元模型	武田ひさこ著『おかあさん、日本の国つづり始まつたの？』掲載	デジタルデータ
110	公益財団法人飯塚市教育文化振興事業団	1点	王塚古墳石室	インターネットサイト「古代史情報サイト」掲載	許可のみ
111	「あげなどげな」発行人	1点	珍敷塚古墳壁画	筑後地域文化誌「あげなどげな」第10号掲載	許可のみ
112	海鳥社	2点	博多太宰府図屏風、筑前国太宰府神社之全景及十二景	海鳥社刊「さいふまいり」掲載	デジタルデータ
113	共同テレビジョン	1点	加藤清正書状 今川家文書	NHK「おんな城主紀行」放映	デジタルデータ
114	福津市教育委員会	2点	新原・奴山5号墳出土土師器集合写真、同須恵器集合写真	新原・奴山古墳群整備で設置する解説版掲載	デジタルデータ
115	公益財団法人古都太宰府保存協会	7点	観世音寺跡出土遺物、復元図等	『観世音寺』掲載	許可のみ
116	みやま市教育委員会	91点	清水山遺跡群・中園遺跡・小川柳ノ内遺跡・上枇杷遺跡・海津横馬場遺跡・面の上1号墳・大道端遺跡・權現塚南遺跡・旧柳川藩干拓遺跡・三船山遺跡・大江北遺跡・金栗遺跡・上庄秀遺跡・郡領ノ内遺跡・前田遺跡・藤の尾垣添遺跡・ガラン遺跡・牛島遺跡・本吉遺跡・松延遺跡・長谷古墳群・大谷古墳群・車塚古墳群関係写真、女山出土骨蔵器・村山氏作成遺跡分布図	みやま市史掲載	許可のみ
117	公益財団法人古都太宰府保存協会	6点	水城跡出土遺物・発掘状況・イラスト等	文化遺産マップ「特別史跡水城跡文化遺産巡りマップ」掲載	許可のみ
118	太宰府市教育委員会	2点	水城跡全景写真、水城跡模型写真	水城館での展示説明パネル掲載	許可のみ
119	太宰府市教育委員会	3点	水城跡模型写真、水城跡木樁取水口写真、水城跡第24次調査の積土土層と敷粗朶の写真	水城跡を紹介するパンフレット掲載	許可のみ
120	個人	1点	真淨寺古墳(本6号墳)出土短甲(2号)蝶番金具	『宮崎県立西都原考古博物館研究紀要』第13号掲載	許可のみ
121	甘木歴史資料館	98点	原の東遺跡出土台形石器等	春季企画展「朝倉の遺跡ロードー筑後川北岸の古代遺跡ー」の展示および印刷物掲載	デジタルデータ
122	甘木歴史資料館	94点	十字型石器等	春季企画展「朝倉の遺跡ロードー筑後川北岸の古代遺跡ー」の展示および印刷物掲載	デジタルデータ
123	ドリームキングダム	8点	政府跡空撮、太宰府政府復元模型、水城跡全景空撮、水城西門跡(第26次調査)、木樁(第5次調査)、大野城跡全景空撮	『忘却の日本史～Another History～九州篇』第8号掲載	デジタルデータ
124	エフスタジオ	7点	日本書紀天智天皇三年是歲条、水城跡復元図、水城復元模型、水城土壙全景、水城西門跡の調査(第26次調査)、下成土壙の積土(版築)、水城東門跡周辺の調査(第24次調査)	太宰府市便益施設「水城館」での展示映像	許可のみ

## (4) 学習支援・博学連携

### ◎学習支援活動

#### ○来館学習

28年度も、小学6年生、中学1年生が学習する時期に合わせて4~8月に開催する企画展「きゅうおにとタイムトラベル」を開催した。ここでは、福岡県内の遺跡から出土した資料を教材として、学習指導要領のねらいに迫ることができるよう、来館学習を展開した。縄文・弥生時代の道具を比較し、それぞれの特色を読み取れるよう子どもたちに問い合わせ視点を示してから見学をさせた。長い期間、豊かな自然の中で狩猟や採集の生活が営まれていたこと、農耕が始まったころの人々の生活や社会の様子が分かるように、道具を通してそれらを使っていた人々の暮らしに目を向けさせた。来館学習用のワークシートを作成して配布し、気づいたことや考えを記入できるようにした。

第1展示室では、自由見学を中心とし、子ども達が個々に「お気に入り」の資料を自由に見て回る活動を行った。子ども達は、関心をもったものについて質問し、多くの展示資料の中からそれぞれに「お気に入り」を見つけ、それがどんな物なのかメモを取っていた。

第4展示室では、8つの遺構展示それぞれにかかわる当時の人々の様子を思い浮かべられるよう解説をした。また本物の出土資料を活用したハンズオン体験も取り入れ、土器や石器など昔の生活用具に直接触れることにより、昔の人びとを身近に感じる内容とした。さらに、中庭では、取り上げた遺物を科学を駆使して分析し、丁寧に修復・整理し、記録する作業についての説明に、興味深そうに見聞きする姿が見られた。

小郡市埋蔵文化財調査センターとの連携を図り、27年度までと同様、市内の小学校には両施設を活用してもらった。

学校団体関係者の来館者総数は以下のとおりである。

期日	学校名及び学年	来館者
4月12日(火)	小郡市立小郡小学校(6年生)	115名
4月13日(水)	朝倉市立甘木小学校(6年生)	82名
5月2日(月)	小郡市立味坂小学校(6年生)	31名
5月6日(金)	小郡市立御原小学校(6年生)	26名
5月11日(水)	小郡市立大原小学校(6年生)	63名
6月1日(水)	小郡市立のぞみが丘小学校(6年生)	159名
6月2日(木)	大野城市立大野東中学校	193名
6月3日(金)	小郡市立三国小学校(2/6クラス)	64名
6月7日(火)	小郡市立三国小学校(2/6クラス)	65名
6月8日(水)	小郡市立三国小学校(2/6クラス)	64名



来館学習

6月9日（木）	小郡市立立石小学校（6年生）	30名
6月15日（水）	小郡市立東野小学校（6年生）	43名
7月1日（金）	久留米大学附設中学校	161名
来館学習合計		1,096名

### ○スクールミュージアム事業

スクールミュージアム事業は、福岡県内の公立小・中・高等学校、中等教育学校、特別支援学校を対象として、一般財団法人福岡県教職員互助会、福岡県立美術館、福岡県青少年科学館及び九州歴史資料館が合同で実施しているものである。四者で児童生徒の鑑賞活動や科学体験活動、歴史・考古資料見学・考古学体験活動にかかる合同事業を行うことにより、情操教育、美術教育、科学教育、歴史教育の活性化及び地域文化の振興発展に寄与することを目的としている。当館は27年度から参画し、28年度は小学校4校、高等学校1校が来館した。



スクールミュージアム事業

事前に学校との打ち合わせを行い、学習進度、児童・生徒の関心、先生方のねらいを十分に聞いてプログラムを作成したこと、各学校のニーズに答えることができた。

例えば、久留米市立西牟田小学校は、学校側から、縄文時代と弥生時代の暮らしについて学ばせたいという要望があったために、第2展示室で縄文時代と弥生時代の出土資料の比較による当時の人々の暮らしぶりについての学習だけではなく、第1展示室でも専門の学芸員が縄文時代と弥生時代の出土資料の説明を行った。

スクールミュージアム事業での来館者総数は以下のとおりである。

期日	学校名及び学年	来館者
4月20日（木）	久留米市立西牟田小学校（6年生）	57名
5月11日（木）	福岡市立田隈小学校（6年生）	65名
5月12日（金）	岡垣町立内浦小学校（6年生）	21名
6月2日（金）	大木町立木佐木小学校（5年生）	58名
10月20日（金）	福岡県立三池工業高校（定時制）	78名
スクールミュージアム総数		279名

### ○中学校職場体験

27年度は、11校67名の中学生を受け入れ、職場体験を行った。中学校校長会等での当館の事業説明の影響か、職場体験の申込みが26年度より大きく増加した。内容は館内の見学、土器の洗浄・復元、拓本、図書整理作業など博物館ならではの仕事のほか、警備、受付、清掃などいろいろな業務を体験することを通して、多くの人の様々な仕事によって館全体の事業が成



中学校職場体験

り立つことや共に働く同僚の大切さなどに気づかせ、日常生活における自分の在り方・生き方を考えさせることを目指した。また、26年度に引き続き、不登校傾向中学生支援のフレッシュキャンプも受け入れた。

実施日と参加学校団体は以下のとおりである。

期間	学校名	参加人数
6月4日（木）	小郡市立立石中学校 2年生	7名
8月4日（火）～8月5日（水）	小郡市立三国中学校 2年生	6名
9月9日（水）～9月11日（金）	大野城市立大利中学校 3年生	6名
9月15日（火）～9月16日（水）	太宰府市立学業院中学校 2年生	5名
12月11日（金）	フレッシュキャンプ（不登校傾向中学生支援）	15名
1月19日（火）～1月21日（木）	大野城市立大野東中学校 2年生	6名
1月27日（水）	春日市立春日野中学校 2年生	3名
1月28日（木）～1月29日（木）	筑紫野市立二日市中学校 2年生	5名
2月23日（火）～2月24日（水）	筑紫野市立筑紫野南中学校 2年生	6名
2月25日（木）～2月26日（金）	筑紫野市立筑山中学校 2年生	2名
3月2日（火）～3月3日（水）	春日市立春日東中学校 1・2年生	6名
職場体験合計		67名

## ○高校生インターンシップ

28年度は、高校教育課より委託を受けて行う「福岡県教育庁等高校生インターンシップ」を3回、また、県立三井高等学校が独自で実施するインターンシップを1回実施した。インターンシップはで、中学生職場体験との差別化を図り、歴史系博物館ならではのプログラムを提供した。職業体験の機会を提供し、勤労観・職業観を養い、職業選択能力の伸長への支援を目指した。高校生にとっては、自己の生き方、在り方を考える時間となったと考える。



高校生インターンシップ

研修の日程、内容、参加人数は以下のとおりである。

	午 前	午 後
1日目	開講式、オリエンテーション、館内見学	受付業務、広報普及業務
2日目	学芸員業務体験、図書整理、遺物整理	遺物整理、図書整理、広報普及業務
3日目	企画展展示準備、報告書作成、閉校式	

期 日	学 校 名	参加人数(名)
7月20日（水）～22日（金）	福岡県教育庁等高校生インターンシップ（2年生）（戸畠2・光陵1・城南1・福岡工業2・久留米2・大牟田北2・ありあけ新世2）	12名
7月27日（水）～29日（金）	福岡県立三井高校学校（2年生）	1名

8月19日（水）～21日（金）	福岡県教育庁等高校生インターンシップ（2年生）（輝翔館1・博多青松1・筑紫丘1・久留米1・三池2・八女2）	8名
8月17日（水）～19日（金）	福岡県教育庁等高校生インターンシップ（2年生）（糸島1・小郡1・光陵2・明善1・久留米2・伝習館1）	8名
インターンシップ総数		20名

### ○出前授業

28年度は、大野城市立大野東中学校から1・2年生に対して、キャリア教育として、「夢いっぱい講座～働く人に学ぶ」についての出前授業の依頼があった。様々な職業についての興味を高めることをねらいとして、教育普及担当と保存科学を専門とする学芸員2名で出前授業を行った。

また、同じく春日市立春日野中学校から1年生を対象としたキャリア教育として、「発掘調査技師としての職業観」についての出前授業の依頼があり、保存化学を専門とする学芸員が出前授業を行った。

### ○出前講座

「教科書だけでは古代や地域の歴史を理解させにくい。」「博物館に連れて行きたいが、時間が取れない。」、そんな学校側の悩みを解消するために、29年度より出前講座を行うこととした。ただし、県内各市町村が実施している「地域の文化財を活用した『出前授業』との関係から、「当館ならではの講座」ということでメニューを抽出した。29年度実施分のメニューは以下のとおりである。今後、実施できるテーマを増やしていく予定である。

番号	テーマ	内容	対象		
			小	中	高
1	学芸員の仕事	学芸員ってどんなことをするの？学芸員になったきっかけは？学芸員になるためには？そんな疑問に答えながら、文化財を守る・伝える仕事についてお話しします。	○	○	○
2	文化財発掘技師の仕事	文化財発掘技師はどんな仕事をしているか？どうしたらなれるの？なんのために発掘しているの？そんな疑問にお答えします。	○	○	○
3	考古学の手法	出土資料の年代が、どうやってわかるのかについて、様々な方法を紹介します。奈良時代や江戸時代の瓦の拓本体験も可能です。			
4	縄文時代から弥生時代へ～暮らしの移り変わり～	縄文時代から弥生時代にかけての人々の生活の移り変わりについて紹介します。	○	○	○
5	土器 縄文土器・弥生土器 土師器・須恵器・陶磁器	縄文時代から中世に使われた焼き物の移りわりについて紹介します。		○	○
6	古代大宰府について	古代（飛鳥・奈良・平安時代）の大宰府に関わる歴史、ゆかりの人物などについて、お話しします。（例）大宰府の成立、齊明天皇と朝倉宮、水城と大野城の造営、律令制地方支配の仕組みなど。	○	○	○
7	木簡と墨書き土器について	大宰府を中心とする木簡、墨書き土器など出土文字資料の世界と、その研究からみえる古代社会について、お話しします。	○	○	○
8	筑紫君磐井の乱	古代の日本列島統一過程での最大の内乱とも言われる筑紫君磐井の乱の背景と結果についてお話しします。	○	○	
9	記紀神話について	記紀神話のあらすじを解説し、『古事記』『日本書紀』の成り立ちについてお話しします。	○	○	○
10	大宰府と万葉集	万葉集にみえる福岡ゆかりの和歌や大伴旅人・家持父子の話を紹介します。	○	○	○
11	大宰府と菅原道真	菅原道真の生涯、太宰府天満宮と菅原道真の関係、福岡に伝わる天神伝承について紹介します。	○	○	○
12	仏像の見かた	奈良や京都に行かなくても、意外と身近な所に、各地域の個性的な歴史の証人である古仏が存在しています。そんな古仏を紹介し、その見かたをお話しします。	○	○	○
13	大陸から渡來した造形遺品	大陸との交流の最大の窓口であった九州には、他の地方には見られないような、大陸から渡來した仏像や石塔が多く存在しています。それらを通して、九州の歴史や文化の特質についてお話しします。	○	○	○

14	大宰府式鬼瓦について	古代九州を統轄した役所である「大宰府」でだけ使用された大宰府式鬼瓦は、「大宰府」のシンボルであり、日本の鬼瓦の最高傑作です。この大宰府式鬼瓦を通して、「大宰府」や古代九州のあり方についてお話をします。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
15	福岡県の城	古代から近世に掛けて築かれた福岡県内のお城について紹介します。	要 相 談	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
16	福岡県の近代	福岡県の近代（特に都市発展、鉄道建設、製鉄と炭鉱の盛衰）について、地図と絵葉書などから紹介します。		<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>

### ○博学連携ワークショップ

期日：平成 28 年 7 月 27 日（水）

内容：学校教育における博物館活用の促進を図るために、当館がこの地にあること、学習支援の実際、博物館活用のよさの周知が必要であるとの考え方から、小学校の先生方を対象としたワークショップを 7 月に開催した。「学校と博物館でつくる来館学習ワークショップ in 九歴～博物館を生かした『楽しみながら学ぶ』学習を先生とともに～」と銘打ち、小郡市内の小学校社会科部の先生方ともに行った。参加者は 17 名であった。



意見交流の場面では、博物館を活用する効果や、よりよい展示、学習活動の在り方についていろいろな意見が出された。また、当館学芸員と意見交流をすることができた。先生方を、博物館を活用した学習の主体者に巻き込み、実際の学習を指導する授業者の目線、子どもたちの目線に立った声をいかして、展示や学習活動の改善を図っていく方向である。

日程は以下のとおりである。

	内 容	場 所
12:30～13:00	受付	文化情報広場
13:00～13:05	開会行事（オリエンテーション）	研修室
13:05～13:35	来館学習の説明	研修室
13:35～15:10	館内見学（展示解説）バックヤードを含む	各展示室、一般収蔵庫
15:10～15:20	休憩	
15:20～15:50	情報交換・意見交流	研修室
15:50～16:00	閉会行事（アンケート記入）	研修室

### ○八女地域の歴史を知る in 九州歴史資料館

#### ～特別展「八女の名宝」から～

期日：平成 28 年 10 月 26 日（水）

内容：郷土に誇りをもった児童・生徒の育成には、地域の文化財を生かした教材による社会科学習が大切である。しかし、教材作成に時間を費やすことができなかったり、どの様にして地域の文化財を教材化したりすればいいのか分からずの先生方を多くいる。そんな悩みを解消するために、28 年度から新

たに始めた研修である。特別展会期中に展示資料を題材とした研修を行うことで、地域の文化財を活用した教材作成を推奨するものである。28年度は特別展会期中に八女地域の小・中学校の先生方を対象として企画した。当日は八女市の社会科部の小学校・中学校の先生方を対象に募集を行い、16名の先生方に参加していただいた。

次年度は、特別展開期中に添田町の先生方を対象に研修会を計画している。

日程は、以下のとおりである。

	内 容	場 所
13:00～13:20	受付	文化情報広場
13:20～13:30	開会行事（オリエンテーション）	研修室
13:30～14:10	講話～八女地域の歴史や文化財～	研修室
14:10～14:50	バックヤード	一般収蔵庫他
14:50～15:00	休憩	
15:00～15:40	特別展観覧	第1展示室
15:40～16:20	教材紹介	研修室
16:20～16:30	閉会行事（アンケート記入）	研修室



八女地域の歴史を知る in 九州歴史資料館

### ○教員のための博物館の日 in きゅうれき

期日：平成28年10月29日（土）

内容：学校による当館の活用促進を図るために、まずは学校の先生方に「博物館の教育資源」であるひと・もの・ことを知ってもらい、先生方に博物館を楽しんでもらおうと企画したものである。教科・担当学年を問わず小・中・高6名の先生方に参加していただいた。

日程は、以下のとおりである。



教員のための博物館の日 in きゅうれき

	内 容	場 所
13:00～13:15	受付	文化情報広場
13:15～13:35	開会行事（オリエンテーション）	研修室
13:35～14:30	バックヤード	一般収蔵庫他
14:30～15:10	特別展観覧	第1展示室
15:10～15:20	休憩	
15:20～16:10	当館所蔵の文化財の紹介	研修室
16:10～16:20	感想交流	研修室
16:20～16:30	閉会行事（アンケート記入）	研修室

## (5) ボランティア

### ◎九歴ボランティア

移転開館時から設置している当館のボランティア（通称「九歴ボランティア」）は、27年度に第3期ボランティアを新たに募集し、28年4月から39名の体制で始動した。これまで参加されていた方々に加え、新規で応募された方も多く、養成研修を経て正式に九歴ボランティアとして活躍していただいている。土・日・祝日の古代体験プログラムの実施や館主催の講演会・イベントの運営支援、来館学習や各種団体への対応補助、ボランティア主催のイベントなど、新規の方々の新しいアイデアも加え、積極的に活動を行った。

### ◎研修会

#### ○定例研修会

九歴ボランティアとしての知見、識見を高めるとともに、ボランティア間の交流のため、毎月第2土曜日の午前中に定例研修会を開催している。研修会の内容は、土・日・祝日の当番の調整を行ったあと、当館学芸員による展示解説、古代体験に係る実践研修などを行った。その内容は以下のとおりである。

回 数	開催日	内 容
第 1 回	4 月 9 日	「館内における文化財の生物被害防止に関する取り組みについて」
第 2 回	5 月 14 日	古代体験等についての検討
第 3 回	6 月 11 日	古代体験研修「古代衣装」「床下展示」
第 4 回	7 月 9 日	特集展示「絵葉書にみる福岡の風景」
第 5 回	8 月 6 日	展示解説「企画展 発掘速報展 2016」
第 6 回	9 月 10 日	「小学校での社会科学習と博物館に期待すること」
第 7 回	10 月 8 日	展示解説「特別展 八女の名宝」
第 8 回	11 月 12 日	特別講座「100人の大人のおひとりに…」(こどもとの接し方研修)
第 9 回	12 月 10 日	展示解説 企画展 「大宰府の役人と文房具」
第 10 回	1 月 14 日	古代体験研修「鋳造体験」「瓦マグネット作り」
第 11 回	2 月 11 日	展示解説「企画展 筑後川北岸の古代遺跡」
第 12 回	3 月 11 日	来年度以降のグループ活動のあり方について

#### ○バス研修会・交流会

28年度は、平成29年1月12日（木）に八女市岩戸山歴史文化交流館「いわいの郷」を訪問した。岩戸山文化交流館は平成27年11月に開館し、国史跡岩戸山古墳をはじめとする八女古墳群の資料を展示している。また学校教育など教育普及に力を入れており、ボランティアの方々も活躍されている。研修では、学芸員の方から展示資料の解説を受けた後、ボランティアの方々から岩戸山古墳の現地解説を受けた。また、普及活動として実施している「プラ板作り」をボランティアの方の指導で体験するとともに、博物館における体



バス研修「八女・福島の伝統的建造物群保存地区」

験事業について意見交換を行った。

昼食をはさみ、八女市伝統工芸館を見学した後、国の重要伝統的建造物群保存地区である八女・福島の町並みを、八女市観光ボランティアの方の案内で見学した。

### ◎ボランティア活動

#### ○古代体験・バックヤードツアー

土日祝日に実施している古代体験では、これまでのメニューに加え、「クテ打ち組紐技法」習得者がいるときに限り、「本日は組紐ができます」として不定期な古代体験メニューとして取り入れた。また、平日を含めて実施依頼のあった学童保育所、こども会、アンビシャス広場などの団体での「古代体験」にも館内案内と合わせて対応いただいた。

28年度の古代体験メニュー及び体験の実績は以下のとおりである。

古代体験アイテム及びバックヤード解説	体験者
「和同開珎をつくろう（鋳造体験）」（有料）	431名
「ミニチュア銅矛をつくろう（鋳造体験）」（有料）（12月～）	182名
「DAZAI FU デザインコレクション①（拓本とり）」	415名
「DAZAI FU デザインコレクション②（瓦マグネット作り）」（有料）	554名
「古代の衣装を着てみよう（古代衣装の着用体験）」	305名
「パズル土器（復元体験）」	2,114名
「大宰府政庁建物の復元」	575名
「触って感じてみよう銅矛・銅剣」	1,027名
「きゅうおに」のぬりえにちょうせんしよう!!	243名
「きゅうおに」紙芝居	391名
飛び出すむかしの宝箱	153名
バックヤード（第4展示室含む）解説	323名
体験者延べ人数	6,781名

#### ○ボランティアイベントの開催

25年度末から開始した、九歴ボランティアが主体的に企画・実施する事業である。27年度から、福岡県教育文化奨学財団の助成事業を受け、その一部を「博物館こども古代体験推進事業」として実施している。歴史系博物館実施のイベントとして「昔の遊び」「伝統的な技術」にこだわり、イベント会場には歴史的背景や関連する出土資料のパネルなどを設置して、参加者への歴史・文化の普及に供した。

28年度の実施イベントは以下のとおりである。

- ・5月1日（日）「古代の球技『ぎっちょう』を体験しよう！ 紙で『カブト』を作ってみよう！」

内容：五月の節句に合わせ、毎年恒例になったおりがみや大判の紙で「カブト」を作るイベントである。今回は、これもボランティアイベントとして定着したぎっちょうと組み合わせ、館内外でどちらのメニューも楽しんでいただける内容とした。参加者は56人で、保護者も一緒に楽しんだ。

- ・8月19日（金）「こども組紐教室」

内容：24～26年度の研修によってボランティアが習得した「クテ打ち組紐技法」を活用して、27年度から小学生を対象に実施している夏休み体験講座である。道具を使わず指だけで組紐ストラップを作

るもので、参加者は最初は指を動かす順番などに苦労していたものの、覚えた後はいくつものストラップを作っていた。参加者は 25 名であり、その他保護者も共に組紐を楽しんでいた。

・2月 26 日（日）「作ってみようよ！『M y おひなさま』『組紐ストラップ』」

内容：ひな祭りの季節に合わせ、毎年恒例になったおりがみによる自分だけのひな飾り作り、また組紐技法でストラップを作るイベントを開催した。ボランティアのアイデアで年々装飾や折り方が豪華になり、午後のみの開催であったが、親子連れや年配の方々も楽しまれ、50 名の参加があった。

・11月 5 日（土）「古代人を体験しよう！ぎっちょようと石器できこり体験！」

内容：例年実施しているぎっちょように加え、25～27 年度に実施したボランティアのグループ活動の中で、「古代の道具づくりグループ」が製作した『石斧』を使用して、丸太を切ってみようという体験イベントである。石斧は機械を使用せずに作成したもので、より実物に近い形になっており、実際に木を切るには困難な部分があったが、小さなこどもから大人まで、楽しそうに体験していた。44 名の参加があった。



紙でカブトを作ってみよう！



石器できこり体験

## (6) 普及・活用事業

各種講座、講演会、ゼミなどを開催して専門的な内容の深化を図る一方、一般を対象とした各種イベントや子ども向けの体験講座、職員による来館団体への館内案内などを実施することで、文化財愛護思想の普及や文化財の活用に資するとともに、来館者の誘致を図った。

### ○講座・講演会

#### ○名誉館長講座

西谷正名譽館長を講師として、毎月1回実施する全12回の連続講座である。28年度のテーマは「シルクロードの考古学」で、定員160名に対し198名の受講申し込みがあり、すべてを受け入れた。今回は番外編も開催され、また例年どおり、12回すべてを受講した受講生には名譽館長から皆勤賞表彰を行った。

開講日、演題、受講者数は以下のとおりである。

回 数	開催日	演 题	受講者数(名)
第1回	4月30日(土)	I オアシスの道 (1) ティリア・テペの遺宝	172名
第2回	5月28日(土)	(2) ガンダーラ文化と北東アジア	160名
第3回	6月26日(日)	(3) 西域における漢の文化	151名
第4回	7月23日(土)	(4) 西域における唐の文化	147名
第5回	8月20日(土)	(5) 敦煌の遺跡群	149名
第6回	9月24日(日)	(6) 長城地帯の遺跡群	136名
第7回	10月22日(土)	II 草原の道 (1) 黄金のスキタイ遊牧文化	132名
第8回	11月26日(土)	(2) パジリク王墓の発掘	133名
第9回	12月24日(土)	(3) ツングース系民族の文化	150名
第10回	1月22日(日)	III 海の道 (1) 中世北東アジアの交易	132名
第11回	2月25日(土)	(2) ベトナムの遺跡と遺物	137名
第12回	3月25日(土)	(3) タイの仏教遺跡と陶磁器	130名
番外編	8月11日(祝)	北朝鮮の遺跡を訪ねて—2016	76名
受講者数総計			1,805名

#### ○九歴講座

毎月第2土曜日に当館や3分館の学芸員の他、市教育委員会等の外部講師を招いて実施する講座である。28年度は延べ1,545名が受講した。

開講日、演題、講師、受講者数は以下のとおりである。

回 数	開催日	演 题	講師(所属)	受講者数(名)
第1回	4月9日	船原古墳遺物埋納坑出土遺物の科学的調査	小林 啓(九歴)	120名
第2回	5月14日	太宰府史跡発掘調査関連 古代山城城門出	小澤 佳憲(九歴)	151名
第3回	6月11日	豊前地域の中近世城館—詳細分布調査の成果から②—	岡寺 良(九歴)	155名
第4回	7月9日	東日本大震災の復興と文化財調査	宮地 総一郎(文化財保護課)	108名
第5回	8月6日	筑紫君磐井の乱と岩戸山古墳	酒井 芳司(九歴)	189名

第6回	9月10日	行橋市・稻童古墳群とその出土品	山口 裕平（行橋市教委）	113名
第7回	10月8日	牛頭山谷川寺の仏像—薬師如来立像と仁王像を中心にして—	井形 進（九歴）	149名
第8回	11月12日	柳河藩最後の藩主立花鑑寛と純姫	白石 直樹（柳川古文書館）	124名
第9回	12月10日	明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、	森井 啓次（世界遺産推進室）	87名
第10回	1月14日	甘木絞りの基礎知識	遠藤 啓介（甘木歴史資料館）	87名
第11回	2月11日	小郡・朝倉地域の古代遺跡—横断道の調査	小田 和利（九歴）	129名
第12回	3月11日	山伏の女たち	相良 悅子（求菩提資料	133名
受講者数総計				1,545名

### ○九歴ゼミ

第2・第4水曜日の夜 18:30～20:00（18:00受付開始）に実施する、当館の学芸員を講師とした専門講座である。28年度は4～6月、7～9月、10～11月の年間3期、各期6回ずつ連続講座として開講した。定員50名に対し毎期それを上回る応募があったが、可能な限り受け入れる方向で対応し、応募者全員を受講生とした。

開催期間、演題、講師、各期（6回）延べ受講者数は次のとおりである。

期	開催期間	テーマ	講 師	延べ受講者数
第1期	4月13日～6月22日	史料が語る大宰府の歴史	酒井 芳司	324名
第2期	7月8日～9月23日	特集講義「中近世城館研究概論」	岡寺 良	294名
第3期	10月14日～12月6日	韓國仏像史入門	井形 進	289名
受講者延べ数総計				907名

### ○特別展・企画展記念講演会

定期的な講座やゼミとは別に、特別展や企画展の開催を記念して、展示内容に則した報告会や講演会、シンポジウムを開催した。

28年度は4回開催し、開催日、演題、講師、受講者数は以下のとおりである。

開催日	演 題	講 師	受講者数(名)
8月27日	調査報告会 2016	飛野博文（九州歴史資料館）	57名
10月23日	特別展開催記念「対外関係からみた磐井の乱」	熊谷公男氏（東北学院大学文学部教授）	200名
12月23日	企画展開催記念「古代の役人と文字」	柴田博子氏（宮崎産業経営大学教授）	127名
3月18日	企画展開催記念「古墳時代の対外交流と筑紫—渡来人と馬・須恵器—」	田中史生氏（関東学院大学教授）・亀田修一氏（岡山理科大学教授）・小郡市・筑前町・九州歴史資料館担当職員	190名
受講者数総計			574名

### ○タベのギャラリートーク

閉館後に展示解説を行うタベのギャラリートークを、28年度も実施した。当館では、来館者の観覧の妨げにならないよう第1展示室での展示解説を差し控え、それを補うために「解説シート」を無料で

配布している。その代わりに、日にちを限定して徹底的に解説を行い、展示内容を理解していただくことを目的として、閉館後の夕方の時間帯に実施している。これまででは一旦閉館後、19：30～20：30に再度開館して実施していたが、日中の開館時間に観覧していただいた来館者に引き続き参加いただけるよう、28年度は16：30～17：30の開催とし、名称も「夕べのギャラリートーク」と変更した。

企画展、特集展示、特別展それぞれの展示担当学芸員により、一つ一つの展示物について詳しく解説するとともに、その歴史的な背景やそれらにまつわる人々の思いにまでふれる説明をする。参加者は27年度よりも増加し、熱心に展示品に見入って解説に聞き入り、終了後は質疑も含めて解説を楽しんでいただいた。

28年度は6回実施し、開催日、内容、講師、参加者数は以下のとおりである。

回数	開催日	内容	講師	参加者数
第1回	8月17日	特集展示「絵葉書から見る福岡の風景」	渡部 邦昭	7名
第2回	10月5日	特別展「八女の名宝」Part.1	酒井 芳司	17名
第3回	10月19日	特別展「八女の名宝」Part.2	井形 進	22名
第4回	12月7日	企画展「大宰府の文房具」	小田 和利	14名
第5回	1月11日	企画展「大宰府の役人」	酒井 芳司	15名
第6回	2月22日	企画展「筑後川北岸の古代遺跡」	岡寺 良	14名
参加者数総計				89名

### ○ふくおか県政出前講座

県政の課題など、県民の希望のテーマについて県職員がわかりやすく説明する「ふくおか県政出前講座」において、県民の要請を受けて計8回の講座に赴いた。当館の提示しているテーマは「文化財の保護と活用」「福岡県の歴史と文化財」「大宰府史跡等について」「九州歴史資料館の利用について」である。28年度は、県政出前講座と遺跡の見学、その後に当館の展示見学とを組み合わせた内容もみられた。

28年度の実績は以下のとおりである。

期日	テーマ	講師	依頼者
5月24日	産業から見る近代の福岡	渡部邦昭	福岡県農薬卸売組合
9月27日	江戸時代末期・明治期・大正期における大野城市の産業および自治組織の変遷	渡部邦昭	大野城市シニアクラブ連合会
9月27日	觀世音寺の仏像について	井形 進	つくし郷土史会
10月3日	磐井の乱について	酒井芳司	ちくしの高年パープル会
11月4日	大宰府史跡等について	小澤佳憲	一般社団法人福岡県計量協会
12月12日	朝倉広庭の宮について	小田和利	立石コミュニティセンター
12月15日	鹿児島本線の歴史	渡部邦昭	えんがわくらぶ
1月24日	文化財の修理・保存の仕事について	小林 啓	春日野中学校

### ○一般来館者対応事業

当館の施設や事業内容を知っていただき、文化財やその保護・保存の重要性をより深く理解していただくために、来館者の展示資料に関する質問や、館外からのレファレンスへの対応のほか、来館者対応事業として館独自のサービスを職員が行っている。

## ○収蔵品オンデマンド「飛び出すむかしの宝物」

来館者の多様な閲覧希望に対応するとともに、収蔵品の普及・公開の促進を図るため、来館者が閲覧したい収蔵資料をその場で見ることができるコーナーである。土・日・祝日限定で、収蔵品の活用・公開の促進を図るために、「飛び出すむかしの宝物」として来館者が閲覧したい収蔵資料をその場で見ることができるコーナーを設け、多様な閲覧希望に対応している。実施日は土・日・祝日限定で、収蔵品に触るとともに、埋蔵文化財担当職員が詳しく解説する。また、本館開催企画展等の展示内容に対応してメニューを追加し、現在5メニュー60点を公開している。

平成28年度の利用状況は次のとおりで、27年度より延べ300名以上利用者が増加した。

メニュー	利用件数
縄文時代メニュー	258名
発掘速報展対応メニュー（H27年7月改変）	325名
江戸時代メニュー	177名
戦国時代メニュー	225名
明治・大正・昭和メニュー	169名
利用者数総計	1,154名



28年度に改変した資料

## ○来館者への施設・展示解説

来館者により深く当館を理解していただくために、事前申込みのあった団体に対して、職員による中庭回廊や施設の解説、平日のボランティアによる古代体験の対応などを行っている。また施設の解説については、当日申込みの団体に対しても可能な限り対応している。解説の依頼はシニアクラブや生涯学習関係団体が中心ではあるが、学童保育など古代体験と合わせて当館を利用したいという団体も利用されている。

28年度は37団体、延べ831名の方々に案内を行った。

## ○体験教室・イベント

当館に親しんでいただき、またあらゆる世代に歴史や文化財を身近に感じていただくことを目的として、各種の体験教室やイベントを開催している。

28年度も夏休みを中心に、小学生などを対象とした体験教室や七夕イベントのほか、他機関や団体との連携イベントなども開催した。連携事業としては、当館の所在する小郡市のが丘校区と三国校区で構成する「桜コンサート実行委員会」との共催で開催する「桜コンサート」が新たに加わった。

### 体験活動

#### ○こども考古学「遺跡発掘」体験教室 2016（「発掘速報展 2016」関連事業）

期日：平成 28 年 7 月 31 日（日） 10:00 ~ 11:30

内容：当館では県内に所在する遺跡の発掘調査を実施している。今回は、これまでの考古学体験教室で行った整理作業体験（水洗い・土器復元）とは趣向を変え、発掘速報展の開催期間に合わせて、大宰府史跡蔵司地区で発掘調査の体験を行った。発掘調査において直に土器等を自らの手で発掘することで、文化財に対する興味や関心、そして理解を深める効果があった。当日は天気にも恵まれ、小学 3 年生～ 6 年生を対象で参加者は 9 名であった。



発掘体験の様子

### ○なるほど!! こども歴史教室 2016 「『木簡』をつくろう！」

期日：平成 28 年 7 月 21 日（木）

内容：当館では、一般来館者のほか、小学生などの児童・生徒にも楽しくわかりやすい博物館を目標に展示、普及活動を行っている。とくに、夏休み期間にあわせて、小学生を対象に歴史に関する体験を行うイベントを、24 年度から継続的に実施している



こども歴史教室 2016

28 年度は、企画展「古代の役人と文房具」の関連事業として、大宰府出土木簡をテーマとした。木に書かれた文字資料であることからわかる、木簡が持つ独自の役割について、子どもにわかりやすく理解できるように、木簡に関する講座と、保護者と一緒に実際にナイフや彫刻刀で木材を切ったり、削ったりし、筆と墨で文字を書いて、付札木簡と封緘木簡を作る体験を行った。参加者は 6 名であった。

### ○ナイトミュージアム in きゅうれき

期日：平成 28 年 8 月 3 日（水）・平成 29 年 1 月 6 日（金）

内容：26 年度より、夏・冬 2 回開催している。

夏は小郡市埋蔵文化財調査センター、福岡県青少年科学館との連携により、「火起こし体験」、「星の話、天体観察」に対する協力を得て実施した。当日は、天体望遠鏡を覗いて見えた月のクレーターや土星に参加された方々も大いに喜んでいた。



ナイトミュージアム in きゅうれき

冬は福岡県青少年科学館の天文ボランティアの協力により「星の話、天体観察」を行うとともに、出土した遺物に直接触れる「飛び出すむかしの宝物」（オンデマンド）体験を実施した。

29 年度も宿泊を行わず、夏・冬の 2 回の実施を予定している。

各回のプログラムと参加者は以下のとおりである。

夏：8 月 3 日（水） 参加者 31 名

時 刻	プロ グラム	活動 場所	活動 内容
15:30	開講式	研修室	あいさつ、日程説明
15:45	館内案内	バックヤード探検・展示室	バックヤード中心に作業・展示解説
16:45	火起こし体験	館東軒下	埋文職員指導による火起こし体験
18:00	軽食	研修室	持参した軽食を摂る。
18:30	星の話	研修室	科学館職員による夏の星・星座の話
19:00	館内探検	館内	夜の博物館探検
19:30	天体観察	前庭	目視、天体望遠鏡による天体観察
20:30	閉講式	研修室	アンケート記入、あいさつ
21:00	解散		

冬：1月6日（金）参加者25名

時刻	プロ グラム	活動 場所	活動 内容
16:00	開講式	研修室	館代表あいさつ、日程説明
16:15	館内案内	バックヤード・展示室	展示室中心に展示解説
17:20	飛び出すむかしの宝物	会議室	古代の人と時空を超えた間接タッチ
18:00	軽食	研修室	持参した軽食を摂る。
18:20	星の話	研修室	科学館天文ボランティアによる
18:40	天体観察	前庭	目視、天体望遠鏡による天体観察
19:40	館内探検	館内	夜の博物館探検
20:10	閉講式	研修室	アンケート記入、あいさつ
20:30	解散		

## イベント

### ○桜コンサート

期日：平成28年4月2日（日）10:00～15:00

主催：桜コンサート実行委員会

共催：九州歴史資料館・三国中校区なかよし地域ネット人権のまちづくり推進協議会・三国小学校区協働のまちづくり協議会・のぞみが丘小学校区協働のまちづくり協議会

内容：28年度から共催で実施したイベントである。

地域のまちづくり協議会が共同で立ち上げた実行委員会が開催するもので、地域の個人や団体の参

加型のコンサートである。数々の音楽好きの方々が、中庭で素晴らしい演奏やパフォーマンスを繰り広げた。また、当館の古代体験も知ってもらえる機会となり、多くの方が体験を楽しました。参加者は847名であった。



桜コンサート

### ○小郡高等学校琴部演奏会

期日：平成28年5月5日（木・祝）14:00～15:00

内容：当館の近隣に所在する福岡県立小郡高等学校の琴部は、外部講師を招いて練習を行う本格的な

活動をされている。当館の移転開館記念セレモニー やイベントでの演奏がご縁で、27年度から卒業演奏会を当館を会場に開催している。当日は第4展示室を会場に赤い毛氈を敷き、16名の生徒と教員による優美な琴の演奏が行われ、参加者は美しい琴の音色に聞き入った。参加者は150名であった。

#### ○きゅうれき七タイイベント

期日：平成28年7月3日（日）10:00～16:00

内容：28年度は4人組男性カルテッド「鶏卵四男」による「ア・カペラコンサート」、小郡音楽祭ミュージカルカンパニーによる飛び出して音楽祭「七夕コンサート」を開催した。例年行っている七夕にちなんだ機織り体験、古代体験を終日行ったほか、パフォーマンスの合間にクイズラリーを実施し、さまざまな年齢層に楽しんでいただいた。当日の来館者数は301名であった。

タイムテーブルは次のとおりである。

	プログラム	会場
10:00～16:00	七夕短冊づくり・機織体験・古代衣装（終日） 古代体験（終日）	エントランス 研修室
13:30～13:40	オープニング	第4展示室
13:40～14:40	O-c a nがお届けする「素敵なミュージカル」	第4展示室
14:50～15:20	魅惑のバーバーショップカルテッド「ア・カペラコンサート」	第4展示室
15:20～15:30	クロージング	第4展示室



小郡高等学校琴部演奏会



七タイイベント

#### ○アクロスマьюージアムコンサート

期日：平成28年10月15日（日）13:30～15:30

内容：特別展開催記念イベントとして、アクロスマьюージアムとの共催事業で実施している事業である。28年度は特別展「八女の名宝」にあわせ、八女出身のサクソフォン奏者 斎藤広樹氏を中心に活動されている「九州管楽合奏団」の方々によるコンサートを開催した。「カルメン幻想曲」「サウンド・オブ・ミュージック」「見上げてごらん夜の星」などの著名な音楽を、管楽器のカルテットで奏でていただき、MCでは幼少の頃の八女の思い出を語っていただいた。また併せて特別展のギャラリートークも行い、参加者は210名であった。プログラムは以下のとおりである。

プログラム	
11：30～12：00	ギャラリートーク Part. 1 (第1展示室)
13：30～14：00	アクロスマジックコンサート 第1部
14：15～14：35	ギャラリートーク Part. 2 (第1展示室)
15：00～15：30	アクロスマジックコンサート 第2部

### ○特別展開催記念茶会

期日：平成 28 年 10 月 16 日（日）10:00～15:00

内容：28 年度も特別展開催記念として茶会を行った。25 年度から小郡市文化協会裏千家と共に開催しているが、恒例となったものである。特別展の観覧とともに、茶会参加者も含めた来館者に対するギャラリートークを午前・午後の 2 回併せて行った。今回は、「八女の名宝」に関連して、特別展共催の八女市商工観光課から八女茶など、八女で育まれた物産の販売にも来ていただき、茶会に参加された方々に大変好評であった。

参加者は 450 名であった。



特別展記念事業 「アクロスマジックコンサート」・「茶会 博物館でお手前を」

### ○いつでもまち旅「バックヤードツアー in 九州歴史資料館」

主催：九州歴史資料館・久留米まち旅博覧会事務局

久留米まち旅博覧会が実施する「いつでもまち旅」に参加する事業である。5～9 月、12 月～3 月の第 2 日曜日に、学芸員の解説付きで普段は入れない部分のバックヤードツアーと展示解説、有料古代体験を堪能していただくツアーである。27 年度までは「秋のまち旅」にも参加できたが、28 年度からは地元小郡市の事業優先となったため、「いつでもまち旅」のみの開催で、参加者総数は 20 名であった。

参加費：600 円（観覧料+古代体験料+事務局手数料）

スケジュール：14：45 受付開始→15：00～バックヤードツアー・展示案内・古代体験→15：30 終了

### ○イベント「神話の世界～朗読・神楽×太鼓」

期日：平成 29 年 3 月 5 日（日）13：30～15：30

当館の展示資料のみならず、身近な「歴史」や「文化財」に親しんでいただくことを目的として、様々なイベントを試みている。今回は、どの地域にも古くから伝わる身近な祭りや芸能に興味を持っていた

だくために、平成 26 年度に国の重要無形民俗文化財に指定された「豊前神楽」に焦点をあてた。豊前神楽を伝承する各神楽保存会の若手の舞手で構成するパフォーマンス集団「神楽集団若楽」は、その舞の技術と迫力から各所で好評を博している。今回は豊前地域を中心に活動する「豊前天狗太鼓」のコラボレーションで、中庭を広く使ってのパフォーマンスを展開していただいた。また、神楽に関連して「古事記」にも親しんでいただくため、フリーアナウンサー井芹美穂氏による「古事記」の朗読を組み合わせ、「神話の世界」に浸っていただくイベントとした。神楽を見たことがない方も多く、参加者を巻き込んだパフォーマンスに大変大盛況で、300 名の参加があった。



神話の世界～朗読・神楽×太鼓「古事記朗読」と「神楽 × 太鼓パフォーマンス」

### ○ “古代米の本格栽培にむけて …” プロジェクト

期間：平成 28 年 5 月～ 10 月

内容：当館には、古代米などの栽培農園を持たないため、現在のところ本格的な植物栽培などの実験考古学的イベントを行うことができないでいるが、将来的なイベント実施に備え、24 年度からパンケースあるいはコンテナによる古代米栽培を実施している。28 年度は、コンテナ 6 箱分の赤米・黒米（原種は長崎県対馬のもの）栽培を当館の中庭にて、学芸研究班員と保存管理班員の担当の元に行なった。例年どおり、発芽・田植えの後、順調に生育し、収穫まで至ることができた。5 年目の実施となり、収量の安定など、コンテナによる古代米栽培のノウハウが蓄積されてきている。29 年度以降も実施する予定である。

### ○ その他の機関・団体との共催事業

#### ○ 文化財めぐり

主催：福岡県教育委員会・九州歴史資料館

期日：平成 28 年 9 月 22 日（木・祝）

内容：28 年度は特別展「八女の名宝」関連イベントとして開催した。特別展の内容に沿って実際に足を運び、文化財に触れ、歴史を感じてもらうものである。八女地域の博物館や五條家を来訪し、48 名の参加があった。コースは以下のとおりである。

九州歴史資料館→八女伝統工芸館→五條家→岩戸



文化財めぐり

## 山歴史文化交流館→九州歴史資料館

### ○九歴講座 in 太宰府

「九歴講座 in 太宰府」は、太宰府市文化ふれあい館が市民と地域の研究者との情報交換・研究交流の活発化を促す目的で開講している「太宰府学講座」の一環として企画されたものであり、当館が、太宰府市から小郡市に移転・開館したことを機に、当館で行っている太宰府史跡等の調査研究成果を広く県民に紹介することを目的とした連携講座である。なお、本講座は当初の目的を達したことや同様の内容の講座が増えたことから平成 28 年度をもって閉講することとなった。



九歴講座 in 太宰府

回	開催日	演題	講師	受講人数(名)
第1回	6月18日(土)	太宰府の鉄道 127年～夢と現実の狭間で～	渡部 邦昭	65
第2回	7月16日(土)	筑紫観世音寺と朝倉宮	小田 和利	104
第3回	8月20日(土)	太宰府発掘～蔵司地区官衙の最新調査から～	下原 幸裕	59
受講者数総計				228

### ○第6回九州山岳霊場遺跡研究会「多良岳と山麓の霊場遺跡」

主催：九州山岳霊場遺跡研究会

共催：諫早市・九州歴史資料館

後援：長崎県教育委員会・佐賀県教育委員会・太良町教育委員会・金泉寺・日本山岳修験学会・諫早史談会

期日：平成 28 年 8 月 27・28 日（土・日）

参加人数：8/27（土）48 名・8/28（日）150 名

内容：8月27日（土）

現地研修会（諫早市美術・歴史館、多良岳金泉寺）

8月28日（日）

研究集会（於：諫早市中央公民館講堂（長崎県諫早市））

基調講演「多良岳の信仰と歴史」（秀島貞康）

特別報告「金泉寺復興の道のり」（池田忠恕）

研究報告 1 「多良岳南麓の古代中世の遺跡」（野澤哲朗）

研究報告 2 「金泉寺の不動三尊と千手觀音立像」（井形 進）

研究報告 3 「石造文化からみた多良山修験

—とくに鎌倉後期の時代的変動とその影響について（大石一久）

研究報告 4 「諫早家文書にみる多良岳信仰」（大島大輔）

シンポジウム「多良岳と山麓の霊場遺跡を考える」

### ○放送大学面接授業「太宰府講座」

主催：放送大学・九州歴史資料館

期日：平成 28 年 11 月 19 日（土）・20 日（日）

内容：当館では大宰府の歴史・文化を幅広く人々に知っていただくという趣旨の下に、19 年度から放送大学教養学部の面接授業を実施している。28 年度は「古代大宰府の信仰」というテーマで授業を行った。受講者数は 30 名であった。詳細は以下のとおりである。

【1日目】11 月 19 日（土）

1 時限：「府の大寺 筑紫觀世音寺の成立と展開」（講師：九州歴史資料館 小田和利）

2 時限：「觀世音寺の文化財—仏像を中心に—」（講師：九州歴史資料館 井形進）

3 時限：「菅原道真と天神信仰」（講師：九州歴史資料館 松川博一）

4 時限：九州歴史資料館展示室において大宰府関係展示を見学

各講義では、古代から中世にかけて大宰府を舞台にした信仰・宗教がどのように生まれ、また展開したのか、さらにはその結果現代に残された寺院や神社、仏像や神像などについての講義を行った。

【2日目】11 月 20 日（日）

1～4 時限：現地研修（太宰府天満宮・觀世音寺・大宰府政府などの見学）

### ○九州歴史資料館・三沢遺跡の森 自然体験活動

主催：NPO 法人三沢遺跡の森を育む会

共催：九州歴史資料館

当館に隣接する県指定史跡三沢遺跡とその周辺の自然環境保全を目的として 25 年度に発足した NPO「三沢遺跡の森を育む会」と当館の共催事業として周辺住民への啓発活動を 28 年度も開催した。イベントを通じて三沢遺跡の森ばかりでなく、自然環境保全の意識を育むことを目指した。

開催日、内容、参加人数は以下のとおりである。

開催日	内 容	参加人数
12 月 18 日（日）	櫟蠟で作るマイキャンドル（共催）	80 名



三沢遺跡の森 自然体験活動「マイキャンドル」

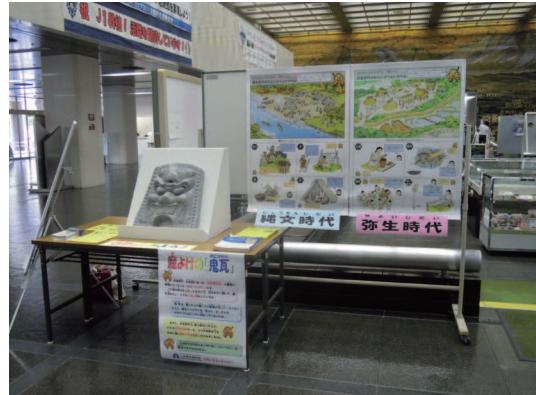
### ○夏休みこども企画「県庁ロビー展示」

会期：平成 28 年 7 月 26 日～8 月 30 日

会場：福岡県庁 1 階ロビー

主催：福岡県

内容：福岡県の広報部局主催の夏休みイベントで、各課や出先機関がブースを設けて来庁するこどもたち対象のパネル展示や体験事業を実施するものである。当館はパネルの掲示と大宰府式鬼瓦のレプリカを設置して触って立体感と質感を感じることができる展示を行った。



夏休みこども企画「県庁ロビー展示」

## (7) 広報活動

### ○一般向け広報

当館では、25年度から学芸調査室に「広報普及班」を設置し、幅広い手段や媒体を活用して広報活動を行っている。予算の関係から有料広告や大々的な広報は難しいものの、ホームページやポスター・チラシはもとより、公共の広報誌や民間のフリーペーパー、インターネット情報サイトなど様々な無料広報媒体を活用し、近隣施設には直接訪れて広報資料の掲示協力を依頼するなどして展示やイベントの周知を行っている。また展示やイベントの企画内容や対象とする世代に合わせて、毎企画ごとに配布先、周知方法を考慮するなどの工夫もしている。さらに、マスコミ関係には展示等の情報を提供するとともに、取材と情報紹介について依頼を行っている。

また、来館者の利便性を考慮した広報を心がけ、他施設の広報資料を設置しての幅広い情報提供を行うなど、当館が情報の発信源となるような工夫を行っている。また、地元のケーブルテレビと連携した番組「福岡歴史ロマン」も月1回のペースで製作し、これをきっかけに近隣市町村の文化財担当者がコーディネーターとなる番組「あしあと」の製作・放映も開始された。

### ○他施設等との相互広報

他施設や団体との連携については、25年度から文化情報広場に「魏志倭人伝のクニグニネットワーク（福岡県・佐賀県・長崎県と3県内11市町村の連携事業）」の紹介コーナーを設け、パンフレットやチラシは常時更新している。28年度は県内各市町村の博物館・資料館を紹介することを目的として、各館にご協力いただき統一的な各館の紹介チラシを作成した。予算の関係で配布はできないものの、当館ホームページや館内で紹介し、県内施設での相互広報などのネットワークの構築を進めている。今後は相互リンクや広報資料の共有などを進めていく予定である。

28年度に行った主な広報は以下のとおりである。

- ・ホームページの情報更新・管理
- ・ポスター・チラシの配布：  
歴史関係施設・団体、企画内容に則した団体、主催・共催や講師派遣先の講演会・講座参加者、  
他機関の講演会・イベント等、書店・ホテル等の店舗
- ・県・市の広報媒体への情報掲載  
教育福岡・福岡県だより・グラフ福岡・広報おごおり・クロスロード福岡 ほか
- ・歴史系専門雑誌、イベント情報雑誌への情報掲載：「日本歴史」「古代文化」各種フリーペーパー ほか
- ・情報サイトへの情報提供：インターネットミュージアム・イベントガイド・いこーよ ほか
- ・特別展・企画展開催直前のマスコミ向け内覧会の開催など情報提供
- ・地元ケーブルテレビ番組新番組「福岡歴史ロマン」毎月配信

### ○博学連携、学習支援に向けた広報

教室では味わうことのできない感動ある学習が、博物館を活用することによって可能となる。実際にむかしの人がつくり、使っていた出土品などの展示資料にふれる学習を1校でも多く、1人でも多く体験してもらえるよう、当館の活用を呼びかける広報を行っている。年度初めの小郡市校長会をはじめ学校訪問、研修会、棚入れや郵送など、様々な場、方法で広報を行い、館の活用促進を図った。

27年度の活用実績が、来館学習16校、スクールミュージアム事業7校、職場体験13、出前授業1校であったのに対し、28年度は来館学習13校、スクール・ミュージアム事業7校、職場体験11校、

出前授業2校であった。今後も、更に多くの学校による活用をめざしていきたい。

## (8) 実習・研修

### ○実習

### ○博物館実習

28年度は5大学から10名の大学生を受け入れ、8月16日（火）～8月26日（金）の10日間、下記の内容で実施した。（8月21日（土）は休み）

日程	午前	午後	担当
第1日	開講式・オリエンテーション 西谷正名誉館長講話	講話「学芸員の実務」・施設見学	広報普及班・学芸研究班
第2日	歴史資料の取扱い		学芸研究班
第3日	大宰府史跡の見学		調査研究班
第4日	遺跡の調査と測量		調査研究班
第5日	出土資料の整理・記録		調査研究班
第6日	教育普及事業について	名誉館長講座受付・聴講	広報普及班
第7日	美術工芸資料の取り扱い		学芸研究班
第8日	資料の写真撮影	考古資料の取り扱い	学芸研究班
第9日	資料の保存修復と保管		保存管理班
第10日	博物館の保存環境	実習のまとめ・閉講式	保存管理班・広報普及班

参加した実習生の在籍校および人数は以下のとおりである。

大学名	学部名	学科名	受講者数（名）
久留米大学	経済学部	経済学科	1
久留米大学	文学部	心理学科	1
筑紫女子大学	文学部	日本語・日本文学科	3
九州産業大学	国際文化学部	日本文化学科	1
福岡大学	人文学部	文化学科	1
福岡大学	人文学部	歴史学科	2
西南学院大学	文学部	外国語学科	1



博物館実習「美術工芸資料の取り扱い」



博物館実習「考古資料の取扱い」

## (9) 刊行物

28年度は以下の報告書等を刊行した。

No.	書名	刊行月
1	『九州歴史資料館研究論集 42』	3月
2	『九歴だより No. 43』	4月
3	『九歴だより No. 44』	10月
4	『八女の名宝』	9月
5	『大宰府の役人と文房具』	11月
6	『交流のかなめ ふくおか 九州歴史資料館展示案内』	2月
7	『九州歴史資料館解説シート 56 シルクロードの文化遺産（1）－オアシスの道－』	6月
8	『九州歴史資料館解説シート 57 絵葉書にみる福岡の風景』	7月
9	『九州歴史資料館解説シート 58 福岡鉄道遺産ものがたり 4－北九州地区編－』	10月
10	『九州歴史資料館解説シート 59 赤い土器－弥生時代の甕棺墓祭祀と丹塗磨研土器－』	11月
11	『九州歴史資料館解説シート 60 新春酉年企画・福岡県の装飾古墳③鳥』	1月
12	『九州歴史資料館解説シート 61 筑後川北岸の古代遺跡』	1月
13	『九州歴史資料館解説シート 62 古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2016-2017』	3月
14	『大宰府政庁周辺官衙跡X一広丸地区 遺構編一』	3月
15	『大宰府政庁周辺官衙跡X I一大楠地区 総括・図版編一』	3月
16	『福岡県文化財調査報告書 第 255 集 伊良原IV』	3月
17	『福岡県文化財調査報告書 第 256 集 伊良原V』	3月
18	『福岡県文化財調査報告書 第 257 集 伊良原VI』	3月
19	『福岡県文化財調査報告書 第 258 集 五ヶ山III』	3月
20	『福岡県文化財調査報告書 第 259 集 智恩寺跡』	3月
21	『福岡県文化財調査報告書 第 260 集 福岡県の中近世城館跡IV一筑後地域・総括編一附. 福岡県の近世台場・遠見番所・烽火台跡 福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査報告書4』	3月
22	『背振山の山岳信仰の研究－背振山系山岳信仰・靈場遺跡現地調査報告書一』	3月
23	『石材产地と石器技術からみた日本列島人類文化の起源に関する研究』	3月
24	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告－27－ 塔田琵琶田遺跡第6次』	3月
25	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告－28－ 四ッ塚山遺跡 鏡迫古墳群 上唐原榎町遺跡 第3・4次調査』	3月
26	『古墳時代墓制の終焉過程からみた律令国家形成期の北部九州』	3月

## (10) 交流事業

### ◎日韓学術文化交流事業

福岡県教育委員会では、アジア文化交流センターからの執行委任事業として、百濟・新羅の調査研究を行っている韓国国立文化財研究所との間で職員の相互派遣による学術交流事業を行っている。

### ○韓国国立文化財研究所への職員派遣

期間：平成 28 年 12 月 1 日～12 月 15 日（15 日間）

派遣職員：福岡県教育庁総務部文化財保護課（人づくり・県民生活部文化振興課世界遺産登録推進室宗像・沖ノ島遺産係併任）主任技師 大高広和

研修内容：三国・統一新羅時代の古代山城の構造や立地を踏査・実見し、日本の古代山城への影響関係について検討した。また、出土文字資料の調査や、海洋祭祀が行われた竹幕洞祭祀遺跡の見学などを通して、古代の日韓交流について知見を深めた。

訪問先：国立文化財研究所、河南二聖山城、天安慰礼山城、大田月坪山城、大田宝文山城、公州宋山里古墳群（武寧王陵）、艇止山遺跡、公山城、石壯里遺跡博物館、益山王宮里遺跡、帝釈寺址、益山土城、弥勒寺址、扶余官北里遺跡、扶蘇山城、国立扶余文化財研究所（木簡調査）、定林寺址、羅城、国立扶余博物館（木簡調査）、金堤碧骨堤、扶安竹幕洞祭祀遺跡、国立全州博物館、国立公州博物館、大田鷄足山城、報恩三年山城、慶州明活山城、文武王陵、感恩寺址、閔門城、巨濟屯德岐城（魔王城）、国立加耶文化財研究所（咸安城山山城出土木簡調査）、咸安城山山城、昌寧校洞・松・洞古墳群、新羅真興王拓境碑

### ○韓国国立文化財研究所からの研究員派遣

期間：平成 29 年 3 月 6 日（月）～3 月 19 日（日）14 日間

派遣職員：大韓民国国立羅州文化財研究所学芸研究室

学芸研究士 李 慧淵

研修内容：複合材質遺物の保存処理ならびに分析技術調査

### ○日韓学術文化交流事業講演会

期日：平成 29 年 3 月 16 日（木）

会場：九州歴史資料館 研修室

講演：李 慧淵（大韓民国国立羅州文化財研究所学芸研究室 学芸研究士）

「湖南地域出土遺物保存科学成果」

大高広和（福岡県教育庁総務部文化財保護課（人づくり・県民生活部文化振興課世界遺産登録推進室宗像・沖ノ島遺産係併任）主任技師）

「古代の日韓交流－古代山城の比較研究を中心に－」



大田 鷄足山城



慶州 文武王陵

## (11) 協議会等

### ◎九州歴史資料館協議会

平成 28 年 8 月 2 日（火）に森会長ほか 8 名の委員が出席して協議会を開催した。

#### ○協議・報告事項

- 1 平成 27 年度事業報告及び入館者数状況報告
- 2 平成 28 年度事業計画及び予算概要協議

九州歴史資料館協議会委員名簿

平成 28 年 4 月 1 日現在

	氏名	所属
（会長）	森 醇一朗	久留米大学比較文化研究所客員教授
（副会長）	藤口 悅子	鍋島報效会徵古館副館長
委 員	河上 信行	河上建築事務所所長
	佐古 和枝	関西外国語大学教授
	柴田 博子	宮崎産業経営大学教授
	福田 千鶴	九州大学基幹教育院教授
	小林 知美	筑紫女学園大学准教授
	清武 輝	小郡市教育委員会教育長
	木村 甚治	太宰府市教育委員会教育長
	瓜生 郁義	桂川町教育委員会教育長（前桂川町立図書館長）
	小池 伸彦	奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長
	木川 りか	九州国立博物館博物館科学課長
	松枝 昭生	小郡市立大原中学校長
	熊谷 久子	春日市立須玖小学校長

## 2 九州歴史資料館概要

### (1) 沿革

昭和 43 年 7 月 1 日	大宰府史跡発掘調査指導委員会が発足し、第 1 回委員会が開催される。
昭和 44 年 9 月 5 日	福岡県が、九州歴史資料館設置計画の基本構想を発表
昭和 46 年 3 月 8 日	太宰府天満宮が九州歴史資料館・国立博物館用地として社有地約 14 万m <sup>2</sup> を寄贈 福岡県は九州歴史資料館を建設することとし、建設工事に着手
昭和 47 年 3 月	建設工事竣工（落成式）
昭和 47 年 4 月	「福岡県公の施設及び管理に関する条例」に基づき九州歴史資料館設置 「九州歴史資料館組織規則」制定 副館長以下 19 名発令
昭和 47 年 5 月	鏡山猛、初代館長に就任
昭和 47 年 11 月	「九州歴史資料館協議会規則」制定（委員 15 名を委嘱）
昭和 48 年 2 月	「九州歴史資料館の利用に関する規則」制定
2 月 24 日	九州歴史資料館開館（展示室一般公開始まる）
昭和 49 年 8 月	求菩提資料館開館
昭和 50 年 9 月 4 日	博物館相当施設（相当施設第 9 号）
昭和 53 年 10 月	大宰府史跡発掘調査 10 周年記念特別展「一甦る遠の朝廷一大宰府」開催
昭和 56 年 4 月	田村圓澄、第二代館長に就任
昭和 59 年 2 月	開館 10 周年記念特別展「国宝觀世音寺鐘・妙心寺鐘とその時代」開催 開館 10 周年記念シンポジウム「古代の西海道と大宰府」開催
昭和 60 年 4 月 1 日	「九州歴史資料館条例」施行 求菩提資料館・甘木歴史資料館・柳川古文書館を分館とする。
昭和 60 年 5 月 25 日	甘木歴史資料館開館
昭和 60 年 10 月 1 日	柳川古文書館開館
昭和 63 年 9 月	大宰府史跡発掘調査 20 周年記念特別展「発掘が語る遠の朝廷一大宰府」開催
平成 2 年 9 月	「とびうめ国体」の本県開催に並行し、特別展「古代の福岡」開催（～ 11 月）
平成 5 年 4 月	吉久勝美、第三代館長に就任
平成 5 年 10 月	開館 20 周年記念特別展「日本の鬼瓦」開催
平成 8 年 4 月	高橋良平、第四代館長に就任
平成 8 年 12 月 26 日	公開承認施設（第 51 号）
平成 9 年 6 月	福岡県教育委員会教育長 光安常喜、九州歴史資料館長に兼務発令
平成 10 年 10 月	大宰府史跡発掘調査 30 周年記念特別展「大宰府復元」開催
平成 14 年 4 月	福岡県教育委員会教育長 森山良一、九州歴史資料館長に兼務発令
平成 15 年 1 月	開館 30 周年企画展示「大宰府へ、こころが動き、ものが動く」開催
平成 15 年 8 月	特別展「大宰府へ、ひとが動き、ものが動く」開催
平成 16 年 4 月	特別展「大宰府へ、ぐにが動き、ものが動く」開催
平成 18 年 11 月	特別展「觀世音寺」開催
平成 20 年 4 月	西谷 正、第七代館長に就任 組織規則の一部改正；課制を廃止し、室・班制とする。
平成 20 年 10 月	小郡市三沢に新九州歴史資料館建設工事着手 大宰府史跡発掘調査 40 周年記念事業開催（～ 12 月）

	『都府楼』刊行記念講演会、シンポジウム、企画展示など
平成 21 年 6 月	新九州歴史資料館建設工事竣工
平成 22 年 3 月	特集展示「九歴の歩み」開催
平成 22 年 7 月	組織移転（太宰府市→小郡市）
平成 22 年 11 月 20 日	開館記念式典・一般公開開始（21 日～） 開館記念特別展「大宰府—その栄華と軌跡—」開催（～1 月）
平成 22 年 12 月	開館記念シンポジウム「大宰府と西海道—古代の役所と人々のくらし—」開催
平成 23 年 2 月	常設展公開開始
平成 23 年 4 月	文化財調査室（文化財調査班、保存管理班）設置
平成 23 年 7 月 25 日	登録博物館（第 22 号） 特別展「発掘された日本列島 2011」開催（～12 月）
平成 23 年 11 月	移転開館 1 周年記念企画展「北部九州の靈山と経塚」開催（～2 月）
平成 24 年 10 月	特別展「長崎街道—世界とつながった道—」開催（～12 月）
平成 25 年 1 月	企画展「聖地四王寺山」開催（～3 月）
平成 25 年 4 月	荒巻俊彦、第八代館長に就任 学芸調査室に広報普及班設置、学芸普及班は学芸研究班に名称変更、総務室に総務班設置
平成 25 年 9 月	開館 40 周年・移転開館 3 周年記念特別展 「戦国武将の誇りと祈り—九州の覇権のゆくえ—」開催（～11 月）
平成 25 年 10 月	開館 40 周年・移転開館 3 周年記念イベント開催
平成 26 年 1 月	企画展「五卿と志士—維新前夜の太宰府—」開催（～2 月）
平成 26 年 4 月	杉光 誠、第九代館長就任
平成 26 年 8 月	企画展「黒田官兵衛と城」開催（～9 月） 企画展「水城築堤 1350 年記念企画展「徹底解説 !! 水城のすべて」開催（～9 月）
平成 26 年 10 月	特別展「福岡の神仏の世界—北部九州に華ひらいた信仰と造形—」開催（～11 月）
平成 26 年 11 月	入館者 10 万人達成記念式典
平成 27 年 9 月	企画展「貝原益軒—大宰府研究の先賢たち—」開催（～10 月）
平成 27 年 10 月	大野城築城 1350 年記念・移転開館 5 周年記念特別展 「四王寺山の 1350 年—大野城から祈りの山へ—」開催（～12 月）
平成 27 年 10 月	移転開館 5 周年記念イベント開催
平成 28 年 9 月	特別展「八女の名宝」開催（～11 月）
平成 28 年 11 月	企画展「大宰府の役人と文房具」開催（～1 月）

## （2）施設概要

1) 本 館 棟	鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造、地上 2 階 展示室、図書閲覧室、研修室、会議室、保存科学諸室、文化財整理諸室、特別収蔵庫、図書収蔵庫、調査研究室、写真室、文化情報広場
2) 敷地面積	43,438.62 m <sup>2</sup>
3) 延床面積	9,475.92 m <sup>2</sup>
4) 一般収蔵庫棟	鉄骨造 木器保存処理室・一般収蔵庫

5 建 設 費 約 36 億円（本館・一般収蔵庫）

### ( 3 ) 予 算（平成 28 年度）

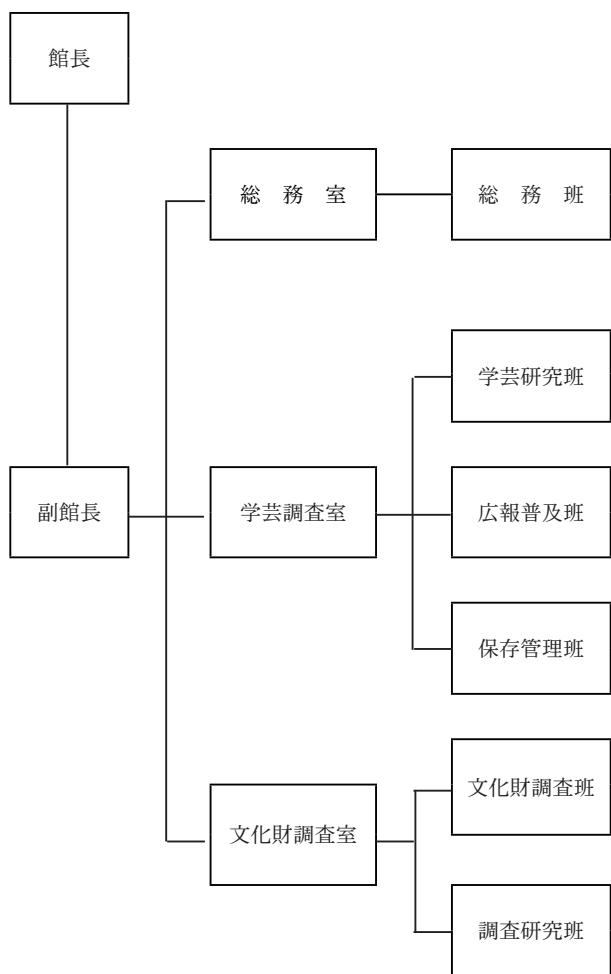
九州歴史資料館の事業費総額は 155, 832 千円で、内訳別にみると次のとおりである。

1 九州歴史資料館費	134, 032 千円
資料館運営費	129, 828 千円
資料館展示費	1, 770 千円
歴史資料等収集整備費	870 千円
歴史資料調査研究費	1, 564 千円
2 文化財保護費	21, 800 千円
大宰府史跡発掘調査費	21, 800 千円

※執行委任事業は除く

## (4) 組織・職員 (平成 28 年 4 月 1 日現在)

### ①九州歴史資料館



所 属	職 名	氏 名	摘 要	
館 長	館 長	杉 光 誠	非常勤	
副館長	副館長	飛野 博文		
総務室	企画主幹	塙塚 孝憲	総務室長	
	企画主査	中村満喜子	総務班長	
	事務主査	西村 知子		
	主任主事	原野 貴生		
	主任主事	秦 健太		
	主 事	甲斐 進也		
	主任技能員	松本 優		
学芸調査室	企画主幹	小田 和利	学芸調査室長	
	技術主査	松川 博一	学芸研究班長	
	技術主査	井形 進		
	技術主査	酒井 芳司		
	技術主査	岡寺 良		
	主任技師	渡部 邦昭		
文化財調査室	参事補佐	齋部 麻矢	広報普及班長	
	指導主事兼事務主査	田口 和秀		
	指導主事兼事務主査	峯 大志		
	技術主査	加藤 和歲	保存管理班長	
	主任技師	小林 啓		
	主任技師	岡田 諭		
調査研究班	企画主幹	吉村 靖徳	文化財調査室長	
	企画主幹	伊崎 俊秋	文化財調査室長補佐	
	文化財調査班	技術主査	秦 憲二	文化財調査班長
		参事補佐	小川 泰樹	
		技術主査	坂本 真一	
	技術主査	小澤 佳憲	調査研究班長	
	技術主査	大庭 孝夫		
	主任技師	下原 幸裕		

### ②九州歴史資料館研究論集委員会

委員長	館 長 杉光 誠	
委 員	副館長 飛野 博文	委 員 学芸研究班長 松川 博一
委 員	学芸調査室長 小田 和利	委 員 調査研究班長 小澤 佳憲

## (5) 関係法規

### ○九州歴史資料館条例

(昭和 60 年 1 月 21 日福岡県条例第 4 号)

最終改正 平成 27 年 12 月 福岡県条例第 63 号  
(設置)

第 1 条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律  
(昭和 31 年法律第 162 号) 第 30 条の規定に基づき、歴史資料の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、併せてこれを展示し、もって文化財の保護と文化財愛護思想の普及に資するため、歴史資料館を設置する。

(名称及び位置並びに分館の設置)

第 2 条 歴史資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
九州歴史資料館	小郡市

2 九州歴史資料館に分館を置き、その名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
求菩提資料館	豊前市
甘木歴史資料館	朝倉市
柳川古文書館	柳川市

(利用の承認等)

第 3 条 福岡県公の施設の設置及び管理に関する条例  
(昭和 39 年福岡県条例第 5 号) 第 3 条から第 6 条まで及び第 9 条の規定は、九州歴史資料館の利用の承認等について適用する。この場合において、第 4 条第 1 項中「知事若しくは委員会から公の施設の管理に関し委任を受けた者」とあるのは、「指定管理者」と読み替えるものとする。

(九州歴史資料館協議会)

第 4 条 博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 20 条第 1 項の規定に基づき、九州歴史資料館協議会(次項及び第 6 項において「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員(以下この条において単に「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命する。

3 委員の定数は、15 人以内とする。

4 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 前各項に定めるものほか、協議会に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(使用料)

第 5 条 九州歴史資料館を利用する者は、別表第 1 各表の区分に応じ、当該各表に掲げる金額の使用料を納めなければならない。

2 前項の規定により納付した使用料は、還付しない。ただし、規則で定める場合に該当するときは、その全部又は一部を還付することができる。

(手数料)

第 6 条 資料の複写を依頼しようとする者は、別表第 2 の区分に応じ、同表に掲げる金額の手数料を納めなければならない。

(使用料又は手数料の減免)

第 7 条 知事は、規則で定める場合に該当するときは、使用料又は手数料を減額し、又は免除することができる。

(適用除外)

第 8 条 前 3 条の規定は、第 2 条第 2 項に規定する分館(以下単に「分館」という。)については、適用しない。

(指定管理者による管理)

第 9 条 分館の管理に関する業務のうち次に掲げるものは、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 244 条の 2 第 3 項の規定により、法人その他の団体であって教育委員会が指定する者(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

一 分館の利用の許可に関する業務

二 分館の諸施設の維持及び保守に関する業務

三 前 2 号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務

(指定管理者の指定の手続)

第 10 条 指定管理者の指定を受けようとする者は、教育委員会規則で定める申請書に、次に掲げる書類を添えて、教育委員会に提出しなければならない。

一 事業計画書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会規則で定める書類

2 教育委員会は、前項の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当する者の中から最も適切に分館の管理を行うことができると認めた者を指定管理者として指定するものとする。

一 事業計画の内容が、住民の平等な利用を確保する

ことができるものであること。

二 事業計画の内容が、分館の効用を最大限に發揮させるとともに、効率的な管理ができるものであること。

三 分館の管理を安定して行うために必要な人員及び財政的基盤を有しているものであること。

四 法令並びに関係条例及び規則の規定を遵守し、適正な管理ができるものであること。

五 その他教育委員会が分館の設置の目的を達成するために必要と認めるものとして別に定める事項

3 教育委員会は、指定管理者の指定をしたとき、及び指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公示するものとする。

(秘密保持義務)

第11条 指定管理者及び分館の管理に関する業務に従事する者（以下「従事者」という。）は、個人情報が適切に保護されるよう配慮するとともに、分館の管理に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、又は指定を取り消され、及び従事者の職務を退いた後においても、同様とする。

(協議)

第12条 この条例に定めるもののほか、管理に要する経費その他必要な事項は、教育委員会と指定管理者が協議して定める。

(規則への委任)

第13条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則（抄）

(施行期日)

この条例は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則（平成27・12・25・条例第63号）

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

別表第1（第5条関係）

1 九州歴史資料館が主催して展示する歴史資料館の観覧料

区分	金額（1回につき）
個人で観覧する場合	一般 200円
	大学生・高校生 150円
20人以上の団体で観覧する場合	一般 150円
	大学生・高校生 100円

備考

1 この表において「大学生・高校生」とは、大学、高等専門学校、高等学校、中等教育学校の後期課程、特別支援学校の高等部、専修学校又はこれらに準ずる

ものに在学する者をいう。

2 この表において「一般」とは、大学生・高校生及び中学生（中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程、特別支援学校の中学校部又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。）以外の者であつて、15歳以上の者をいう。

2 展示室の使用料

区分	金額（1日につき）
入場料を徴収しない場合	第2展示室 3,450円
	第4展示室 8,350円
入場料を徴収する場合	第2展示室 5,170円
	第4展示室 12,520円

3 会議室及び研修室の使用料

区分	金額（1時間につき）
会議室	380円
研修室1	380円
研修室2	380円
研修室3	380円

備考 使用時間に1時間に満たない端数があるときは、当該端数を1時間として計算する。

別表第2（第6条関係）

区分	金額（1枚につき）
電子式複写（白黒）	10円
マイクロフィルムからの引き伸ばし	10円

○九州歴史資料館の利用、指定管理者の指定等に関する規則

（昭和48・2・20 教育委員会規則第4号）

最終改正平成22・6・教育委員会規則第10号

（目的）

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例（昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。）第13条の規定に基づき、九州歴史資料館（以下「資料館」という。）の利用、指定管理者の指定等について定めることを目的とする。

（休館日）

第2条 資料館の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その日後においてその日に最も近い休日でない日

二 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、九州歴史資料館長等（分館にあっては指定管理者。以下「館長等」という。）が必要と認めた場合は、臨時に休館又は開館することができる。ただし、この場合は、館長等がその都度あらかじめ日時を公示しなければならない。

3 前項の規定により、指定管理者が分館を臨時に休館又は開館しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。

#### (開館時間)

第3条 資料館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、入館は、午後4時までとする。

2 館長等は、特別の事情があるときは、前項に規定する開館時間を変更することができる。

3 前項の規定により、指定管理者が分館の開館時間を変更しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。

#### (利用の申込)

第4条 資料館（分館を除く。）の展示室、会議室及び研修室を利用しようとする者は、別に定める利用申込書を、事前に九州歴史資料館長に提出しなければならない。

#### (利用申込の取消又は変更)

第5条 前条の申込みをした者が、利用を中止し、又は利用内容を変更しようとするときは、直ちに九州歴史資料館長にその旨を通知しなければならない。

#### (利用の承認)

第6条 九州歴史資料館長は、第4条の使用申込が提出されたときは、速やかにこれを審査して使用の承認又は不承認を決定し、申込者に通知しなければならない。

#### (資料の複写)

第7条 資料の複写を必要とする場合は、九州歴史資料館長が別に定めるところにより、これを依頼することができる。ただし、次の各号の一に該当する場合は、九州歴史資料館長は、複写を認めないことがある。

一 著作権法（昭和45年法律第48号）に違反するおそれがあると認められるとき。

二 資料館の管理上支障があると認められるとき。

三 その他九州歴史資料館長が複写を不適当と認めたとき。

2 前項の複写は、九州歴史資料館に設置された複写機器により行うものとする。

#### (利用制限)

第8条 館長等は、次の各号の一に該当すると認めら

れる者については、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

一 他人に迷惑をかけ、展示品又は施設設備を損傷するおそれがあると認められる者

二 その他係員の指示に従わない者

#### (資料の館外貸出し)

第9条 資料の館外貸出しは、原則として行なわないものとする。ただし、博物館、図書館、学校、官公署、その他館長等が適当と認めたものに対しては、この限りでない。

2 前項ただし書に掲げるものが資料の館外貸出を受けようとする場合は、別に定めるところにより、館長等の許可を受けなければならない。

3 資料の館外貸出しを受けたものは、館長等の指示するところにより、管理に当らなければならない。

4 館外貸出しを受けた資料は、これを他に転貸してはならない。

5 資料の貸出期間は、品目によって館長等がその都度定めるものとする。

#### (損害の賠償)

第10条 観覧者、利用者又は資料の館外貸出しを受けたものが、自己の責に帰すべき理由により、施設設備、展示品又は資料を損傷し、又は滅失したときは、館長等の指示を受けてこれを原形に復し、又は館長等が定める相当の代価をもって損害を賠償しなければならない。

#### (寄贈又は寄託)

第11条 資料館は、資料の寄贈又は寄託をうけることができる。

2 資料館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、別に定めるところにより、館長等にその旨申出るものとする。

3 館長等が寄贈又は寄託を受けることを決定した場合は、本人にこの旨を通知するものとする。

#### (寄贈資料の取扱い)

第12条 寄贈を受けた資料には、寄贈者の氏名及び寄贈年月日を標記し、永くその篤志を伝えるものとする。

#### (寄託資料の取扱い)

第13条 寄託を受けた資料（以下「寄託資料」という。）の寄託期間は、その都度館長等が寄託者と協議して定めるものとする。

2 寄託資料は、資料館所蔵の資料と同一の取扱いとする。

3 寄託資料は、寄託者の請求又は資料館の都合によ

りこれを返還することがある。

4 寄託資料が天災その他不可抗力によって滅失又は損傷したときは、資料館は損害賠償の責を負わない。

(申請書及び添付書類)

第14条 条例第10条第1項の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第10条第1項第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げる書類とする。

一 同種の施設の管理及び運営に係る活動実績報告書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして別に定める書類

(その他)

第15条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、館長等が別に定める。

附 則

この規則は、昭和48年2月24日から施行する。

附 則(平成22・6・30教育委員会規則第10号)

この規則は、平成22年7月1日から施行する。

○九州歴史資料館組織規則

(昭和47.4.1教育委員会規則第2号)

最終改正:平成23.3.教育委員会規則第2号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第3条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の組織その他必要な事項を定めるものとする。

(職員の職)

第2条 資料館職員の職として、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

館 長	教育長の命を受け、資料館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副理事	上司の特命に係る事務を処理する。
副館長	館長を補佐し、館長が不在のとき又は館長が欠けたときは、その職務を代理する。
参 事	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
参事補佐	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
企画主幹	上司の命を受け、企画・調整等に関する事務に関し、館長又は副館長を補佐する。
指導主事	上司の命を受け、学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
社会教育主事	上司の命を受け、社会教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
企画主査	上司の命を受け、調査、計画立案等の事務を処理する。
事務主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、事務を処理する。

技術主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、技術を処理する。
主任主事	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項を処理する。
主任技師	上司の命を受け、複雑な事務をつかさどる。
主 事	上司の命を受け、複雑な技術をつかさどる。
技 師	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的専門的事項をつかさどる。
主任技能員	上司の命に従い、高度な技能を要する労務に従事する。
技能員	上司の命に従い、労務に従事する。

(所掌事務)

第3条 資料館の所掌事務は、次のとおりとする。

一 古文書、典籍等の収集、保管、調査及び研究に関する事。

二 美術工芸品、民俗資料等の収集、保管、調査及び研究に関する事。

三 古文書、典籍、美術工芸品、民俗資料等の展示及び文化財愛護思想の普及に関する事。

四 考古資料の収集、保管、調査及び研究に関する事。

五 考古資料の展示に関する事。

六 歴史資料の科学的保存処理に関する事。

七 史跡の発掘調査及び研究に関する事。

八 史跡に関する歴史資料の収集、保管、調査、研究、展示及び整備に関する事。

九 公印の管守並びに職員の身分及び服務並びに文書の收受、発送、編集及び保存、公文書の開示等に関する事。

十 予算並びに税外諸収入の収入並びに経費の支出並びに物品の出納及び保管並びに現金及び有価証券等の保管に関する事。

十一 九州歴史資料館協議会に関する事。

十二 職員の研修及び福利厚生に関する事。

十三 施設設備の管理に関する事。

十四 埋蔵文化財の発掘調査受託事業等の事務に関する事。

十五 埋蔵文化財の発掘調査に関する事。

(補則)

第4条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

#### 附 則

この規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

#### ○九州歴史資料館協議会規則

(昭和 60. 3. 30 教育委員会規則第 4 号)

最終改正 平成 24. 3. 教育委員会規則第 1 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、九州歴史資料館条例（昭和 60 年福岡県条例第 4 号）第 4 条第 1 項に規定する九州歴史資料館協議会（以下「協議会」という。）の運営に關し、必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第 2 条 協議会に、会長及び副会長各 1 名を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によるものとし、任期は 1 年とする。ただし、再選することができる。

3 会長は、会務を總理する。

4 副会長は、会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議の招集)

第 3 条 協議会の会議は、必要に応じ、会長が招集する。

2 資料館の館長は、必要と認めるときは、会長に協議会の招集を求めることができる。

(議決)

第 4 条 協議会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開き議決することができない。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第 5 条 協議会の庶務は、九州歴史資料館において処理する。

(補則)

第 6 条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営及び会議に關し必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

附 則（抄）

(施行期日等)

1 この規則は、昭和 60 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日の前日において九州歴史資料館協議会委員に任命されている者については、別に辞令が発せられない限り改正後の九州歴史資料館協議会規則（以下「改正後の規則」という。）第四条の規定により任命されたものとみなし、当該委員の期間は改

正後の規則第五条の規定による委員の期間に通算する。

附則（平成 24. 3. 2 80 教育委員会規則第 1 号）

(施行期日)

この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

#### ○九州歴史資料館の使用料及び手数料に関する規則

(平成 22. 6. 30 福岡県規則第 30 号)

最終改正 平成 28. 3. 規則第 15 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、九州歴史資料館条例（昭和 60 年福岡県条例第 4 号。以下「条例」という。）に規定する九州歴史資料館（以下「資料館」という。）の使用料及び手数料に關し必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収時期)

第 2 条 使用料（条例第 5 条第 1 項の使用料をいう。以下同じ。）は、資料館の利用の承認の際に徴収する。ただし、国又は地方公共団体が利用する場合にあっては、当該利用の後に徴収することができる。

(使用料の還付)

第 3 条 条例第 5 条第 2 項ただし書の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額（その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額）とする。

一 天災地変その他資料館の利用の承認を受けた者の責めに帰することができない場合 当該利用に係る使用料の全額

二 前号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合

知事が必要と認める額

(手数料の徴収時期)

第 4 条 手数料（条例第 6 条の手数料をいう。以下同じ。）は、資料の複写の依頼を受けるときに徴収する。

(使用料及び手数料の減免)

第 5 条 条例第 7 条の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合とし、同条の規定により減額又は免除（以下「減免」という。）をする使用料又は手数料の額は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額（その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額）とする。

一 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の生徒が教育上の目的のために教職員に引率されて観覧（資料館が主催して展示する歴史資料の観覧をいう。以下同じ。）をする場合 当該観覧に係る観覧料（条例別表第一の一の表の観覧料をいう。以下同じ。）の全

額

- 二 学校教育法に規定する幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校又は特別支援学校の児童、生徒を教育上の目的のために引率する教職員が観覧をする場合当該観覧に係る観覧料の全額
- 三 児童福祉施設（児童福祉法（昭和 22 年法律第 164 号）第 7 条第 1 項に規定するものをいう。以下同じ。）に入所又は通所している少年（同法第 4 条第 3 号に規定する少年をいう。以下同じ。）が教育上の目的のために児童福祉施設の職員に引率されて観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 四 児童福祉施設に入所又は通所している児童（同法第 4 条第 2 号に規定する児童をいう。）又は少年を教育上の目的のために引率する児童福祉施設の職員が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 五 学校教育法に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 六 身体障害者福祉法（昭和 24 年法律第 283 号）第 15 条に規定する身体障害者手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 七 療育手帳制度要綱（昭和 48 年 9 月 27 日厚生省発児第 156 号）に規定する療育手帳（以下単に「療育手帳」という。）の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 八 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和 25 年法律第 123 号）第 45 条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 九 福岡県男女共同参画センター、福岡県人権啓発情報センター及び福岡県総合福祉センターの設置及び管理に関する条例施行規則（平成 8 年福岡県規則第 55 号）第 9 条第 5 号に規定する身体障害者、療育手帳の交付を受けている者又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行令（昭和 25 年政令第 155 号）第 6 条第 3 項に規定する 1 級若しくは 2 級の精神障害者（以下「障害者」と総称する。）の介護人が当該障害者とともに観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 十 65 歳以上の者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 十一 県又は県教育委員会の主催する行事の用に供す

るため、入場料を徴収して展示室、会議室又は研修室（以下「展示室等」という。）の使用をする場合 当該使用に係る使用料の 50 パーセントに相当する額

十二 前号の用に供するため、入場料を徴収しないで展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額

十三 学校教育法第 1 条に規定する学校が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額

十四 地方公共団体が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額

十五 県の機関が資料の複写を依頼する場合 当該複写に係る手数料の全額

十六 前各号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合 知事が必要と認める額

（減免の申請）

第 6 条 前条第一号から第四号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する引率をする者は、九州歴史資料館観覧料免除申請書（様式第 1 号）を知事に提出しなければならない。

2 前条第五号から第十号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する者（前条第九号に該当する場合にあっては、障害者）は、これらの号に該当することを証明することができる書類を資料館の職員に提示しなければならない。

3 前条第十一号から第十四号までのいずれかに該当する場合の使用料の減免を受けようとする者は、九州歴史資料館使用料減免申請書（様式第 2 号）を知事に提出しなければならない。

4 前条第十五号に該当する場合の手数料の免除を受けようとする者は、九州歴史資料館複写手数料免除申請書（様式第 3 号）を知事に提出しなければならない。

5 前条第十六号に該当する場合の使用料又は手数料の減免を受けようとする者は、別に指示する方法により申請しなければならない。

附 則

この規則は、平成 22 年 7 月 1 日から施行する。

附 則（平成 28・3・18 規則第 15 号）

この規則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

### 3 諸 統 計

#### (1) 入館者状況

##### ア 平成 28 年度入館者状況

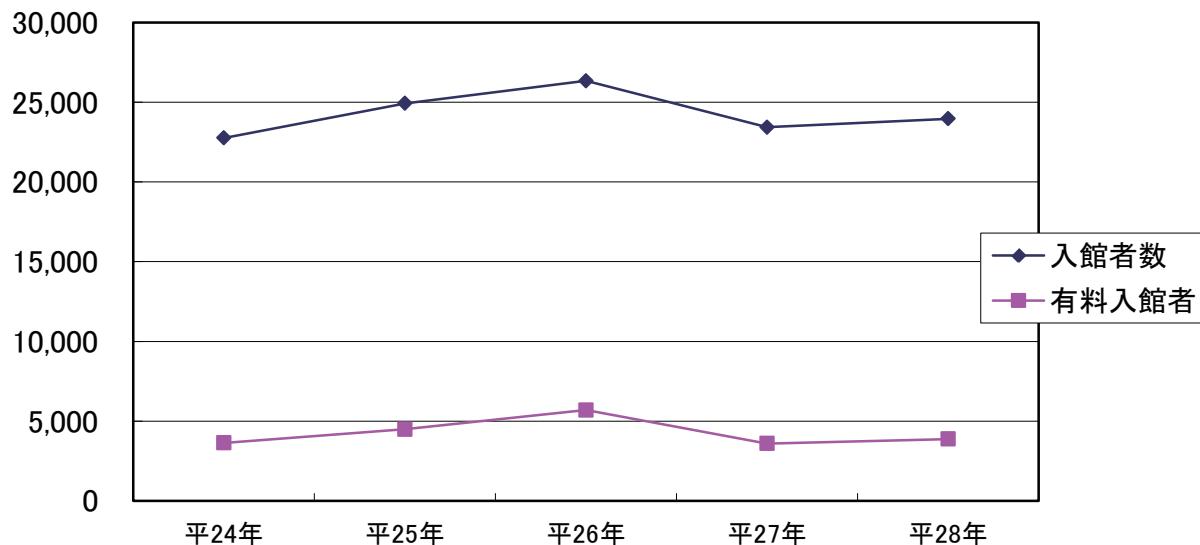
期 間	開館日数	入館者数	1 日平均入館者数
平成 28 年 4 月 1 日から 平成 29 年 3 月 31 日まで	307 日	23,962 人	78 人

##### イ 過去 5 年間の入館者状況

年 度 区 分	開 館 日 数	合 計 入館者数	合 計 有料入館者数	合 計 入 館 者 内 訳			1 日平均 入館者数
				大 人	高 大 生	中 学 生 以 下	
平成 24 年度	306	22,767	3,596	19,237	460	3,070	74
平成 25 年度	305	24,926	4,485	21,168	507	3,251	82
平成 26 年度	309	26,343	5,686	22,450	741	3,152	85
平成 27 年度	307	23,435	3,589	18,750	744	3,941	76
平成 28 年度	307	23,962	3,869	19,764	551	3,647	78

##### ウ 過去 5 年間の入館者推移

単位・人



#### (2) 収蔵資料・図書

##### <寄贈等資料>

考古資料	287,260 点
歴史資料	111,719 点

##### <図 書>

購 入	4,588 冊
寄 贈	164,295 冊

## 4日誌抄

月 日	内 容
平成 28 年 3 月 1 日 (火)	企画展「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくりー」(～7月 18 日 (月))
15 日 (火)	九歴ボランティアグループ活動成果展 (～5月 15 日 (日))
23 日 (水)	パネル展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2015～2016」(～6月 19 日 (日))
4 月 3 日 (日)	桜コンサート
5 月 1 日 (日)	九歴ボランティアイベント「おりがみでカブト！ぎっちょで遊ぼう」
5 日 (木)	小郡高等学校琴部 九州歴史資料館演奏会
23 日 (月)	文化財安全パトロール
6 月 21 日 (火)	パネル展「シルクロードの文化遺産 (I) オアシスの道」(～9月 4 日 (日))
24 日 (金)	埋蔵文化財安全衛生講習会
7 月 3 日 (日)	きゅうれき七タイイベント
12 日 (火)	特集展示「新収蔵品展示 絵葉書にみる福岡の風景」(9月 11 日 (日))
20 日 (水)	企画展「発掘速報展 2016」(～9月 19 日 (月))
21 日 (木)	なるほど！こども歴史教室「木簡＝もっかんを作つてみよう！」
27 日 (水)	先生とつくる博学連携ワークショップ
31 日 (日)	こども考古学体験教室
8 月 2 日 (火)	九州歴史資料館協議会
3 日 (水)	ナイトミュージアム in きゅうれき 夏
19 日 (金)	九歴ボランティアイベントこども組紐教室
9 月 22 日 (木)	特別展「八女の名宝」(～11月 13 日 (日)) 文化財めぐりバスツアー「岩戸山古墳と五條家をたずねる」
27 日 (火)・28 日 (水)	大宰府史跡調査研究指導委員会
10 月 1 日 (土)	大宰府史跡（蔵司地区）発掘調査現地説明会
15 日 (土)	特別展開催記念イベント アクロスマュージアムコンサート
16 日 (日)	特別展開催記念茶会（小郡市文化協会裏千家共催）・八女市物販
23 日 (日)	特別展開催記念講演会「対外関係から見た磐井の乱」
25 日 (火)	パネル展「福岡鉄道遺産ものがたり 4 ー北九州地区編ー」(～1月 22 日 (日))
29 日 (土)	教員のための博物館の日 in 九歴
11 月 15 日 (火)	パネル展「薩摩塔と尊像たち」(～3月 20 日 (月))
23 日 (水)	企画展「大宰府史跡みどころ展 Part. 2『大宰府の役人と文房具』」(～1月 15 日 (日)) 特集展示「赤い土器ー弥生時代の甕棺墓祭祀と丹塗磨研土器ー」(～1月 15 日 (日))
12 月 18 日 (日)	「蠟燭で作るマイキャンドル」(三沢遺跡の森を育む会共催事業)
平成 29 年 1 月 5 日 (木)	特集展示「新春酉歳企画『鳥』」(～2月 19 日 (日))
6 日 (金)	ナイトミュージアム in きゅうれき 冬
11 日 (水)	九歴講座関連展示「甘木絞りの基礎知識」(～3月 12 日 (日))
17 日 (火)	企画展「筑後川北岸の古代遺跡」(～3月 20 日 (月))
24 日 (火)	パネル展「石に込められた願いー朝倉（旧甘木市内）の石造文化財調査よりー」(～3月 5 日 (日))
2 月 26 日 (日)	九歴ボランティアイベント「MYおひなさまと組紐ストラップ」
3 月 5 日 (日)	イベント「神話の世界～朗読・神楽×太鼓」
7 日 (火)	パネル展「ちくし再発見～うつりゆく風景～」(～3月 20 日 (月))
18 日 (土)	シンポジウム「古墳時代の対外交流と筑紫ー渡来人と馬・須恵器ー」
22 日 (水)	企画展「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくりー」(～7月 30 日 (日)) パネル展「船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2016－2017」(～6月 18 日 (日))

福岡県行政資料	
分類記号 J H	所属コード 2117104
登録年度 29	登録番号 0001

九州歴史資料館年報（平成 28 年度）

発 行 日 平成 29 年 8 月 日  
編集・発行 九州歴史資料館  
〒 838-0106  
福岡県小郡市三沢 5208-3  
TEL 0942-75-9575  
FAX 0942-75-7834

ANNUAL BULLETIN  
OF  
KYUSHU HISTORICAL MESEUM  
2016

## CONTENTS

## Preface

1	2016 Report of Kyushu Historical Museum .....	1
(1)	Survey and Research .....	1
(2)	Exhibition .....	18
(3)	Item Available .....	29
(4)	Study Support/Museum,school Cooperation .....	37
(5)	Volunteer .....	43
(6)	Dissemination/ Utilization .....	46
(7)	Public Relations Activities .....	57
(8)	Practice and Training Opportunities .....	59
(9)	Published matter .....	60
(10)	Interchange .....	61
(11)	Conference and Meeting Facilities .....	62
2	Organization of Kyushu Historical Museum .....	63
(1)	History .....	63
(2)	Building and Grounds .....	64
(3)	Budget .....	65
(4)	Organization Chart and Staff .....	66
(5)	Rules and Regulations .....	67
3	Statistics of Kyushu Historical Museum .....	73
(1)	Museum Visitors .....	73
(2)	Total Materials and Books .....	73
4	Outline of 2016 Activities .....	74